

資料

系列別主要劇場

劇場名	席数	仕様	劇場名	席数	仕様
伝統演劇系列					
国立劇場(大)	1,616	【大】	東京グローブ座	595～713	【中】
国立劇場(小)	526	【中】	スペース・ゼロ	575	【中】
国立文楽劇場	731～751	【中】	新神戸オリエンタル劇場	639	【中】
国立能楽堂	627	【中】	シアター・ドラマシティ	898	【中】
国立劇場おきなわ	578～632	【中】	現代演劇系列Ⅲ		
歌舞伎座	1,808	【大】	紀伊國屋ホール	416	【小】
大劇場演劇系列			紀伊國屋サザンシアター	468	【小】
新橋演舞場	1,428	【大】	博品館劇場	381	【小】
明治座	1,368	【大】	俳優座劇場	300	【小】
中日劇場	1,444	【大】	両国シアターX	172～300	【小】
京都南座	1,082	【大】	本多劇場	386	【小】
大阪松竹座	1,090	【大】	ザ・スズナリ	200	【小】
大阪新歌舞伎座	1,453～1,529	【大】	下北沢駅前劇場	200	【小】
梅田芸術劇場 メインホール	1,905	【大】	OFF・OFFシアター	100	【小】
博多座	1,392～1,474	【大】	下北沢「劇」小劇場	130	【小】
現代演劇系列Ⅰ(国公立系)			シアター・モリエール	186	【小】
新国立劇場(中)	1,010～1,038	【大】	シアター・サンモール	294	【小】
新国立劇場(小)	416～468	【小】	こまばアゴラ劇場	60～130	【小】
東京芸術劇場 プレイハウス	834	【中】	ミュージカル演劇系列		
東京芸術劇場 シアターイースト	286	【小】	TBS赤坂ACTシアター	1,324	【大】
東京芸術劇場 シアターウエスト	259	【小】	日生劇場	1,330	【大】
世田谷パブリックシアター	600	【中】	帝国劇場	1,826	【大】
シアタートラム	240	【小】	宝塚大劇場	2,550	【大】
彩の国さいたま芸術劇場(大)	776	【中】	東京宝塚劇場	2,069	【大】
彩の国さいたま芸術劇場(小)	346	【小】	宝塚バウホール	500	【中】
ピッコロシアター(大)	396	【小】	四季劇場「春」	1,255	【大】
兵庫県立芸術文化センター(中)	800	【中】	四季劇場「秋」	907	【大】
あうるすぽっと	301	【小】	電通四季劇場「海」	1,216	【大】
座・高円寺1	238	【小】	四季劇場「夏」	1,200	【大】
座・高円寺2	256～298	【小】	自由劇場	500	【中】
神奈川芸術劇場 ホール	1,300	【大】	大阪四季劇場	1,119	【大】
現代演劇系列Ⅱ			チャンネルシティ劇場	1,144	【大】
シアタークリエ	611	【中】	名古屋四季劇場	約1,200	【大】
三越劇場	543	【中】	北海道四季劇場	994	【大】
サンシャイン劇場	832	【中】			
シアターコクーン	747	【中】			
天王洲銀河劇場	746	【中】			

上の内、大劇場は900席以上、中劇場は899～500席、小劇場は499席以下という基準で規定した。各流能楽堂、新国立劇場(大)、東京芸術劇場(大)、オーチャードホール、日本青年館は除いた。

※(公社)日本演劇興行協会所属劇場：歌舞伎座 新橋演舞場 明治座 中日劇場 南座 松竹座
新歌舞伎座 梅田芸術劇場 博多座 シアタークリエ サンシャイン劇場 帝国劇場

※中劇場協議会所属劇場：三越劇場 サンシャイン劇場 シアターコクーン 天王洲銀河劇場
紀伊國屋ホール 紀伊國屋サザンシアター 博品館劇場 俳優座劇場 両国シアターX
本多劇場 シアターサンモール

2018年松竹株式会社主催公演

会場・劇場	上演作品	公演期間	回数
歌舞伎座	「歌舞伎座百三十年 壽初春大歌舞伎」※1	1/ 2～ 1/26	50
歌舞伎座	「歌舞伎座百三十年 二月大歌舞伎」※1	2/ 1～ 2/25	50
歌舞伎座	「歌舞伎座百三十年 三月大歌舞伎」	3/ 3～ 3/27	50
歌舞伎座	「歌舞伎座百三十年 四月大歌舞伎」	4/ 2～ 4/26	50
歌舞伎座	「歌舞伎座百三十年 十二世市川團十郎五年祭 團菊五月大歌舞伎」	5/ 2～ 5/26	50
歌舞伎座	「歌舞伎座百三十年 六月大歌舞伎」	6/ 2～ 6/26	50
歌舞伎座	「歌舞伎座百三十年 七月大歌舞伎」	7/ 5～ 7/29	46
歌舞伎座	「歌舞伎座百三十年 八月納涼歌舞伎」	8/ 9～ 8/27	57
歌舞伎座	「歌舞伎座百三十年 秀山祭九月大歌舞伎」	9/ 2～ 9/26	50
歌舞伎座	「歌舞伎座百三十年 十八世中村勘三郎追善 芸術祭十月大歌舞伎」	10/ 1～10/25	50
歌舞伎座	「歌舞伎座百三十年 吉例顔見世大歌舞伎」	11/ 2～11/26	50
歌舞伎座	「歌舞伎座百三十年 十二月大歌舞伎」	12/ 2～12/26	50
新橋演舞場	「初春歌舞伎公演」	1/ 3～ 1/26	45
新橋演舞場	「二月喜劇名作劇場 喜劇有頂天一座」	2/ 1～ 2/12	18
新橋演舞場	「江戸は燃えているか」	3/ 3～ 3/26	30
新橋演舞場	「滝沢歌舞伎2018」	4/ 5～ 5/13	52
新橋演舞場	「蘭RAN 緒方洪庵浪華の事件帳」	5/16～ 5/20	9
新橋演舞場	熱海五郎一座「船上のカナリアは陽気な不協和音」	6/ 1～ 6/28	37
新橋演舞場	「OSK日本歌劇団 レビュー夏のおどり」	7/ 5～ 7/ 9	9
新橋演舞場	「劇団創立70周年記念公演 松竹新喜劇」	7/13～ 7/22	19
新橋演舞場	「春風亭小朝 夏の独演会」	7/23	1
新橋演舞場	「新作歌舞伎 NARUTO」	8/ 4～ 8/27	38
新橋演舞場	「オセロー」	9/ 2～ 9/26	38
新橋演舞場	「浪漫活劇 るろうに剣心」	10/11～11/ 7	34
新橋演舞場	「新派百三十年 十一月新派特別公演 犬神家の一族」	11/14～11/25	20
新橋演舞場	「喜劇名作劇場 喜劇有頂天団地」	12/ 1～12/22	33
新橋演舞場	「第二回 春風亭小朝独演会 in 新橋演舞場」	12/ 7	1
新橋演舞場	「舟木一夫シアターコンサート in 新橋演舞場」	12/23～ 12/25	5
浅草公会堂	「新春浅草歌舞伎」	1/ 2～ 1/26	49
三越劇場	「初春新派公演家族はつらいよ」	1/ 2～ 1/25	38
三越劇場	「六月花形新派公演黒蜥蜴 全美版」	5/ 9～ 5/31	36
日生劇場	「少年たち そして、それから…」	9/ 7～ 9/28	33
シアターコクーン	「渋谷・コクーン歌舞伎 切られの与三」	5/ 9～ 5/31	36
平成中村座	「十七世中村勘三郎追善 平成中村座十一月大歌舞伎」	11/ 1～11/26	46
大阪松竹座	「坂東玉三郎初春特別舞踊公演」	1/ 2～ 1/26	24
大阪松竹座	「泣いたらアカンで通天閣」	2/ 1～ 2/10	18
大阪松竹座	「春之輔改め四代目桂春團治襲名披露公演」	2/11	2
大阪松竹座	「2月喜劇名作劇場 喜劇有頂天一座」	2/16～ 2/23	13
大阪松竹座	「関西ジャニーズJr. 春休みスペシャルShow2018」	3/ 1～ 3/24	34
大阪松竹座	スーパー歌舞伎II「ワンピース」	4/ 1～ 4/25	40
大阪松竹座	「蘭RAN 緒方洪庵浪華の事件帳」	5/ 6～ 5/13	14
大阪松竹座	「OSK日本歌劇団 レビュー春のおどり」	5/19～ 5/27	16
大阪松竹座	「音楽劇マリウス」	6/ 8～ 6/26	30
大阪松竹座	「七月大歌舞伎 関西・歌舞伎を愛する会 第二十七回」※2	7/ 3～ 7/27	50
大阪松竹座	「関西ジャニーズJr. 明日を駆ける少年たち」	8/ 4～ 8/30	37

会場・劇場	上演作品	公演期間	回数
大阪松竹座	「劇団創立70周年記念公演 松竹新喜劇」	9/ 3～ 9/12	18
大阪松竹座	「十月大歌舞伎」※3	10/ 2～10/26	50
大阪松竹座	「新派百三十年 十一月新派特別公演 犬神家の一族」	11/ 1～11/10	16
大阪松竹座	「浪漫活劇 るろうに剣心」	11/15～11/24	15
大阪松竹座	「関西ジャニーズJr.X'mas Party !! 2018」	11/30～12/25	35
京都南座	南座発祥四百年 南座新開場記念 京の年中行事 當る亥歳「吉例顔見世興行 東西合同大歌舞伎」※1	11/ 1～11/25	50
京都南座	南座発祥四百年 南座新開場記念 白井松次郎 大谷竹次郎追善 京の年中行事 當る亥歳「吉例顔見世興行 東西合同大歌舞伎」	12/ 1～12/25	52

- ※1 松本幸四郎改め二代目松本白鸚
市川染五郎改め十代目松本幸四郎 襲名披露
松本金太郎改め八代目市川染五郎
- ※2 松本幸四郎改め二代目松本白鸚
市川染五郎改め十代目松本幸四郎 襲名披露
- ※3 市川右之助改め二代目市川齊入
市川右近改め三代目市川右團次 襲名披露

2018年東宝株式会社主催公演

会場・劇場	上演作品	公演期間	回数
帝国劇場	JOHNNYS' HAPPY NEW YEAR IsLAND	1/ 1～ 1/27	36
帝国劇場	Endless SHOCK	2/ 4～ 3/31	70
帝国劇場	1789	4/ 9～ 5/12	44
帝国劇場	モーツァルト！	5/26～ 6/28	44
帝国劇場	ナイツ・テイル	7/25～ 8/29	45
帝国劇場	DREAM BOYS	9/ 6～ 9/30	34
帝国劇場	マリー・アントワネット	10/ 8～11/25	63
帝国劇場	JOHNNYS' King&Prince IsLAND	12/ 6～12/30	32
シアタークリエ	TENTH	1/ 4～ 1/31	36
シアタークリエ	FUN HOME	2/ 7～ 2/26	26
シアタークリエ	レジェンド・オブ・ミュージカル	2/15	1
シアタークリエ	マディソン郡の橋	3/ 2～ 3/21	26
シアタークリエ	GEM CLUB II	3/24～ 4/ 5	18
シアタークリエ	火星の二人	4/10～ 4/25	20
シアタークリエ	ジャニーズ銀座	4/29～ 6/ 3	52
シアタークリエ	シークレット・ガーデン	6/11～ 7/11	39
シアタークリエ	大人のけんかが終わるまで	7/14～ 7/29	20
シアタークリエ	ゴースト	8/ 5～ 8/31	35
シアタークリエ	ジャージー・ボーイズ	9/ 7～10/ 3	34
シアタークリエ	おもろい女	10/ 8～10/29	29
シアタークリエ	ピアフ	11/ 4～12/ 1	30
シアタークリエ	オン・ユア・フィート！	12/ 8～12/30	30
シアタークリエ	レジェンド・オブ・ミュージカルVol.3	12/14	1
日生劇場	ブロードウェイと銃弾	2/ 7～ 2/28	30
日生劇場	ラ・カージュ・オ・フォール	3/ 9～ 3/31	28
日生劇場	リトル・ナイト・ミュージック	4/ 8～ 4/30	27
日生劇場	市村座	5/ 3～ 5/ 6	5
日生劇場	シラノ・ド・ベルジュラック	5/15～ 5/30	21
日生劇場	ABC座 ジャニーズ伝説2018	10/ 7～10/29	34
東京国際フォーラム	マタ・ハリ	2/ 3～ 2/18	20
東京国際フォーラム	ジキル&ハイド	3/ 3～ 3/18	21
東急シアターオーブ	メリー・ポピンズ	3/18～ 5/ 7	69
東急シアターオーブ	ジャージー・ボーイズ・イン・コンサート	5/12～ 5/13	4
東急シアターオーブ	マイ・フェア・レディ	9/16～ 9/30	20
シアター1010	年中無休！	7/26～ 8/ 6	17
東京芸術劇場プレイハウス	キス・ミー・ケイト	7/ 3～ 7/ 8	7
赤坂ACTシアター	生きる	10/ 7～10/28	27

2018年宝塚歌劇団主催公演

会場	組	演目	期間	回数
宝塚大劇場	花組	『ポーの一族』	1/ 1～ 2/ 5	50
宝塚大劇場	月組	『カンパニー -努力、情熱、そして仲間たち-』『BADDY-悪党は月からやって来る-』	2/ 9～ 3/12	45
宝塚大劇場	宙組	『天は赤い河のほとり』『シトラスの風 - Sunrise -』	3/16～ 4/23	54
宝塚大劇場	星組	『ANOTHER WORLD』『Killer Rouge』	4/27～ 6/ 4	54
宝塚大劇場	雪組	『凱旋門』『Gato Bonito!』	6/ 8～ 7/ 9	45
宝塚大劇場	花組	『MESSIAH -異聞・天草四郎-』『BEAUTIFUL GARDEN -百花繚乱-』	7/13～ 8/20	54
宝塚大劇場	月組	『エリザベート -愛と死の輪舞-』	8/24～10/ 1	54
宝塚大劇場	宙組	『白鷺の城』『異人たちのルネサンス』	10/ 5～11/ 5	45
宝塚大劇場	雪組	『ファントム』	11/ 9～12/14	50
東京宝塚劇場	雪組	『ひかりふる路～革命家、マクシミリアン・ロベスピエール～』『SUPER VOYAGER!』	1/ 2～ 2/11	59
東京宝塚劇場	花組	『ポーの一族』	2/16～ 3/25	54
東京宝塚劇場	月組	『カンパニー -努力、情熱、そして仲間たち-』『BADDY-悪党は月からやって来る-』	3/30～ 5/ 6	54
東京宝塚劇場	宙組	『天は赤い河のほとり』『シトラスの風 - Sunrise -』	5/11～ 6/17	54
東京宝塚劇場	星組	『ANOTHER WORLD』『Killer Rouge』	6/22～ 7/22	44
東京宝塚劇場	雪組	『凱旋門』『Gato Bonito!』	7/27～ 9/ 2	54
東京宝塚劇場	花組	『MESSIAH -異聞・天草四郎-』『BEAUTIFUL GARDEN -百花繚乱-』	9/ 7～10/14	54
東京宝塚劇場	月組	『エリザベート -愛と死の輪舞-』	10/19～11/18	44
東京宝塚劇場	宙組	『白鷺の城』『異人たちのルネサンス』	11/23～12/24	45
宝塚パウホール	雪組	『義経妖狐夢幻桜』	3/29～ 4/ 9	18
宝塚パウホール	花組	『Senhor CRUZEIRO!』	5/10～ 5/21	18
宝塚パウホール	月組	『愛聖女 - Sainte♡d'Amour -』	7/ 1～ 7/ 7	9
宝塚パウホール	宙組	『ハッスル メイツ!』	8/ 2～ 8/13	18
宝塚パウホール	星組	『New Wave! -星-』	8/27～ 9/ 8	18
宝塚パウホール	星組	『デビュタント』	10/11～10/22	17
梅田芸術劇場メインホール	宙組	『WEST SIDE STORY』	7/24～ 8/ 9	26
梅田芸術劇場メインホール	星組	『Thunderbolt Fantasy 東離劍遊紀』『Killer Rouge/星秀☆煌紅』	8/31～ 9/ 6	11
梅田芸術劇場メインホール	-	タカラヅカスペシャル2018 Say! Hey! Show Up!!』	12/21～12/22	4
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	宙組	『不滅の棘』	1/ 7～ 1/15	13
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	星組	『ドクトル・ジバゴ』	2/ 4～ 2/13	15
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	月組	『THE LAST PARTY～S.Fitzgerald's last day～』	6/30～ 7/ 8	14
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	花組	『蘭陵王 - 美しすぎる武将 -』	11/20～11/28	13
東京国際フォーラム	宙組	『WEST SIDE STORY』	1/12～ 1/25	22
TBS赤坂ACTシアター	星組	『ドクトル・ジバゴ』	2/20～ 2/26	11
TBS赤坂ACTシアター	月組	『雨に唄えば』	6/16～ 7/ 4	28
日本青年館ホール	宙組	『不滅の棘』	1/23～ 1/29	11
日本青年館ホール	月組	『THE LAST PARTY～S.Fitzgerald's last day～』	6/14～ 6/20	11
日本青年館ホール	星組	『Thunderbolt Fantasy 東離劍遊紀』『Killer Rouge/星秀☆煌紅』	9/13～ 9/24	18
舞浜アンフィシアター	花組	『Delight Holiday』	11/30～12/ 9	15
KAAT神奈川芸術劇場	花組	『蘭陵王 - 美しすぎる武将 -』	12/ 4～12/10	11
中日劇場	星組	『うたかたの恋』『Bouquet de TAKARAZUKA』	2/ 2～ 2/25	36
博多座	花組	『あかねさす紫の花』『Santé!!』	5/ 4～ 5/26	35
全国ツアー	雪組	『誠の群像』『SUPER VOYAGER!』	3/23～ 4/15	31
全国ツアー	花組	『メランコリック・ジゴロ』『EXCITER!!2018』	11/22～12/16	33
國家兩廳院 國家戲劇院	星組	『Thunderbolt Fantasy 東離劍遊紀』『Killer Rouge/星秀☆煌紅』	10/20～10/28	14
高雄市文化中心 至徳堂	星組	『Thunderbolt Fantasy 東離劍遊紀』『Killer Rouge/星秀☆煌紅』	11/ 2～11/ 5	6

※貸切含む。

※台風・地震・大雪による中止は除く。

2018年劇団四季主催公演

会場	上演作品	公演期間 <small>(上演中作品は現時点での公演決定日まで)</small>	公演回数 <small>(18年回数/公演期間中の総回数)</small>
自由劇場	『王様の耳はロバの耳』	17/12/22～18/ 1/ 8	9/21
自由劇場	『恋におちたシェイクスピア』	18/ 6/22～18/ 8/26	63
自由劇場	『恋におちたシェイクスピア』	18/10/12～18/11/25	44
電通四季劇場[海]	『アラジン』	15/ 5/24～19/12/31	328/1517
四季劇場[夏]	『ライオンキング』	17/ 7/16～19/ 6/30	331/651
キャッツ・シアター	『キャッツ』	18/ 8/11～19/ 6/30	134/297
KAAT神奈川芸術劇場	『ノートルダムの鐘』	18/ 4/ 8～18/ 8/28	135
	小計		1044
大阪四季劇場	『キャッツ』	16/ 7/16～18/ 5/ 6	117/613
大阪四季劇場	『ソング&ダンス 65』	18/ 6/17～18/ 8/19	61
大阪四季劇場	『リトルマーメイド』	18/10/13～19/ 8/31	74/298
	小計		252
京都劇場	『オペラ座の怪人』	17/12/27～18/ 5/20	130/134
京都劇場	『恋におちたシェイクスピア』	18/ 9/ 7～18/ 9/30	23
	小計		153
名古屋四季劇場	『リトルマーメイド』	16/10/16～18/ 8/26	220/625
名古屋四季劇場	『ノートルダムの鐘』	18/ 9/22～19/ 5/19	95/223
	小計		315
北海道四季劇場	『ライオンキング』	17/ 3/ 5～18/ 5/27	87/354
北海道四季劇場	『サウンド・オブ・ミュージック』	18/ 7/ 7～18/10/28	103
北海道四季劇場	『リトルマーメイド』	18/12/22～19/ 5/31	8/146
	小計		198
静岡市民文化会館	『オペラ座の怪人』	18/ 7/21～18/ 9/17	54
	小計		54
東京エレクトロンホール宮城	『オペラ座の怪人』	18/10/22～19/ 1/14	67/80
	小計		67
チャンネルシティ劇場	『リトルマーメイド』	17/ 8/11～18/11/ 4	285/421
チャンネルシティ劇場	『ソング&ダンス 65』	18/11/23～18/12/ 9	17
チャンネルシティ劇場	『恋におちたシェイクスピア』	18/12/23～19/ 1/ 6	8/15
	小計		310
19都市	『ジーザス・クライスト=スーパースター』(エルサレム・バージョン)	18/ 2/ 1～18/ 3/17	31
22都市	『ソング&ダンス 65』	18/ 4/13～18/ 6/ 9	35
50都市	『ソング&ダンス 65』	18/ 8/31～18/12/23	60
23都市/通算86都市	『ガンバの大冒険』こころの劇場	17/ 4/26～18/ 3/16	49/234
11都市/通算34都市	『ガンバの大冒険』全国公演	17/ 4/22～18/ 3/25	11/37
21都市/通算63都市	『嵐の中の子どもたち』こころの劇場	17/ 5/16～18/ 3/ 8	47/180
11都市/通算30都市	『嵐の中の子どもたち』全国公演	17/ 5/13～18/ 3/25	12/32
52都市/通算75都市	『魔法をすてたマジョリン』こころの劇場	18/ 4/24～19/ 3/15	197/249
30都市/通算43都市	『魔法をすてたマジョリン』全国公演	18/ 4/21～19/ 3/24	31/45
59都市/通算84都市	『王様の耳はロバの耳』こころの劇場	18/ 5/ 9～19/ 3/18	133/181
23都市/通算33都市	『王様の耳はロバの耳』全国公演	18/ 5/ 6～19/ 3/24	28/39
22都市	『王様の耳はロバの耳』日産労連チャリティ公演	18/11/14～18/12/25	22
	小計		656
	総合計		3049

平成30年 演劇賞 関係各賞受賞者

【平成30年度文化勲章】

▽山崎正和氏(84)劇作家・評論家

【平成30年度文化功労者】

▽池辺晋一郎氏(75)作曲家

▽大槻文蔵氏(76)能楽師

▽片岡仁左衛門氏(74)歌舞伎俳優

【平成30年度春の褒章】

◇紫綬褒章▽芦沢明子氏(67)撮影監督

▽中村歌六氏(67)歌舞伎俳優▽小曾根

真氏(57)ジャズ・ピアノ演奏家▽中村

恩恵氏(48)舞踊家▽夢枕獺氏(67)小説

家

◇黄綬褒章▽鴨治欽吾氏(77)歌舞伎床

山

◇旭日小綬章▽野村四郎氏(81)能楽師

▽中村東蔵氏(80)歌舞伎俳優▽北野武

氏(71)映画監督▽阿木燿子氏(72)作詞

家▽西田敏行氏(70)俳優

【平成30年度秋の褒章】

◇紫綬褒章▽ケラリーノ・サンドロ

ヴィッチ氏(55)脚本家・演出家▽真田

広之氏(58)俳優▽宮田まゆみ氏(64)箏

演奏家▽金剛永謙氏(67)能楽師

◇旭日小綬章▽寺尾聰氏(71)歌手・俳

優

【第74回日本芸術院賞・恩賜賞】

◇恩賜賞・日本芸術院賞▽鶴澤清介

氏(文楽三味線方)長年の文楽公演にお

ける三味線の線方。子供たちのための

新作文楽の作曲等。

◇芸術院賞▽中村扇雀氏(歌舞伎俳優)

「桂川連理棚 帯屋」お絹、「新口村」傾

城梅川等、近年の活躍▽花柳寿楽氏

(日本舞踊家)「二人の乱」、「閨の扉」、

「高野物狂」の三演目。それぞれ異なっ

た役柄を演じ分けた技術と品格の高さ

【平成30年度重要無形文化財保持者】

7月21日、文化審議会は重要無形文化

財保持者(人間国宝)を認定するよう答

申した。うち演劇関係者は次の1名、

◇能離子方大鼓 柿原崇志氏

【平成30年度第73回文化庁芸術祭賞】

◇演劇

◇大賞▽藤山直美「おもろい女」にお

ける演技

◇優秀賞▽野村萬斎氏「狂言ござる乃

座58thにおける悪太郎」の成果▽一

般社団法人SENDAI座プロジェクト

ト「十二人の怒れる男」の成果▽山本哲

也氏 第24回 照の会「山姥」にお

ける

成果

◇新人賞▽松下洗平氏「母と暮らせば」

における演技

▽風稀かなめ氏「さよなら、チャー

リー」における演技

【舞踊】

◇大賞▽該当なし

◇優秀賞▽花柳秀衛氏 秀衛の会にお

ける「道成寺」の成果▽一般財団法人

谷桃子バレエ団「創作バレエ・15」の成

果▽山村若子氏「山村若子リサイ

タル」の成果▽一般社団法人 貞松・浜

田バレエ団「創作リサイタル30」の成果

◇新人賞▽真境名由佳子氏 第二回独

演会「舞心」の成果▽SHUN氏「Fo

u You 4」の成果

【大衆芸能】

◇大賞▽ザ・ぼんち氏「ザ・ぼんち芸

道45年分の漫才」の成果

◇優秀賞▽立川志らく氏「志らく独り

会」の成果▽六華亭遊花氏「六華亭遊花

独演会」の成果▽桂塩鯛氏「桂塩鯛演

会」における「らくだの葬礼」の芸芸

◇新人賞▽東家一太郎氏「浪曲の明日

」の成果▽真山準人氏「真山準人独演会

」の成果

【第68回芸術選奨】

◇文部科学大臣賞(演劇)杉市和氏(能

楽師)「檜垣」▽宮城聰氏(演出家)「アン

テイゴネ(映画)▽黒沢清氏(映画監

督)「散步する侵略者」▽永瀬正敏氏(俳

優)「光(音楽)」▽近藤謙氏(作曲家)「近

藤譲 七十歳の径路」▽善養寺恵介氏

(尺八演奏家)「善養寺恵介 尺八演奏

会(舞踊)▽佐東利穂子氏(ダンサー)

「トリスタンとイゾルデ」▽西川箕乃助

氏(日本舞踊家)「ちよんがれ一休」(放

送)▽坂元裕二氏(脚本家)「カルテッ

ト(大衆芸能)▽石川さゆり氏(歌手)

「45周年記念リサイタル」▽入船亭扇遊

氏(落語家)「入船亭扇遊 独演会」(芸

術振興)▽細川展裕氏(演劇プロデュ

サー)「櫛髷城の七人」

◇新人賞(演劇)▽詩森ろば氏(劇作

家、演出家)「アンネの日」(映画)▽菅

田将輝氏(俳優)「あ、荒野」(音楽)▽

杉山洋一氏(指揮者、作曲家)「第27回

芥川作曲賞選考演奏会(舞踊)▽福岡

雄大氏(バレエダンサー)「コッペリア」

《放送》▽加藤拓氏(ドラマディレク

ター)「眩し北斎の娘」(大衆芸能)▽

桃月庵白酒氏(落語家)「桃月庵白酒25

周年記念落語会的な」

【文化庁創立五十周年記念表彰】

▽池辺晋一郎氏(作曲家)▽尾高忠明氏

(指揮者)▽栗山民也氏(演出家)▽西川信廣氏(演出家)▽野村萬氏(狂言師)▽伊藤京子氏(声楽家)▽牧阿佐美氏(バレエダンサー)▽振付家▽藤田洋氏(演劇評論家)▽山野博夫氏(舞踊評論家)▽公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会

【第60回毎日芸術賞】

▽永井愛氏(劇作家)

【特別賞】

▽大林宣彦氏(映画監督)

【第70回読売文学賞】

▽研究・翻訳賞▽古井戸秀夫氏(評伝 鶴屋南北)

【第26回読売演劇大賞】

◇大賞・最優秀演出家賞▽栗山民也氏(パルコ・チルドレン)、「こまつ座」母と暮せば」の演出

◇最優秀作品賞▽「百年の秘密」(ナイロン100%)

◇最優秀男優賞▽岡本健一氏(岸リトラル)「ヘンリー五世」の演技

◇最優秀女優賞▽着井優氏(アンチゴータ)「スカイライト」の演技

◇最優秀スタッフ賞▽上田大樹氏(「百年の秘密」)「メタルマックス」の映像

◇杉村春子賞▽松下洗平氏(母と暮せば)、「スリル・ミー」の演出

◇芸術栄誉賞▽木村光一氏

◇選考委員特別賞▽ザ・空気 v e

r. 2 誰も書いてはならぬ二二虎社

【第69回NHK放送文化賞】

▽松本白鸚氏(歌舞伎俳優)▽笑福亭鶴瓶氏(落語家) 昇

【平成30年度第47回大谷竹次郎賞】

▽該当作品なし

【第43回菊田一夫演劇賞】

◇大賞▽「ピリー・エリオット」リトル・ダンサー」上演関係者一同(ミュージカル)「ピリー・エリオット」リトル・ダンサー」の高い舞台成果に対して)

◇演劇賞▽城田優氏(ミュージカル)「ロードウェイと銃弾」におけるチーチ役の演技に対して)▽戸田恵子氏(Sing a Song)における三上あ

い子役の演技に対して)▽神田沙也加氏(ミュージカル)「キューティ・ブロンド」におけるエル・ウッズ役の演技に

対して)▽原田諒氏(ミュージカル)「ペトルリン、わが愛」、ミュージカル「ドクトル・ジバゴ」脚本・演出の成果に對して)

◇特別賞▽甲斐正人氏(永年の作曲及び音楽活動における功績に対して)

【第53回紀伊國屋演劇賞】

◇団体賞▽劇団文化座(「夢たち」)「反応工程」太陽の棘の優れた舞台成果

◇個人賞▽野村昇史氏(「藍ノ色、沁

ミル指」における佐山吉雄の演技)▽段田安則氏(新国立劇場公演「夢の裂け目」における演技)

▽前田文子氏(シスカンパニー公演「ヘッダ・ガブラー」における衣装)

▽長田育恵氏(劇団青年座「砂塵の二ヶ」の戯曲)

▽着井優氏(パルコプロデュース「アンチゴータ」におけるアンチゴータの演技)

【第62回岸田國士戯曲賞】

▽神里雄大氏(「バルパライソ」の長い坂をくだる話)

▽福原充則氏(「あたらしいエクスペローション」)

【第24回ニッセイバックステージ賞】

▽松崎政男氏(大道具)

▽牧野圭子氏(文楽人形衣裳縫製)

【第22回鶴屋南北戯曲賞】

▽平田オリザ氏(日本文学盛衰史)

【第40回松尾芸能賞】

◇大賞▽野村萬氏(能楽)

◇優秀賞▽柁屋東成・柁屋勝祿氏(邦楽)

◇優秀賞▽水川きよし氏(歌謡)◇優秀賞▽藤間勘十郎氏(舞踊)

◇新人賞▽宝生和英氏(能楽)◇新人賞▽中村杏太郎氏(演劇)◇特別賞▽ひとみ座乙女文楽(演劇)

◇松尾國三賞▽市川寿猿氏(演劇)◇松尾波備江賞▽中村寿治郎氏(演劇)

【第35回浅草芸能大賞】

◇大賞▽草笛光子氏(俳優)

◇奨励賞▽林家たい平氏(落語家)◇新人賞▽神田松之丞(講談師)

【第66回菊池寛賞】

◇松任谷由実氏(1972年、大学時代の衝撃的なデビュー以来、その高い音楽性と同時代の女性心理を巧みにすくいあげた歌詞は、世代を超えて広くそして長く愛され、日本人の新たな心象風景を作り上げた。

【平成29年度第37回日本照明家協会賞】

【舞台部門】

◇文部科学大臣賞・大賞▽紫藤正樹氏(劇団四季)劇団四季「SONG&DANCE 65」自由劇場

◇スタッフ賞

▽森本真由美氏(フリーランス)、大久保薫氏(劇団四季)、宮副良平氏、國部華氏(劇団四季)、田原秀一氏(㈱アイコニクス横浜)

◇優秀賞▽上村範康氏(フリー) 北海道ダンスプロジェクト「我楽多・1」に

いらっしやいHDP合同作品「生きる2017」死にたいなんて言わないで」ニトリ文化ホール▽照井晨市氏

(ASCオールステージカンパニー)アーリドラーテ歌劇団公演G、ヴェル

デイオペラ「イル・トロヴァトーレ」
全幕シアター1010▽加藤孝氏(㈱ブルーモーメント)一般社団法人現代舞踊協会2017都民芸術フェスティバル参加公演「現代舞踊(公演)東京芸術劇場プレイハウス▽原口敏也氏(㈱エストファーム)DISK GARAGE Aimer Live in 武道館「blancet noir」日本武道館

◇**新人賞**▽坂口美和氏(文学座)文学座公演「青べか物語」文学座アトリエ▽澤邊将志氏(㈱SWB) DISK GARAGE「SEKAINOOWARI」さいたまスーパーアリーナ▽三澤裕史氏(㈱ライティングカンパニーあかり組)株式会社バルコ「不信く彼女が嘘をつく理由」東京芸術劇場シアターイースト

◇**奨励賞**▽石島奈津子氏(㈱東京舞台照明)Pカンパニー第20回公演「シリーズ罪と罰」CASE4「TOPSY」シアターグリーン▽小保内陽子氏(㈱エクスアート)松崎牧阿佐美バレエ団60周年記念公演「シリーズ」三銃士文京シビックホール大ホール▽古宮俊昭氏(㈱ステージ・ライティング・ソタ)フ「新劇交流プロジェクト公演」その人を知らず「あうるすぽっと」▽高木どうみょう氏(高木どうみょうオフィス)公益社団法人日本舞踊協会 第1回日本舞踊未来座II賽S A I II 国立劇場小劇場▽杉浦清教氏(㈱ライティング

ジャム)B A L L E T・N E X T 2 0 1 7 公演「シンデレラ」刈谷市総合文化センター

◇**努力賞**▽藤原亮氏(㈱アクト・ディヴァイス)もりげきライブvol.266「KISS+SWORD」2017盛岡劇場タウンホール▽多田英治氏(㈱グルッペ)平成29年度「選抜阿波踊り大会 前夜祭」アストディとくしま▽與那朝俊和氏(㈱バック宮古支社)劇団かなやらび「クススドウムタ」心の蕾」マティダ市民劇場(宮古島市)

◇**特別賞**▽昭和音楽大学ミュージカルコース・舞台スタッフコース平成29年度卒業公演「ミュージカル」オズの魔法使い」昭和音楽大学 テアトロ・ジェリオ・ショウワ

◇**文部科学大臣賞・大賞**▽千葉聡文氏(㈱NHKメディアテクノロジ) NHK総合テレビ「SONGS」スペシャル「井上陽水×玉置浩二・安全地帯」

◇**スタッフ賞**

▽板山大介氏、生水徹氏、佃将人氏、野呂采美氏(㈱NHKメディアテクノロジ)小口拓也氏、大野裕貴氏、本郷朋之氏、元村隼敦氏、山本聖氏、島田沙織氏(㈱千代田ビデオ)古川考太氏(㈱ネオテック)金子諒氏、実川慎一氏、青木威憲氏、美水早苗氏、東真也氏、朝野七海氏、工藤命氏(㈱ライトコスモ)

◇**優秀賞**▽木村伸氏(㈱フジ・メディア

ア・テクノロジ)読売テレビ・日本テレビ「スペシャル・ドラマ」愛を乞うひと」▽高橋貴生氏(日本放送協会)仙台放送局)NHK総合テレビ「大河ファンタジー」精霊の守り人」最終章」第1回▽萩原修氏(㈱千代田ビデオ)NHKBSプレミアム「The C over's」Fes・2017」▽北川原茂氏(日本放送協会)松山放送局)NHK Eテレ「第60回「ニューイヤーパーラコンサート」

◇**新人賞**▽前田藍里氏(日本放送協会)NHKBSプレミアム大阪発地域ドラマ「アオゾラカット」▽天羽佐織氏(㈱大阪共立)関西テレビ「大阪環状線 Part 2 ひと駅」との愛物語」Station 3 桜ノ宮駅」黄昏アールサイド」▽橋村祐哉氏(㈱ハートレス)NHKBSプレミアム「連続テレビ小説」べっぴんさん」スペシャルドラマ「恋する百貨店」▽大廣拓郎氏(㈱NHKメディアテクノロジ)NHKBSプレミアム「新・BS日本のうた」宮崎県宮崎市」▽宮崎友宏氏(㈱TBSTBS「Sound Inn」第33回Xmas SP 2017」▽細川圭吾氏(朝日放送テレビ(㈱)ステーション 京都実相院紅葉中継」

◇**選考委員特別賞**▽宮脇正樹氏(㈱ハートレス)テレビ朝日「スペシャルドラマ」最後の同窓会」

◇**奨励賞**▽石井久友氏(㈱テレテック)

読売テレビ・日本テレビ「プラチナイ ト木曜ドラマF」ブラックリベンジ」第1話▽金村悟史氏(㈱共立ライティング)テレビ朝日「女囚セブン」第1話▽河内俊明氏(㈱共立ライティング)BSフジ土曜エンターテインメント「わが青春のヒット・キッド」▽瀧本貴士氏(朝日放送テレビ(㈱)テレビ朝日・ANN)朝日放送テレビ(㈱)「夜汽車の風景」京都丹後鉄道・宮舞線」

◇**努力賞**▽木村弥史氏(㈱日本テレビ)「日本テレビ」水曜ドラマ「東京タラレバ娘」第9話▽田中健一氏(㈱テレテック)関西テレビ「ヒューマンミステリー」明日の約束」第1話▽阿刀田琢氏(日本放送協会)土曜時代ドラマ「悦ちゃん」昭和駄目パパ恋物語」最終回「パパに贈るラブソング」▽古川雅士氏(㈱テレビ東京)「テレビ東京」第50回「日本作詞大賞」▽井野昌彦氏(㈱篠本照明)NHK岡山及び中国域内放送局「レシビ私を作った」はん」

◇**技術賞**▽田原迫京太氏(日本放送協会)演出照明用超高出力型LEDスポットライト▽奥嶋駿介氏(讀賣テレビ放送(㈱))740ハンガー(Ytv仕様)

◇**第45回伊藤薫賞**
(日本舞台美術家協会)

◇**伊藤薫賞**▽香坂奈奈氏(「管理人」の装置)

◇新人賞▽竹内良亮氏(怪奇幻想歌劇「笑う吸血鬼」の装置)
 ◇奨励賞▽西川成美氏(喜劇「何をしていたの五十年」の装置)
 ◇特別賞▽林なつ子氏(舞台衣裳製作有限会社 工房いちこ コスチュームビルダーとして多くの衣裳家を支えてきた長年に渡るその多大なる貢献に対して)

【第45回伊藤薫賞】

(テレビ日本美術家協会)
 ◇伊藤薫賞▽飯塚洋行氏(㈱フジアール「コード・ブルー」ードクターへり緊急救命-THE THIR D SEASON)

◇協会賞▽山下恒彦・小澤雅夫氏(㈱NHKアート NHKスペシャル戦後ゼロ年 東京ブラックホール1945-1946)
 ◇新人賞▽平岡真穂氏(㈱日本テレビアート)
 ◇特別賞▽松田明子氏(㈱クリエイティブ トウマロウコラボ)

【第34回日本舞台芸術家組合賞】

▽木俣貞雄氏(俳優・東京ミューカルアンサンブル)
 ◇新田三郎氏(照明家・フリー)
 ◇信坂みどり氏(俳優・劇団風の子)

【第26回橋田賞】

◇橋田賞II▽NHKスペシャル「戦慄

の記憶 インパール(NHK)▽ドラマ「コウノドリ」(TBS)▽岡田恵和氏「ひよっこ」(NHK)などの脚本▽松たか子氏「カルテット」(TBS)などの演技▽阿川佐和子氏(陸王(同)の演技など)▽桂文珍氏「居酒屋もへじ」(同)の演技

◇新人賞▽有村架純氏(俳優)「ひよっこ」(NHK)での演技▽竹内涼真氏(俳優)「陸王」(TBS)での演技
 ◇特別賞▽石坂浩二氏(俳優)「やすらぎの郷」(テレビ朝日)の演技など
 ◇特別賞▽大杉漣氏(俳優・故人)

【第36回向田邦子賞】

▽バカリズム氏(架空OL日記)

【第42回全児演賞】

◇正賞▽広中省子氏(長久手おやこ劇場)
 ◇奨励賞▽土屋転太氏(てんたん人形劇場)
 【日本児童青少年演劇協会賞】

▽藤崎万喜男氏(目黒区立鷹番小学校 鷹番ミュージカルシアター)

【第28回O夫人児童青少年演劇賞】

▽小柳田美子氏(人形劇団ブーク)

【第73回読売映画・演劇広告賞】

◇演劇広告賞

◇最優秀賞 「東海道四谷怪談」劇団前

進座五月 国立劇場公演
 ◇優秀賞 「コロケ特別公演」株式会社明治座
 ◇両部門共通企画賞 「ONE PIECE FILM GOLD」パノラマ新聞 東映株式会社

【第6回市川森一脚本賞】

▽金子茂樹氏(ボク、運命の人です。日本テレビ系)

【第38回伝統文化ボーラ賞】

◇優秀賞▽桐竹勘十郎氏(人形浄瑠璃 文楽人形の伝承・振興)
 ◇地域賞▽阪口純久氏(上方芸能の保存・振興)大阪府

【第22回日本伝統文化振興財団賞】

▽新内多賀太夫氏(新内節)

【第7回中島勝祐創作賞】

▽鶴澤津賀寿氏(那須与一弓矢誉)

【第30回高松宮殿下記念世界文化賞】

▽カトリヌ・ドヌーヴ氏(仏女優)

【第23回AICT演劇評論賞】

▽堀川恵子氏(戦禍に生きた演劇人たち、演出家・八田元夫と「桜隊」の悲劇)

【第11回小田島雄志・翻訳戯曲賞】

▽田ノ口誠悟氏(ジハードJihad

ad-の翻訳▽神奈川・K.A.A.T神奈川芸術劇場と東京・世田谷パブリックシアター(「パリーターク」を小宮山智津子の翻訳、白井晃演出で上演)
 ◇特別賞▽Kawai Project(シエークスピア作品などの積極的な翻訳。上演活動)

【若手演出家コンクール2017】

◇最優秀賞・観客賞▽澤野正樹氏(劇団短距離男道ミサイル/仙台シアターラボ「走れタカシ」僕が福島まで走った理由(わけ))

【第49回舞踊批評家協会賞】

▽谷桃子バレエ団▽勅使川原三郎氏▽花柳基氏

◇新人賞▽市川ぼたん氏▽花柳秀衛氏
 ◇齋門由奈氏▽米沢唯氏
 ◇特別賞▽森下洋子氏

【第1回種田山頭火賞】

◇磨赤兒氏(舞踏家)

【第66回舞踊芸術賞】

◇花柳輔太郎氏(邦舞)
 ◇篠原聖一氏(洋舞)

【第24回劇作家協会新人戯曲賞】

▽ピンク地底人3号「鎖骨に天使が眠っている」

【第25回OMS戯曲賞】

◇大賞▽くるみざわしん氏(同郷同年)
〔日本の演劇人を育てるプロジェクト〕
◇佳作▽山本正典氏、あ、カッコンの竹(コトリ会議)

【第48回JXTG音楽賞】

▽池辺晋一郎氏(作曲家)
◇奨励賞▽小倉貴久子氏(フォルテピアノ)

【第9回岩谷時子賞】

▽松たか子氏(俳優・歌手)
◇功労賞▽石井ふく子氏(プロデューサー・演出家)

◇奨励賞▽古川雄大氏(俳優)▽上野耕平氏(クラシックサクソフォーン奏者)

◇特別賞▽大地真央氏(俳優)
Foundation for Youth

▽黒木雪音氏(ピアニスト)

【第6回ハヤカワ悲劇喜劇賞】
▽消えていくなら朝(新国立劇場主催、蓬萊竜太作、宮田慶子演出)

【勝手に演劇大賞2018】

◇作品賞▽ヘンリー五世(ストリート部門)

◇作品賞▽ナイツ・テイル 騎士物語(ミュージカル部門)

◇作品賞▽舞台「刀剣乱舞」悲伝 伝いの目の不如帰(2.5次元部門)

◇男優賞▽鈴木拡樹氏(劇団☆新感線「櫛城の七人」Season 1 下弦

の月)

◇女優賞▽天涯祐希氏(劇団☆新感線「櫛城の七人」Season 1 極)

◇演出家賞▽いのうえひでのり氏(劇団☆新感線「櫛城の七人」Season 1 極)

◇新人賞▽上白石萌音氏(火星の二人)

【第37回国立劇場文楽賞】

◇大賞▽鶴澤燕三氏

◇優秀賞▽豊竹呂太夫氏 吉田玉也氏

◇奨励賞▽豊竹芳穂太夫氏

【文楽協会賞】

◇木夫の部▽竹本小住太夫氏

◇三味線の部▽鶴澤清公氏

◇人形の部▽桐竹勘介氏

【第40回親世寿夫記念法政大学能楽賞】

▽鶴澤久氏(シテ方親世流)▽杉市和氏(笛方森田流)

【第28回催花賞】

▽高林白牛二氏(シテ方喜多流)

【第28回吉田秀和賞】

▽堀真理子氏(青山学院大学教授)「改訂を重ねる「ゴドー」を待ちながら」演出家としてのベケット」

【シユバリエ(仏の芸術文化勲章)】

▽渡辺守章氏(演出)

【第42回モントリオール世界映画祭】

◇審査員特別グランプリ「散り椿(木村大作監督)

◇最優秀男優賞▽館ひろし氏(終わつた人)

【第71回カンヌ国際映画祭】

コンペティション部門

◇パルムドール賞「万引き家族」(是枝裕和監督)

【第66回サンセバスチャン国際映画祭】

◇ドノステイア賞(是枝裕和監督)

◇最優秀新人監督賞(僕はイエス様が嫌い)(奥山大史監督)

【第55回国際アンタルヤ映画祭】

◇最優秀監督賞「万引き家族」(是枝裕和監督)

【米ロサンゼルス映画批評家協会】

◇キャリア功労賞▽宮崎駿氏(77)

【第37回藤本賞】(映画演劇文化協会主催)

▽青山剛昌・近藤秀峰・米倉功人・石山桂一氏(名探偵コナンから紅の恋歌(ラブレター)の製作)

◇特別賞▽松橋真三氏(銀魂)の製作

◇奨励賞▽春名慶・白井央氏(君の隣)

臓をたべたい)の製作

【第36回川喜多賞】

▽岩波ホール

【第37回京都府文化賞】

◇功労賞▽井上裕久氏(能楽師)▽近藤正臣氏(俳優)▽常磐津都森蔵氏(常磐津節三味線演奏家)

◇奨励賞▽茂山童司(三世千之丞)氏(狂言師)

【兵庫県文化賞】

▽吉田和生氏(文楽人形遣い)

【福島県民栄誉賞】

▽西田敏行氏(俳優)

【横浜文化賞】

▽近藤良平氏(ダンサー・振付家)

【第53回大阪市市民表彰】

▽小堀純氏(編集者)▽福王茂十郎氏(能楽師)▽水口一夫氏(演出・劇作家)

▽吉田和生氏(文楽人形遣い)

【大阪文化祭奨励賞】

▽豊竹芳穂太夫氏(文楽太夫)

【平成30年度咲くよこの花賞】

▽鶴澤寛太郎氏(文楽三味線)

10月1日、宝塚大劇場 10月19〜11月18日、東京宝塚劇場
 ・被告が有罪か無罪かを観客の投票で評決する法廷劇「TERROR テロ」(シリーツハ作 森新太郎演出)が上演された。裁判長(今井朋彦)被告の空軍少佐(松下洗平)弁護士(橋爪功)検察官(神野三鈴)。16〜28日、東京・紀伊國屋ザンシアターTAKAASHIIMA Y.A. 兵庫、名古屋、広島、福岡でも上演。
 ・女流義太夫の演奏家てつくる「瑠璃の会」がこのほど大阪で発足した。
 ・音楽劇「三文オペラ」(谷賢一演出・上演台本、志磨遼平音楽監督)が上演された。松岡充主演、白井晃、高橋和也らが出演。舞台上のスタンディング席の観客が、劇中に登場する「ピッチャム乞食商会」の一員としてライブ演劇参加。23〜2月4日、横浜・K.A.A.T神奈川芸術劇場ホール 10日、札幌・札幌市教育文化会館大ホール
 ・「高原の乱」の総大将天草四郎が人工知能(AI)でよみがえる鴻上尚史の新作「もうひとつの地球の歩き方」が、主宰する「虚構の劇団」で上演された。19〜28日、東京の座・高円寺1 2月2〜4日、大阪 10、11日、愛媛 15
 ・元宝塚歌劇団トップスターの柚希礼音が、第1次世界大戦期に暗躍した女スパイのマタ・ハリに挑戦するミュージカル「マタ・ハリ」(作曲家フラン

ク・ワイルドホーン作、石丸さち子訳詞、翻訳、演出)が上演された。加藤和樹と初共演。21〜28日、大阪・梅田芸術劇場メインホール 2月3〜18日、東京国際フォーラムホールC
 ・文化庁、一般社団法人日本演出者協会主催の演劇大学inはちのへが26〜28日、八戸市公民館で開催された。
 ・漫画家しりあが寿が、駿河を拠点にした戦国武将の今川義元を描いた劇作「オケハザマ」を流山児★事務所公演で上演した。主宰の流山児祥が演出する戦国音楽劇。24〜2月4日、東京・ザ・スズナリ
 ・NPO法人「シアタープランニング ネットワーク」(東京都調布市)。「五感をフルに刺激する工夫をこらした」「多感覚演劇」に取り組み、デイサービスや病院での演劇体験事業を実施。中山夏織代表が、障害児向けの劇を上演している英国の劇団の理念や手法を探り入れ16年度から上演している17年度はオリジナル新作「アラビアの風について」。アロマの香りやりぼんを回しながらつむじ風を起すなどして5感に訴えた。

二月

・「劇団鹿殺し」の座付き作家の丸尾丸一郎がプロデュース、作・演出する最新作の舞台「おたまじゃくし」が上演された。「精力無力症」で悩む男の物語。

1〜12日、東京・座・高円寺1 15〜18日、大阪・ABCホール
 ・作家小川洋子の同名小説を原作として舞台化した「密やかな結晶」(鄭義信脚本・演出)が上演された。石原さとみが約4年ぶりの舞台に主演した。2〜25日、東京芸術劇場プレイハウス 3月3、4日、富山県民会館 8〜11日、大阪・新歌舞伎座 17、18日、福岡・久留米シアターラザ
 ・音楽家の渋谷慶一郎らが、エリック・サティの音楽で約100年前に作られたバレエ「パレード」をリメイクした舞台作品「Parade for the End of the World」を日本初上演した。横浜ダンスコレクション(2〜18日)の一環。15〜18日、横浜赤レンガ倉庫1号館
 ・新劇5劇団の30代の女優7人がつくる演劇ユニット「On7」(オンナ)が身体表現で見せる舞台「かさぶた」を上演した。劇団「company ma」を主宰する大谷賢治郎が構成・演出を担当。台本によらず、俳優と演出家がゼロから作りあげるデイベイジングシアターの小劇場した。3〜11日、東京・下北沢の小劇場B1
 ・4日、東京・有楽町の「TOHOシネマズ日劇」が閉館した。1933年「日本劇場」の名称でオープンして以来、国内外の数々の話題作を上映してきた映画館が、85年の歴史に幕を下ろした。

・古川健(劇団チヨコレートケーキ)が淡谷のりをモデルに書いた新作、トム・プロジェクトプロデュースの舞台「Sing a Song」(日澤雄介演出)が上演された。戸田恵子が主演。「筋の通った一人の表現者の生き様を見てほしい。表現の自由を守ることの大切さを考えて頂けたら」と古川。7月26日、東京・本多劇場。18日から3月25日にかけて高松、岡山、加東、富田林、伊賀、穴栗、門川、益城、鹿島、行橋、七尾、下呂、長久手、由利本荘、西宮、上越、藤沢、葛飾区で上演。
 ・アカデミー賞7部門にノミネートされたウディ・アレンの映画をもとにウディ自身がプロドゥウェイでミュージカル化した「ブロードウェイと銃弾」(福田雄一演出)が日本初演。浦井健治と城田優が主演を務めた。7〜28日、東京・日生劇場 3月5〜20日、大阪・梅田芸術劇場 24〜4月1日、福岡・博多座
 ・文化庁、一般社団法人日本演出者協会主催の演劇大学in大阪2017が「表現の自由と私たちの演劇(後期)」をテーマに開かれた。7、10、18日、ドーンセンター
 ・同時代の舞台芸術に取り組む国内外のプロフェッショナルが公演プログラムやミーティングを通じて交流し、舞台芸術の創造・普及・活性化のための情報・インスピレーション・ネットワークを得る場。TPAM「国際舞台

芸術ミーティングin横浜2018」がK A A T 神奈川芸術劇場、Bank A R T Studio、NYK、横浜赤レンガ倉庫1号館、YCC、ヨコハマ創造都市センターなどを主催にして開催された。8、18日、12、13日にも国際的に活躍する美術作家梅田哲也が手がけた「舞台裏」の可能性に迫る「インターンシップ」がK A A T 神奈川芸術劇場ホールで上演された。

・原発事故から7年、10日、被災地の芸術支援活動であるフェニックスプロジェクトが再起動。原発事故をテーマにした作品を数多く生み出してきた福島の高校演劇に焦点を当てた。報告「福島の今」、上演「福島サテライト2011」(山崎隆久作)岩瀬農業高校・演劇部、シンポジウム「私たちの震災時間。そして未来へ。」なぜ震災と原発事故を演劇にし続けるのか、**「光南高校」**「ふたば未来学園高校」演劇部公演記録。東京・中野スタジオあくとれ

・11日、上方落語の大名跡、桂春団治の四代目を、桂春之輔が襲名し、お披露目の公演が大阪松竹座で開かれた。
・オーチャードホール芸術監督の熊川哲也が企画した「オーチャード・バレエ・ガラ」が開かれた。ロシアのワガノワ・バレエ・アカデミーなど世界6カ国の名門バレエ学校の選抜生約50人が各校の特色を生かしたバレエを披露した。日本のバレエ学習者が留学

するためのオーディションも開催された。11、12日、東京・Bunkamuraオーチャードホール

・12日、「別府観光の父」油屋熊八を描いたキッズミュージカル「シャイニー・アングル・ミュージカル油屋熊八」(あべ5脚本・演出)が上演された。小学5年〜高校2年までの55人も出演した。別府市公会堂

・渡辺えりが女剣劇の一座を舞台にした「喜劇 有頂天一座(齋藤雅文演出)で、一座を率いる座長役に挑んだ。1959年に初演された北條秀司作の「女剣劇朝霧一座」が基になった作品。16、23日、大阪松竹座

・17日、劇団「錬肉工房」主宰の岡本章・明治学院大学教授が「能を現代に活かす 研究と実践」の題で、同大学(東京都港区)で最終講義を開いた。
・中国の文学者、魯迅の苦難の上海時代を描いた井上ひさしの「シャインハイムーン」(栗山民也演出)がこまつ座と世田谷パブリックシアターの共同企画制作で上演された。魯迅を野村萬斎、教え子で「第2夫人」の許広平を5年ぶりの舞台出演となる広末涼子が演じた。18、3月11日、東京・世田谷パブリックシアター。西宮、新潟、滋賀、豊橋、金沢でも上演。

・18日、国立能楽堂の研修生を経て野村万作に入門した深田博治が「木六駄」に初挑戦した。東京・喜多六平太記念能楽堂

・AsiaTYA Festival 2018 アジア児童青少年舞台芸術フェスティバル2018が国立オリピック記念青少年総合センターほかで開催された。19、25日、先行して、名古屋、神戸、豊岡、鹿児島で地方フェスが行われた。16、18日

・19日、花月、雪、星に続く5番目の組として誕生した宙組が20周年を迎えたことを記念するイベントが宝塚大劇場で開かれた。宙組生と歴代トップスター7人全員が勢ぞろい。各トップが思い出を振り返った。
・レパノンの劇作家ワジディ・ムワワドの「約束の血4部作」の1作目「岸トリタル」(藤井慎太郎翻訳、上村聡史演出)が上演された。2014年に初演され演劇賞をさらった前作「炎 アンサンディ」に通じる衝撃的な問題作となった。岡本健一、亀田佳明が主演。20、3月11日、東京・世田谷パブリックシアターシアタートラム 17日、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール

・阪急電鉄、宝塚歌劇団、阪急百貨店などの多様な事業を興し、成功へと導いた小林一三を主人公とする舞台「マリンの長いみち〜小林一三物語〜」(古川貴義作、マキノノゾミ演出)が兵庫県立ピッコロ劇団の第60回記念公演として上演された。23、25日、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール

・三島由紀夫の戯曲「近代能楽集」の

「葵上」「弱法師」が東京の鏡仙会能楽堂で上演された。演出の筈井賢一は「これらの作品を能舞台に戻した時に、どんな演出と演技が可能かという点が眼目」と話す。23、25日

・加藤健一事務所がロナルド・ハーウッドの傑作戯曲「ドレッサー」(松岡和子訳、鶴山仁演出)を上演した。第二次世界大戦下のイギリス。とあるシエクスピア劇団のバックステージを描く。座長役を加藤、ドレッサー(付き人)のノーマン役を花組芝居の加納幸和が、初顔合わせでつとめた。23、3月11日、東京・本多劇場

・岩手県北上市で市民参加型の公演を続けているアマチュア演劇の「北上市民劇場」が出演者らも脚本作りにかかわる新たなスタイルを取り入れ第41回公演「I CAN フライ」(くらもちひろゆき(劇団「架空の劇団」代表)演出)を上演した。24、25日、市文化交流センターさくらホール

・劇団民藝は、A級戦犯を裁いた東京裁判とB級戦犯裁判を巡る木下順二作「神と人のあいだ」2部作、「審判」(兒玉庸策演出)と「夏・南方のローマンス」(丹野郁弓演出)を初めて同時上演した。24、3月10日、東京・紀伊國屋サザンシアターTAKASHIMAYA
・ロバート・ジエームズ・ウォラー原作の人気作品「マディソン郡の橋」がミュージカルになり、日本で初演され

た。荻田浩一翻訳、訳詞、演出。山口祐一郎と涼風真世が共演。24〜26日、東京・シアター1010 3月2〜21日、東京・シアタークリエ

・演劇を通じて東日本大震災からの心の復興と交流人口の拡大を目指す岩手県大館町民らによる手作り舞台「都おつちバラエティショー」に東京都東大和市の俳優中村真季子と川崎市の声優佐々木茜(釜石市出身)が参加。大館町や釜石市で暮らし、メンバーにとけ込み、「演劇を通じて元氣と笑いを届けることで、復興と共に歩んでいきたい」と意気込んだ。25日、大館町城山公園体育館 3月17日、復興支援をきっかけに交流が続く長野県軽井沢町でも上演。

・日本演出者協会主催による「日本の近代戯曲研修セミナー in 東京第17回」は、秋元松代の「常陸坊海尊」を課題戯曲として研修、リーディング&シンポジウムを開催した。25〜3月18日、東京・梅ヶ丘BOX

・26日、歌舞伎俳優の尾上右近が東京・歌舞伎座で開かれた「延寿會」で、江戸後期に生まれた浄瑠璃の一派、清元節の清元栄寿太夫を七代目として襲名した。

三月

・現代演劇の手法で古典の可能性を探る「木ノ下歌舞伎(木ノ下裕一主宰)の

代表作「前進帳」(木ノ下監修・補綴、杉原邦生演出・美術)が上演された。1〜4日、横浜・K A A T 神奈川芸術劇場(大スタジオ)今秋には「ジャポニスム2018」の公式企画としてバリでも公演。

・1日、劇作家で俳優の渡辺えりが日本劇作家協会の6代目の会長に就任した。新副会長は劇団「トラッシュユマスターズ」主宰の中津留章仁と劇作家、演出家のマキノゾミ。

・市川海老蔵特別公演「源氏物語第二章」(龍月夜より須磨・明石まで)が上演された。2014〜2015年に上演された第一章の続編。オペラと歌舞伎(前半)、能と歌舞伎(後半)のコラボレーション。1日、川崎 2日、浜松 3日、神戸 4日、大阪 6日、名古屋 8日、佐賀 10日、下関 11日、福山 12日、倉敷 13日、鳴門 17日、福井 19日、金沢 20日、松本 21日、甲府 22日、八王子 24日、さいたま 25日、新潟 27日、仙台 28日、盛岡 29日、秋田 31日、札幌 4月3〜6日、博多座 7日、高知

・公募で出演者を決め、各人の体験や思いを生かす舞台作りに挑んだ劇作家、棚瀬美幸の演劇ユニット「南船北馬」。新作「さらば、わがまち」(棚瀬作・演出)では、自身を何らかの社会的マイノリティー(少数派)だと自認する人を募集して上演した。2〜4日、大阪・ウイングフィールド

・3日、名古屋四季劇場と福岡のキヤナルシティ劇場で同時上演中の劇団四季のミュージカル「リトルマーメイド」が、日本公演2000回目を迎えた。

・中村壱太郎が「三月大歌舞伎」で、劇団新派の名作として知られる「滝の白糸」(坂東玉三郎演出)の白糸役で初主演した。3〜27日、東京・歌舞伎座

・三谷幸喜の新作喜劇「江戸は燃えているか」が上演された。勝海舟に中村獅童。けんかつ早い勝に成り代わって、西郷に会う庭師の平次に松岡昌宏。3〜26日、東京・新橋演舞場

・1946年、日本で初めて全幕上演されたチャイコフスキーのバレエ「白鳥の湖」の舞台美術を手がけた画家・藤田嗣治。没後50年の節目に当たり、約70年ぶりに東京シティ・バレエ団50周年記念公演で復活上演された。資料不足で他の作品の装置を転用した第3幕の王宮の広間も含め、初演とは違う今回の会場のサイズに合わせて制作された。大野和士が初めて全幕を指揮。管弦楽は東京都交響楽団が務めた。3、4、6日、東京文化会館

・4日、第90回アカデミー賞。英国映画「ウィンストン・チャーチル／ヒトラーから世界を救った男」で英国の名宰相チャーチル役の主演ゲイリー・オールドマンのメイクを担当した辻一弘がメーキャップ・ヘアスタイリング賞を受賞した。

・6日、KinKi Kidsの堂本

光一が東京・帝国劇場で行われた主演ミュージカル「Endless Show CK」で、1600回公演を達成した。

・「時代の証言者も次々にいなくなり、戦争の記憶が遠くなっている。きな臭い世の中だからこそ、戦争の非情さや不条理さを知ってほしい」。鄭義信作・演出の「赤道の下のマクベス」が上演された。47年のシンガポール、チャング刑務所。B C級戦犯で収容された朝鮮人と日本人。「B C級戦犯の日本人として裁かれた朝鮮人の苦しみを知って」「歴史に翻弄された歴史の海に消えてしまいたいような人々を描きたかった」と鄭。6〜25日、新国立劇場小劇場。西宮、豊橋、北九州でも上演。

・男性アイドルグループKiss My Ft2の藤ヶ谷太輔が人間関係から逃げ続ける舞台「そして僕は途方から暮れる」(三浦大輔作・演出)に挑んだ。6〜4月1日、東京・Bunkamuraシアターコクーン 9〜15日、大阪・森ノ宮ピロティホール

・劇団清流劇場がスイスの作家、マックス・フリッシュの戯曲「ANDORRA アンドラ」(田中孝弥構成・演出)を上演した。ナチス・ドイツの災いを招いた市民社会の差別の構造を問う。7〜11日、大阪・一心寺シアター倶楽

・大阪劇団協議会フェスティバル45周年記念合同公演「築地にひびく銅鑼」(藤本恵子原作、宮地仙脚本、キタモ

トマサヤ演出)が上演された。8〜11日、大阪・ABCホール
 ・劇団「ハイバイ」主宰の岩井秀人の作・演出「ヒッキー・ソトニデテミターノ」が関西で初めて上演された。自身の引きこもり体験をもとに書き下ろした。8〜10日、兵庫県伊丹市・アイホール

・劇団銅鑼創立45周年記念公演第3弾新作「おとうふコーヒー」(詩森ろば作、青木豪演出)が上演された。特養老人ホームを舞台に、認知症にきくと信じて、お豆腐とコーヒーを欠かさない終末期の女性を描いた。72歳の谷田川さほが主演。「幸福な死について考えてもらえたら」と詩森。9〜18日、東京芸術劇場シアターイースト

・鹿賀丈史と、盟友の市村正親がゲイのカップルを演じ10周年。ミュージカル「ラ・カージュ・オ・フオール」(ジャン・ポワレ原作)が上演された。「思いやる大切さを伝えたい」と鹿賀。9〜31日、東京・日生劇場。久留米、静岡、大阪でも上演
 ・11日、京都の能楽狂言方大藏流、茂山千五郎家の血族以外の同門で作る「五笑会」が京都府立文化芸術会館ホールで特別公演を開いた。

・青年劇場が新作「きみはいくさになつたけれど」(大西弘記作、関根信一演出)を上演した。いじめに悩み命を絶とうとしている現代の高校生(林田悠佑)が「生きたい」と願う23歳で戦死

した詩人竹内浩三(矢野貴大)と出会い、自分らしさを見つけていく。13〜18日、東京・紀伊國屋サザンシアター TAKASHI M A Y A
 ・若手演出家コンクール2016年度最優秀受賞記念公演「ツクリバナシ」(柴幸男原作、奥田祐作曲、永野拓也演出)が上演された。13〜18日、東京・劇小劇場

・20周年を迎えた宝塚の宙組に誕生したトップコンビ真風涼帆、星風まどかが大ヒット少女漫画が原作のミュージカル「天は赤い河のほとり」に出演。フレッシュな風を吹きこんでいる。16〜4月23日、宝塚大劇場。5月11〜6月17日、東京宝塚劇場
 ・17日、劇団四季ミュージカル「オペラ座の怪人」が、1988年の初演から30年で、通算上演回数7000回を達成し、JR京都駅ビル内の京都劇場で特別カーテンコールが行われた。

・客席が360度回る劇場「H I I S テーリアラウンド東京」が東京・豊洲に生まれて、1周年。客席が盛り上がる一方、役者泣かせの厳しい舞台となっている。17〜5月31日には、髑髏城の七人 極 修羅天魔」が上演された。

・獄中結婚した男女の「その後」を描いた2人芝居「ブランド・タッチ」(坂手洋二作・演出)が上演された。獄中結婚した「男」を高橋和也、男を冤罪と信じて支援活動に身を捧げ、妻となつ

た「女」を都築香弥子が演じた。19〜4月1日、東京・ザ・スズナリ
 ・「第23回全国芝居小屋会議」出石永楽館大会が20〜21日、出石市民ホールで開かれた。近畿最古の芝居小屋「出石永楽館」の復元10周年を記念し開催された。

・瀬戸山美咲主宰の劇団「ミナモザ」は、東電福島第一原発事故以降に原子力を学ぶ道を選んだ大学院生たちの討論を劇にした「テン・コマンドメンツ」を上演した。「原発はよく分からない」と専門家任せにしている風潮がある。劇で考えるきっかけを作りたい」と瀬戸山。21〜31日、東京・こまばアゴラ劇場。4月5、6日、広島・J M S A ステールプラザ多目的スタジオ

・劇団青年座が、初の長田育恵書き下ろしとなる「砂塵のニケ」(宮田慶子演出)を東京・代々木八幡の青年座劇場で上演した。老朽化などによる建て替えのため、現劇場の最終公演となった。23〜31日
 ・メリメの小説「カルメン」に着想を得たミュージカル「ロマーレ」を生き抜いた女「カルメン」が上演された。小手伸也原作、高橋知江日本・作詞、謝珠栄演出・振付。花總まり(カルメン)、松下優也(ドン・ホセ)。23〜4月8日、東京芸術劇場プレイハウス。11〜21日、大阪・梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ

・劇団「新宿梁山泊」の創立30周年記念公演「少女都市からの呼び声」(唐十郎作、金守珍演出)が上演された。金は、少女をガラスの人間に改造しようとするフランケ醜態博士も演じた。23〜31日、東京・芝居客・満天星

・福島県内の中高生が劇作家藤田貴大や音楽家の大友英生らと共に作る県主催の「チャレンジふくしまパフォーミングアーツ」が3回目を迎えミュージカル「タイムライン」を上演した。24、25日、白河文化交流館コニスス大ホール。29〜31日、東京芸術劇場シアターイースト

・川崎市中原区で約50年間伝わる伝統人形芝居「乙女文楽」を実際に体験するワークショップが行われた。24、31日。川崎市総合福祉センター(エポックなかはら)

・アカデミー賞5部門を受賞した世界的大ヒット映画をミュージカル化した「メリー・ポピンズ」(ジェームズ・パウエル演出)が日本で初公演。濱田めぐみと平原綾香がダブルキャストで主演。25〜5月7日、東京・東急シアターオーブ。19〜6月5日、大阪・梅田芸術劇場メインホール

・サラリーマン劇作家の中村ノブアキが、「働き方改革をテーマに書いた新作「煽きほむら」(中村演出)が上演された。28〜4月1日、東京・駅前劇場。28日、4月1日からのこけら落とし公演を前に名古屋の御園座が開場式を行った。歌舞伎囃子方田中流家元の田

中傳左衛門が一番太鼓で開場を告げた。こけら落とし公演に出演する松本白鸚、中村雀右衛門、松本幸四郎が「寿式三番叟」を舞い、再開場を祝った。

・吉田修一のベストセラー小説「悪人」が、初めて舞台化された。合津直枝企画・台本・演出。母に捨てられ、母性を求めた祐一(中村意)、凶暴さと優しさを切望した光代(美波)の2人芝居。29〜4月8日、東京・シアタートラム

・芥川賞受賞の又吉直樹のベストセラー小説「火花」が初めて舞台化され上演された。小松純也脚本・演出。観月ありさと又吉が本人役で出演した。30

〜4月15日、東京・紀伊國屋ホール
5月9〜12日、大阪・松下IMPホール

・美輪明宏作・演出・主演の舞台「愛の讃歌」エディット・ピアフ物語」が上演された。木村彰吾、YOUらも出演。31〜4月15日、東京・新国立劇場中劇場。名古屋、福岡、大阪でも上演。

四月

・1日、名古屋・御園座が再開場しこけら落とし公演「四月大歌舞伎」で幕を開けた。松本白鸚、幸四郎親子が襲名披露。25日千秋楽。

・御園座の演劇図書館が再開。当面貸出はせず、図書館内での閲覧に限る。東京と関西の演劇チラシを並べ情報発

信にも努めるほか、将来は、歌舞伎の初心者向けの講座を開いたり、演劇の制作者向けに相談に乗ったりと、演劇のネットワークを広げる場にしたという。

・人気漫画が原作の「スーパー歌舞伎II ワンピース」が大阪・松竹座で上演され、2017年10月の演舞場公演中に左腕を骨折した狼の助が主人公ルフィ役に復帰した。1〜25日。

・片岡仁左衛門が鶴屋南北作「絵本台法衛」を自ら監修し「二世一代」の極悪人2役(左枝大学之助・立場の太平次)に臨んだ。2〜26日、東京・歌舞伎座「四月大歌舞伎」

・俳優の坂口憲二(42)が国の指定難病「特発性大腿骨頭壊死症」の治療に専念するため、芸能活動を無期限休止。所属事務所を5月末で退社。

・日本発オリジナル・ロックミュージカル「5DAYS 辺境のロミオとジュリエット」が上演された。シェイクスピアのロミオとジュリエットを元に、石丸さち子が脚本を手がけた。注目される若手俳優の一人東啓介が初主演を務めた。音楽は和田俊輔。3〜23日、横浜・KAT-TUN神奈川芸術劇場(中スタジオ)

・ドイツ演劇のハイナー・ミュラーの「ハムレットマシーン」フェスティバルに、劇団風触異人街など演劇やダンスなどの10団体が挑んだ。4〜22日、d倉庫

・13年目となる「滝沢歌舞伎」。2020年の東京五輪・パラリンピックに向けノンバーバル(非言語によるコミュニケーション)のショーを充実させた。「虹」をテーマにした総踊りでは平和の象徴を表現した。5〜5月13日、東京・新橋演舞場 6月4〜30日、名古屋・御園座

・第34回四国八代歌舞台大芝居」で中村橋之助改め八代目中村芝翫、長男の中村国生改め四代目中村福之助、次男の中村宗生改め三代目中村福之助ら3人が襲名披露した。7〜22日、旧金毘羅大芝居(金丸座)

・人形浄瑠璃文楽の人形遣い、吉田幸助改め五代目吉田玉助の襲名披露公演が行われた。53年ぶりの復活。7〜30日、大阪・国立文楽劇場 5月12〜28日、東京・国立劇場小劇場

・風間杜夫(68歳)がミュージカルに初挑戦。「リトル・ナイト・ミュージック」(ステイブン・ソンドハイム作詞・作曲)で大竹しのぶと共演。愛に迷える中年の弁護士役を演じた。8〜30日、東京・日生劇場 大阪、清水、富山でも上演。

・仙台出身の作家、堀江安夫が震災後に描いた舞台「いぐねの庭」(杉本孝司演出)が東京芸術座によって上演された。震災後、被災地をまわった。「集落もない。木もない。怒りしか出てこない」誰にもぶつけられない思いを整理するために本作を書いた。10〜15

日、東京・吉祥寺シアター
・竹中直人と生瀬勝久竹生企画が共演する舞台の3作目「火星の二人」(倉持裕作・演出)が上演された。10〜25日、東京・シアタークリエ 28〜30日、大阪・サンケイホールブリーゼ。5月2日から6月3日にかけて、刈谷、富山、小矢部、金沢、上田、仙台、北谷、小山、新潟、高松、広島、鹿児島、長崎、久留米を巡演。

・元SMAPの草薙剛が約3年ぶりの舞台「パリーターク」(エンダ・ウォールシユ作、小宮山智津子訳、白井晃演出)に出演した。KAT-TUNと世田谷パブリックという二つの公共劇場による共同制作。主催。14〜5月6日、横浜・KAT-TUN神奈川芸術劇場大スタジアム 6月16、17日、兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール

・文学座アトリエの会はドイツ演劇を代表するデアア・ローアアの「最後の炎」(新野守弘訳、生田みゆき演出)を上演した。さまざまな傷を体や心に負う人々の日常生活を描く。大場泰正が帰還兵を演じた。14〜28日

・14日、2月に66歳で死去した俳優大杉連のお別れ会が東京・青山葬儀所で行われた。北野武監督や交流のあった俳優の椎名桔平ら約700人が参列したほか、約千人のファンも献花した。

・ケラリーノ・サンドロヴィッチが主宰する劇団ナイロン100℃が25周

年記念公演で二人の女性の生涯と秘密を描く「百年の秘密」(KERA作・演出)を再演した。7月30日、東京・本多劇場。5月3、4日、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール。豊橋・松本でも上演。

・20日、京都の能楽狂言方大藏流、茂山童司が、12月に祖父の名跡を継ぎ、三世茂山千之丞を襲名すると発表した。
 ・20日、若手のバレエダンサーを対象にした国際コンクール「ユース・アメリカ・グランプリ(YAGP)」で東京都立川市の松浦祐磨(15)がシニア部門1位になった。

・20日、成田市の成田山新勝寺で28日から始まる開基1080年記念大開帳の前に、新勝寺ゆかりの歌舞伎俳優・市川海老蔵と長男の堀越勸玄が奉祝参拝した。特設舞台では海老蔵と大谷廣松が「連獅子」を奉納した。
 ・22日、落語家の三遊亭歌之介が、2019年3月に師匠の名跡である圓歌の四代目と襲名すると発表した。

・劇団「温泉ドラゴン」が明治期に日刊紙「萬朝報」を創刊したジャーナリスト黒岩涙香の半生を題材にした新作舞台「嗚呼、萬朝報!」(原田ゆう作、シライケイタ演出)を上演した。年代に就いて3人の役者が涙香を演じ分けた。25月5月3日、東京・高田馬場ラビネスト

・25日、江戸時代の正月の幕府公式行事の「古式謡初式」が蘇演された。観

世流宗家の観世清和が能楽堂開場1周年の記念として企画した。宝生・金剛両流の宗家らが集った。披露の後、松岡心平・東大教授らにより生誕620年を記念して「首阿弥シンポジウム」が開催された。東京・銀座の観世能楽堂

・2月に亡くなった詩人・作家の石牟礼道子の作品「西南夜伝説」を原作とする舞台「浄瑠璃芝居 六道御前」(笠井賢一構成・演出)が金子あいの一人芝居で演じられた。佐藤岳晶作曲・三味線・設楽瞬山尺八・能管。26、27日、東京・吉祥寺シアター

・26日、上方落語協会の新しい会長を決める会長候補者選挙で、新会長に笑福亭仁智が選ばれた。5月の理事会で正式に承認される。
 ・国内外の演劇を集結させる静岡県舞台芸術センター(SPAC)主催「ふじのくに11せかい演劇祭」が静岡芸術劇場、舞台芸術公園、駿府城公園ほかを会場に開催し、日本を含む6カ国の8作家トーマス・オスターマイヤーによるイブセン作「民衆の敵(29、30日、静岡芸術劇場)」では、演劇は社会的議論の場とのコンセプトを全面に出し観客も参加、劇中意見を述べた。宮城聰芸術総監督は「発信の技術ばかりが進歩する今、相手に全力で肉声を届ける姿を見てほしい」と語った。28月5月6日

・中村獅童とバーチャルシンガターの初音ミクが共演する「超歌舞伎」の第3弾。歌舞伎舞踊の「積恋雪閨扉」に着想を得た「積思花顔鏡」が催された。28、29日、千葉・幕張メッセイベントホール

・野田秀樹作、演出、出演の英語劇「One Green Bottle」(「One Green Bottle」)が英ロンドンのソーホー表に出るいつ! English version」が英ロンドンのソーホー劇場(30月5月19日)で開幕した。6月8、9日にルーマニア(シビウ国際演劇祭2018)の国立ラドウスタンカ劇場でも上演。英語翻案・ウィル・シャープ 演奏・田中傳左衛門 舞踊指導・尾上菊之丞 能 所作指導・津村禮次郎

・SNS全盛の中、高校生の対面のコミュニケーション能力向上を目指し2012年度から始まった岐阜県と文学座が連携協力する高校での演劇ワークショップ。手応えを感じている中、2018年度から拡大し、県立高6校で行う。文学座の演出家、西川信廣は「直接会って、声を聞き、表情を見ることの大切さを伝えたい。全国に広げていきたい」と話した。

・朝鮮半島にルーツを持つ人々への差別的な言動が無くならない中、在日3世のきむぎさんが、「多様性を受け入れる社会に向けた一つのきっかけになればいい」と、在日コリアンの歴史を描いた一人芝居「在日バイタル

・中村獅童とバーチャルシンガターの初音ミクが共演する「超歌舞伎」の第3弾。歌舞伎舞踊の「積恋雪閨扉」に着想を得た「積思花顔鏡」が催された。28、29日、千葉・幕張メッセイベントホール

チェック」公演を全国各地で続けている。4年あまりで120回を超える上演を重ねてきた。

五月

・市川海老蔵が「団扇祭五月大歌舞伎」十二世市川團十郎五年祭の「雷神不動北山桜」で5役を演じた。2月26日、東京・歌舞伎座

・3日、米アカデミー賞を主催する米映画芸術科学アカデミーは、性的暴行の罪で有罪の評決を受けた米俳優ビル・コスビーと1970年代に少女への性的暴行で有罪判決を受けた映画監督ロマン・ポランスキーを除名処分にすると発表した。

・劇団「サンプル」が、作・演出を担う松井周の個人ユニットとして再出発。第1作として深沢七郎の小説「植山節考」から着想した「グッド・デス・バイプレッション考」を上演した。5月15日、横浜・KAAAT神奈川芸術劇場中スタジオ

・落語家の柳家喬太郎が井上ひさし作「たいこんどん」(ラサール石井演出)で替間の桃八を演じた。5月20日、東京・紀伊國屋サザンシアターTAKA SHIMAYA
 ・檀れいが有吉佐和子原作の舞台「仮縫い」(堀越真脚本、西川信廣演出)に主演。「人生は仮縫い、という有吉先生のものの方見方にひかれます」とファッ

シオン界で夢を求めて成長する女性に挑んだ。6月28日、東京・明治座

- ・緒方洪庵と闇組織の「姫」の活躍を描いた時代劇 蘭・緒方洪庵 浪華の事件帳(錦織一清演出)が上演された。藤山扇治郎と元宝塚トップスターの北翔海莉の共演。6月13日、大阪松竹座 16月20日、東京・新橋演舞場
- ・6日、芸風の垣根を越えて5家が共演する「大滅流五家狂言会」が大坂で初めて開催された。大阪・大槻能楽堂
- ・劇団下町タニローズを主宰する立川志らくが第20回公演「形島同窓会」を上演した。セットは組まず、同じ衣装で統一し、扇子と手拭いだけで表現。落語の手法で演出した。7月17日、東京・下北沢の小劇場B1
- ・渋谷・コクーン歌舞伎第十六弾「切られの与三」(串田和美演出、木ノ下裕一補綴)が上演された。普段は女方を務めることが多い中村七之助が立役・与三郎を演じ、与三郎が一目ぼれするお富役の中村梅枝がコクーン歌舞伎に初挑戦した。9月31日、東京・Bunkamuraシアターコクーン
- ・明治150年の年。前進座が、明治12年に新富座で初演された河竹黙阿弥(当時は二世新七)の散切喜劇「人間万事金世中」を上演した。英作家リットン戯曲「マネー」を翻案・脚色し、英国の物語を文明開化で賑わう横浜に舞台を移した翻案劇の第1号。12月22日、東京・国立劇場大劇場

- ・10日、りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館が企画・製作・上演する「人形の家」(一色隆司演出、楠山正雄翻訳)で、北乃きいが主役を演じた。「北乃きいを封印し、ゼロからつくり上げる」と言い切る。14月20日、東京芸術劇場シアターウエスト。23月24日、西宮でも上演。
- ・エドモンド・ロスタンの古典作品「シラノ・ド・ベルジュラック」(マキノゾミ・鈴木哲也上演、鈴木裕美演出)に吉田鋼太郎が挑んだ。永遠の愛の対象ロクサーヌ役は黒木瞳。舞台は初共演。15月30日、東京・日生劇場 6月8月10日、西宮・兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール
- ・新国立劇場は、シエクスピア歴史劇シリーズの4作目「ヘンリー五世」(小田島雄志翻訳)を上演した。浦井健治主演、演出は2009年から始まった同シリーズで4作連続の鶴山仁。17月6月3日、東京・新国立劇場中劇場
- ・「市ヶ尾の坂」伝説の虹の三兄弟(岩松了作、演出、出選が26年ぶりに再演された。横浜市青葉区にある実在の土地を舞台にした作品。17月5月3日、東京・本多劇場。6月5日から17日にかけて、仙台・福島、大阪・富山、名古屋、三島でも上演。
- ・劇団カムカムミニキーナが新作蝶つがい(松村武作・演出)を上演した。八嶋智人が、めまぐるしい展開に

- ・10日、りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館が企画・製作・上演する「人形の家」(一色隆司演出、楠山正雄翻訳)で、北乃きいが主役を演じた。「北乃きいを封印し、ゼロからつくり上げる」と言い切る。14月20日、東京芸術劇場シアターウエスト。23月24日、西宮でも上演。
- ・エドモンド・ロスタンの古典作品「シラノ・ド・ベルジュラック」(マキノゾミ・鈴木哲也上演、鈴木裕美演出)に吉田鋼太郎が挑んだ。永遠の愛の対象ロクサーヌ役は黒木瞳。舞台は初共演。15月30日、東京・日生劇場 6月8月10日、西宮・兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール
- ・新国立劇場は、シエクスピア歴史劇シリーズの4作目「ヘンリー五世」(小田島雄志翻訳)を上演した。浦井健治主演、演出は2009年から始まった同シリーズで4作連続の鶴山仁。17月6月3日、東京・新国立劇場中劇場
- ・「市ヶ尾の坂」伝説の虹の三兄弟(岩松了作、演出、出選が26年ぶりに再演された。横浜市青葉区にある実在の土地を舞台にした作品。17月5月3日、東京・本多劇場。6月5日から17日にかけて、仙台・福島、大阪・富山、名古屋、三島でも上演。
- ・劇団カムカムミニキーナが新作蝶つがい(松村武作・演出)を上演した。八嶋智人が、めまぐるしい展開に
- ・19日、フランス・カンヌで開催された第71回カンヌ国際映画祭コンペティション部門で是枝裕和監督の「万引き家族」が最高賞「パルムドール」を受賞した。日本映画が同賞を受賞したのは、今村昌平監督の「うなぎ」以来21年ぶり。
- ・OSK日本歌劇団(大阪)トップスター・高世麻央の退団公演が開催された。「レビュー春のおどり」19月27日、大阪松竹座 「レビュー夏のおどり」7月5月9日、東京・新橋演舞場
- ・「横浜ポートシアター」が「さらばアメリカ」(遠藤啄郎脚本・演出)を上演した。「戦中、戦後の時代の変化や空気を感しておきたかった」と作品に思いを込めた。25月6月3日、横浜・K A A T 神奈川芸術劇場大スタジオ
- ・ミュージカル「モーツァルト!」が山崎育三郎と帝劇初主演の古川雄大のダブルキャストで演じられた。ミヒャエル・クンツェ脚本・歌詞、小池修一演出・訳詞 26月6月28日、東京・帝国劇場 7月、大阪・梅田芸術劇場メインホール 8月、名古屋・御園座
- ・明るく楽しくおしゃべりをして人生をエンジョイしているおばあちゃんたちの姿から着想した前田司郎作・演出の新作「うん、さようなら」が劇団「五

- ・10日、りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館が企画・製作・上演する「人形の家」(一色隆司演出、楠山正雄翻訳)で、北乃きいが主役を演じた。「北乃きいを封印し、ゼロからつくり上げる」と言い切る。14月20日、東京芸術劇場シアターウエスト。23月24日、西宮でも上演。
- ・エドモンド・ロスタンの古典作品「シラノ・ド・ベルジュラック」(マキノゾミ・鈴木哲也上演、鈴木裕美演出)に吉田鋼太郎が挑んだ。永遠の愛の対象ロクサーヌ役は黒木瞳。舞台は初共演。15月30日、東京・日生劇場 6月8月10日、西宮・兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール
- ・新国立劇場は、シエクスピア歴史劇シリーズの4作目「ヘンリー五世」(小田島雄志翻訳)を上演した。浦井健治主演、演出は2009年から始まった同シリーズで4作連続の鶴山仁。17月6月3日、東京・新国立劇場中劇場
- ・「市ヶ尾の坂」伝説の虹の三兄弟(岩松了作、演出、出選が26年ぶりに再演された。横浜市青葉区にある実在の土地を舞台にした作品。17月5月3日、東京・本多劇場。6月5日から17日にかけて、仙台・福島、大阪・富山、名古屋、三島でも上演。
- ・劇団カムカムミニキーナが新作蝶つがい(松村武作・演出)を上演した。八嶋智人が、めまぐるしい展開に
- ・27日、東京・座・高円寺1
- ・29日、古典を学ぶ「ほぼ日の学校」の講座が10回目を迎え特別版「シエイクスピアの音楽会」を開催した。古楽器を使い、「ロミオとジュリエット」「十二夜」など上演された当時の歌や曲を再現した。東大教授の河合祥一郎が「シエイクスピアのセリフの音楽性」をテーマに講演した。東京・草月ホール
- ・福岡を拠点に活動する劇団「万能グロップガラバゴスダイナモス」の劇団員の若手5人が新たに結成したユニット「こわせ貯金箱」が、新作「六畳一間の唇」(川口大樹作・演出)を上演した。29月6月1日、福岡・甘棠館ShoW劇場
- ・2011年に結成したジャニーズの4人組ユニット「ふぉゅゅ」の一員として、舞台などで経験を積んできた福田悠太。召集令状を受け取った3人の男を描いたミュージカル「DAY ZERO」(高橋知伽江上演、本深沢桂子作曲・音楽監督、吉原光夫演出)の舞台上に単独主演した。31月6月24日、東京・DDD青山クロスシアター
- ・東京の十文字中学・高校には96年という継承の歴史をもつ音楽部があり、毎週月曜と水曜の放課後、シテ方宝生流の小林晋也の指導で稽古に励んでいる。技量の高さも認められ、校内外で盛んに活動している。

・漫画やアニメ、ゲームといった二次元の作品を舞台(三次元)にした、2.5次元ミュージカルが演劇の新たなジャンルとして存在感を増しつつある。2016年には過去最高の133作品が上演され、150万人を動員した。客層は20〜30代の女性を中心にチケッ代は1万円以下に設定。作品によっては、海外客が観客の1割を占めることもある。また、海外公演も積極的にを行っている。若手俳優の登竜門にもなっている。課題は常設の専用劇場を持つことだ。

・義太夫節を広めようと、義太夫協会主催の教室が東京に誕生して2018年で70年を迎えた。教室からはプロも出ている。七十一年間の受講生は1200人。

六月

・舞踏カンパニー「山海塾」が、「卵を立てることから「卵熟」と「金柑少年」の2作の「リ・クリエーション」版を上演した。体調不良のため出演せず、自らのパートを若手に託す主宰の天児牛大は語る。「担い手が代われど、作品に通底するテーマは変わらない」。

1〜6日、東京・世田谷パブリックシアター

・三宅裕司を座長とする「熱海五郎一座」の新橋演舞場シリーズの第5弾「東京喜劇船上のカナリアは陽気な不

協和音」が歌手の小林幸子を迎え上演された。1〜28日

・中村芝翫が「六月大歌舞伎」で宇野信夫作「悲談宵宮雨」の強欲な破戒僧、龍達に初役で挑んだ。尾上菊之助は平安期の歌人・文屋康秀を題材に取り組んだ。「六歌仙容彩文屋」を初めに演出。

2〜26日、東京・歌舞伎座

・3日、新内伸三郎を会主とする邦楽の人間国宝が枝芸を競い合う「人間国宝の会」が上演された。東京・国立劇場小劇場

・3日、「菊池寛演劇祭り」菊池寛生誕130年・没後70年記念公演」が高松市市民文化祭アーツフェスタがまつ2018主催事業として行われた。第1部では歌とダンスによる「菊池寛音頭」が第2部では演劇「恩讐の彼方に」が上演された。サンポート

ホール高松第1小ホール

・京都が拠点の劇団「地点」が横浜のK A A T神奈川芸術劇場との共同制作第8弾で若手劇作家松原俊太郎の新作「山山(三浦基演出)を上演した。3日

11後を想起させる世界を描く。(6〜16日)劇団の代表作で松原作の「忘れる日本人」(21〜24日)も再演。K A A T

神奈川芸術劇場中スタジアオ

・渡辺えりが主宰する演劇企画集団「オフィス300」が40年記念公演で

上田岳弘の小説「塔と重力」を原作とする新作「肉の海」を上演した。渡辺は脚本、演出、出演も兼ねた。「命は平等の

はずなのに今は安い命、高い命があるようだ。なぜ戦争するのか、無駄な死を止められないのか。悲しむことの意味を描きたい」と訴えた。7〜17日、

東京・本多劇場

・「大人計画」の松尾スズキが15年前、中村勘三郎のために書き下ろした時代劇「二ゲン御破産」を1文字かえて

「二ゲン御破算」として再演した。2012年に死去した勘三郎に代わって阿部サダヲが主人公を演じた。7

〜7月1日、東京・Bunkamuraシアターコクーン

・宝塚歌劇の専科スター轟悠が、代表作のミュージカル「凱旋門」に18年ぶりに主演した。望海風斗と真彩希帆の現

雪組トップコンビと共演。柴田侑宏脚本、謝珠栄演出・振付。8〜7月9日、宝塚大劇場 7月27日〜9月2

日、東京宝塚劇場

・崑劇と邦楽の融合した異色の舞台。横浜能楽堂と台湾の「国光劇団」が3

年を費やして完成させた共同制作作品「繡襦夢」が上演された。同劇団の俳優・温宇航が主役を演じ、常磐津三味

線奏者の常磐津文字兵衛が音楽監督、作曲・演奏を務めた。コンテンポラ

リーダーの衣装などを手掛けるファッションデザイナーの矢内原充志も上演。9日、17日、横浜能楽堂

・青年団を主宰する平田オリザが「新しい言葉の可能性を示せば」と高橋

源一郎の小説「日本文学盛衰史」を元に作・演出した同名公演がおこなわれた。2年ぶりの新作。7〜7月9日、東京・吉祥寺シアター

・劇作家生活40年を記念し、横内謙介が主宰する扉座で「リボンの騎士」県立鷺尾高倉演劇部奮闘記」を再演した。横内自身の高校時代の出来事をモデルにした作品。16、17日、厚木市文化会館 20〜7月1日、東京・高

円寺

・二兎社が、テレビ局が報道を自主規制していくさまを描いた前作に続き、記者クラブ内における権力との癒着問題をテーマに据えた「ザ・空気v e r. 2」誰も書いてはならぬ」を上演

した。報道の自由疑問符を抱く永井愛作・演出。17日、富士見 23〜7月16日、東京芸術劇場シアターイース

ト。7月20日から9月2日にかけて津・長久手、駒ヶ根、盛岡、山形県川西町、山形、長門、北九州、西宮、豊橋、大津でも上演。

・18日、大阪北部地震の影響により、関西の劇場は公演を中止、または開演時間を遅らせて対応した。中止は梅田芸術劇場 大阪松竹座(24日に振替公演)、国立文楽劇場、フェスティバル

ホール(19日)も中止し、8月6、7日に振替公演。開演時間の変更は京都劇場、宝塚大劇場。新歌舞伎座は休演日だった。

・劇団「てがみ座」を主宰する劇作家の

長田育恵。「国と国との間で迷子になりそうな彼女たちの声を残したい」と敗戦後も朝鮮半島に残った日本人妻たちを描く「海越えの花たち」(木野花演出)を上演した。20、26日、東京・紀伊國屋ホール

・中村橋之助が、伝統を継承・革新し、未来につながる日本舞踊協会メンバーが前年に立ち上げた「未来座」の創作舞踊「カルメン2018」(花柳輔太朗演出)に挑戦した。ビゼー作のオペラ「カルメン」を、日本の慶長時代に翻案した作品。22、24日、東京・国立劇場小劇場

・劇団青年座が帚木蓬生の小説「安楽病棟」(シライケイタ脚本、磯村淳演出)を上演した。舞台化にあたり、答えを出さず「観客の一人ひとりが考えるきっかけになれば」(磯村)と結末を変えた。22、27、31日、東京・本多劇場

・劇団四季が、12年ぶりに新作ストレートプレイ「恋におちたシェイクスピア」(リー・ホール脚本、松岡和子訳、青木豪演出)を上演した。22、28、7月26日、10月、東京・自由劇場、9月7、30日、京都劇場、12月、福岡・キャナルシティ劇場

・ベルギー出身でモロッコがルーツの劇作家イスマエル・サイディの戯曲「ジハード」(田ノ口誠悟翻訳、瀬戸山美咲演出)が、ヨーロッパ以外で初上演された。全日程アフタートーク。23

7月1日、彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)

・松本零士のマンガでアニメ版も人気を集めた「銀河鉄道999」が音楽劇になった。舞台「銀河鉄道999」(GALAXY OPERA)。ミュージカルで活躍する中川晃教が主演。22、30日、東京・明治座、7月21、23日、北九州芸術劇場大ホール、25、29日、大阪・梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ

・世田谷パブリックシアター芸術監督の野村萬斎が、中世以来歩みを共にしてきた能と狂言について一度、舞台芸術として考察する試み「狂言劇場」の特別版。狂言師野村万作主演・演出による新作狂言「樋山節考」、能楽師大槻文藏による新作能「鷹姫」が上演された。23、24、30日、7月1日、東京・世田谷パブリックシアター

・中村勘九郎、七之助兄弟がスペイン・マドリッドのカナル劇場で「平成中村座スペイン公演」をおこなった。日本スペイン外交関係樹立150周年を記念して行われた公演。「連獅子」(勘九郎)、「藤娘」(七之助)の舞踊2演目を披露。27、7月1日

・旧満州を舞台にした作品を書き続けてきたわかさぎるふが、第3弾として「眠らぬ月の下僕」を上演した。27日、7月1日、大阪・近鉄アート館、3、8日、東京・ザ・スズナリ

・タニノクロウが作・演出する「庭劇団ベニノ」が、蝸入道「忘却ノ儀」を上演した。舞台装置にこだわり会場となる東京・森下スタジオ内にあるお堂を建てたような装置を組み、観客は堂内に入り、壁際の客席に座る。中央には護摩壇のような炉を置いた。儀式そのものとして上演した。21、25日には作品を見た上で議論などをする演劇体験拡張講座も。28、7月1日

・成河が全8役を一人で演じるコメディ「フリー・コメディッド」(ベツキー・モード作、常田景子翻訳、千葉哲也演出)が上演された。都会の人気料理店で働く受付係の悪戦苦闘を描く。1999年にオフブロードウェイの小劇場で初上演された人気作品。28、7月22日、東京・DDD青山クロスシアター

・28日、歌舞伎俳優の坂東玉三郎が熊本・八千代座で行う「映像×舞踊公演」(10月30日、11月4日)の記者懇親会を開いた。「先輩が減ってしまい若い方が大局を理解せずに、本意が伝わらないものになるのが心配。自身が演じてきた「妹背山婦女庭訓」の定高役など「伝えられた人がいなくなっている」「層が薄くなった」と現在の歌舞伎界を憂慮している。

・29日、平清盛生誕900年にあたり、原典「平家物語」を聴く会が、朗読によるシリーズ上演「平家物語のタペ」を中村吉右衛門、若村麻由美らを迎え

上演した。東京・国立能楽堂

・全国公立文化施設協会主催の巡業公演「松竹大歌舞伎」が2コースで行われた。中央コースは八代目中村芝翫襲名披露の最後を飾る公演。「人情嘶文七元結」「口上舞踊「棒しぼり」」。30日、上尾、7月1日、東京北区、3日、前橋、4日、新潟、5日、須賀川、7、8日、秋田県小坂町、11日、鉧路、12日、北海道幕別町、14日、相模原、15日、栗原、16日、鶴岡、18日、高山、19日、小松、20日、和歌山、21日、岸和田、22日、丸亀、23日、大分、24日、岡山、25日、尼崎、27日、半田、29日、鎌倉。東コースは尾上菊之助が座頭。「近江のお兼」(御所五郎蔵)、「高坏」。30日、江戸川区、7月1日、綾瀬、2日、越谷、3日、川越、5日、札幌、7日、仙台、8日、北上、9日、八戸、11日、福島、12日、山形、14日、磐田、15日、豊橋、16日、春日井、18日、知立、19日、関、21日、米原、22日、越前、23日、金沢、24日、富山、25日、上田、26日、熊谷、28日、水戸、29日、練馬区、30日、宇都宮、31日、横須賀

・ミュージカル「コメディイ」(ギス・ミー・ケイト)(上島晋夫演出・振付)が、松平健、「路真輝」顔合わせで、全国巡演した。30日、7月1日、川崎、3、8日、東京芸術劇場プレイハウスに続き、11日、8月8日まで奥州、久慈、十和田、名古屋、豊橋、小松、西宮、観音寺、西条、呉、久留米を巡演。

・役者人生30年目を迎えた鈴木京香。レストランで出くわした5人の群像を描いた喜劇「大人のけんかが終わるまで」で相手にいら立つ女を演じた。ヤスミナ・レザ作。翻訳・岩切正一郎、上演台本・岩松了。上村聡史演出。30、7月1日、東京・シアター1010 14、29日、東京・シアター1リエ。名古屋、清水、盛岡、岸和田、広島、福岡、松山、西宮でも上演。

・「舞台に立つ人はトッパアスリート同様に体を酷使しているのに、メンテナンスをしていない。太鼓を演奏し続ければ、プロ野球の捕手のような血管・神経障害が起きる。ヒップホップダンサーは骨盤疲労骨折を起こしやすい。体系化した学問が必要だと考えた」と話す武藤芳照東大名誉教授(身体教育科学)。「舞台医学入門」(新興医学出版社)を出版した。

七月

・梅田芸術劇場と英国・ロンドンで150年以上の歴史をもつチャリングクロス劇場が共同で演劇作品を企画・制作・上演するプロジェクトが始動。演出家藤田俊太郎が初めてミュージカルの演出をする、その第一弾の作品は「VIOLET」。公演は2019年1月21、4月6日、チャリングクロス劇場。その後東京と大阪で上演する。

・故嵯川幸雄の演出助手となり、常に観客の視点を重視した舞台づくりを学んだ菅尾友(38)。2008年からドイツで活動し、このほど1987年に米国で初演されたオペラ「中国のニクソン」を新制作、斬新で思案の演出は高評価を得た。ドイユ・ベルツブルク歌劇場。11月に東京・日生劇場で「ゴジ・ファン・トゥッテ」を演出する。

・3日、病氣療養中の歌舞伎俳優の中村福助が東京・歌舞伎座で9月2日に開幕する「秀山祭九月大歌舞伎」で4年10か月ぶりに舞台に復帰すると松竹が発表した。昼の部「金閣寺」で慶寿院尼役を演じる。

・中村時蔵が国立劇場の「歌舞伎鑑賞教室 日本振袖始」で女方の大役、岩長姫 実八岐大蛇を初役に演じた。3、24日、国立劇場大劇場 26、27日、横浜・神奈川県立青少年センター紅葉坂ホール
 ・3日、日本舞踊の流派を越えて、実力者5人で結成されたユニット「五羅会」が、日印舞踊の融合「印度の魂 日本」の心 真夏の宵の競演公演を開催した。16年、17年にインド・ニューデリーで公演を実施。今回は凱旋公演と銘打って、初めて日本で披露した。東京・国立劇場小劇場
 ・市川海老蔵が東京・歌舞伎座の七月公演で昼夜に亘り2度の宙乗りを披露。特に夜の部の「源氏物語」では、オペラと能楽、華道とプロジェクトジョン

マッピングによる映像表現を採り入れた。5、29日
 ・「舞踊に物語を取り戻す」をテーマに活動するりゅうとびあ新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督の金森稔。新作「ロミオとジュリエット」を上演した。舞台設定は病院。ダンサー(ジュリエット)と俳優(ロミオ)が入り交じって演じた。6、8日、りゅうとびあ新潟市民芸術文化会館 14日、富山・オーバード・ホール 21、22日、静岡芸術劇場 9月14、16日、彩の国さいたま芸術劇場

・歌舞伎俳優の尾上右近が戦争の記憶に苦悶する帰還兵のエリート役で翻訳現代劇に初挑戦した。米ビュリツァー賞受賞作「ウオーター・パイ・ザ・スプーンフル」(キラア・アレグリア・ヒュデイス作、G2翻訳・演出)日本初上演。6、22日、東京・紀伊國屋サザンシアターTAKASHIMAYA 8月4日、大阪・サンケイホールブリーゼ
 ・ナイロン100°Cが結成25周年記念第2弾で新作「罌丸」(ケラリノ・サンドロヴィッチ作・演出)を上演した。三宅弘城とみのすげが元学生運動家の男二人を演じた。6、29日、東京・東京芸術劇場シアターウエスト

・福島県出身の劇作家・演出家で劇団「ダルカロード・ポップ」を主宰する谷賢一。母は原発事故で被害を受けた浪江町の出身、父は原発でも働いたことのある技術者。福島と原発の歴史を3部作で舞台化、その第一部「1961年・夜に昇る太陽」が上演された。7、8日、福島・いわき芸術文化交流館アリオス小劇場 21、8月5日、東京・こまば小劇場 21、2部は原発が営業運転を始めて15年後、チェルノブイリ原発事故が起きた1986年、3部は東日本大震災があった2011年を描く。2019年の完結を目指す。

・8日、近松門左衛門の出生伝承を街づくりに生かす山口県長門市で、近松作の浄瑠璃「出世景清」が貞享2年の初演以来、333年ぶりに復活通し上演された。日本近世演劇研究家で山口県立劇場の名誉顧問を務める鳥越文蔵が多額の私費を投じるなど長年構想を温めてきた念願の舞台。文楽三味線弾きの鶴沢燕三が2011年から7年がかりで復曲にこぎつけた。山口県立劇場ルネッサながと

・10日、昭和42年より始まった国立劇場の「歌舞伎鑑賞教室」が、入場者数六百万人を達成。終演後舞台上でセレモニが行われ、鎌倉女子大学高等部の生徒代表に時蔵と錦之助から記念品が贈呈された。

・外波山文明主宰の劇団「椿組」が、野外演劇「天守物語 夜叉ヶ池編」を上演した。「ネオかぶき」で知られる加納幸和が演出。11、22日、東京・花園神社

・11日、2日に81歳で亡くなった落語家、桂歌丸の告別式が、横浜市港北区の妙蓮寺であった。関係者、ファンら約2500人が、別れを惜しんだ。友人代表で歌舞伎俳優の中村吉右衛門が、あいさつした。

・11日、神戸市の新開地に、新たな演芸場「神戸新開地・喜楽館」が開業した。桂文枝が名誉館長に就任した。

・新国立劇場の演劇芸術監督を8年間務め8月に退任する宮田慶子の最後の演出作品、蓬萊電太の「消えていくなら朝」が上演された。「最後は一番『今』を描いたものを」「集大成と思って取り組みたい」と意気込む。12、29日、東京・新国立劇場小劇場。西宮、豊橋、福岡県新宮でも上演。

・アイルランドの作家シーマス・スキャンロンが書いた「マクガワン・トリロジー」(渡辺千鶴翻訳、小川絵梨子演出)が日本で初めて上演された。松坂桃李が組織の「殺人マシン」という、なじみのないタイプのキャラクターに挑んだ。豊橋、西宮で上演後、13、29日、東京・世田谷パブリックシアター・ユージン・オニール初期の作品で「ピュリアー」を受賞した傑作戯曲「アンナ・クリステイ」(栗山民也演出)が日本初演。主人公アンナに篠原涼子、アンナと恋におちる青年マットを佐藤隆太が演じた。13、29日、東京・よみうり大手町ホール8月3、5日、大阪・梅田芸術劇場シアター・ドラマシ

ティ
・14日、浅利慶太ら慶応大と東京大の学生ら10人で結成された「劇団四季」が創設65周年を迎えた。演劇界に革命を起すという志を掲げ、フランス革命記念日に創設。4月には企画開発室を発足させ、演出を担う人材を発掘・養成する体制作りを進めている。劇団内での育成と並行して「日本演劇界の才能たちとの共働も、選択肢の一つ」という吉田社長。「恋におちたシェークスピア」(1、8月26日、自由劇場)では外部から青木豪を演出に迎え、12年ぶりに台詞劇の新作を上演した。

・市民による演劇の祭典「かわさき演劇まつり」が開かれた。市内の3劇団の劇団員、公募で集まった市民ら計約30人が宮沢賢治の三つの童話の一つの台本にまとめた作品を上演した。演出家で劇作家の大西弘記の指導のもと親子で楽しめる舞台づくりに励んだ。14、15日、多摩市民館ホール

・15日、日本文化をフランスで紹介する大規模イベント「ジャポニスム2018」の一環で、2、5次元ミュージカル「刀剣乱舞」が阿津賀志山異聞2018「巴里」がパリで上演され好評を博した。2、5次元ミュージカルの欧州での公演は初めて。パレ・デ・コングレ・ド・パリ大劇場8月3日、19日、東京・日本青年館

・兵庫県立ピッコロ劇団代表を務める劇作家、岩松了の代表作の一つ「蒲団

と達磨」が上演され、30年ぶりに岩松自身が演出した。18、22日、尼崎・ピッコロシアター

・文化庁・日本演出者協会主催の「国際演劇交流セミナー2018①台湾特集」が開催された。汪兆謙氏と許正平氏による「ドキュメント演劇」のワークショップ、レクチャー、シンポジウム、発表会。17、22日、東京・芸能花伝舎

・自閉症を抱える兄と、弟の交流を描いた演劇「レインマン」。同名映画を原作とした日本で3度目の舞台が上演された。兄役の椎名桔平は、前回自らが演じた弟役を藤原竜也に託した。20、28月4日、東京・新国立劇場。7日から23日にかけて静岡、福岡、大阪、宮城、名古屋でも上演。

・文学座は、3歳以上の子供を対象にした「なつやすみ子どもフェスティバル」を東京・信濃町の文学座の稽古場でおこなった。「子供も楽しんで、何もないうちでも身一つでできる芝居を作ろう」をテーマに2012年から始まった。今回は「ベンゼルとグレート」を上演した。今年からは0、2歳児向けの読み聞かせ企画「おんぶdeだっこ」も新たに始める。21、24日

・坂手洋二が主宰する劇団「燐光群」が関東大震災直後に起きた朝鮮人虐殺の背景をたどった本「九月、東京の路上で」を原作にした同題の演劇を上演し

た。21、8月5日、東京・下北沢ザ・スズナリ

・22日、松竹芸能が運営する劇場「道頓堀角座」が開館した。
・橋本さとしが、1997年の退団から21年ぶりに劇団☆新感線の舞台に立ち、「メタルマクベス」(宮藤官九郎脚本、いのうえひでのり演出)で主役のランダムスターを演じた。23、8月31日、1Hイステージアラウンド東京。続く主役のランダムスターは尾上松也(9月15、10月25日)と浦井健治(11月9、12月31日)。

・劇団「カクスコ」が1992年に初演したリサイクルショップの群像劇「年中無休」(中村育二原作、登米祐一脚色、ウオーリー木下演出)にジャニーZ4人組「ふおくゆく」が挑戦した。26、8月6日、東京・シアター1010。9、12日、大阪。17日、鎌倉。24、26日、名古屋

・劇団「東京演劇アンサンブル」が拠点としてきた東京・練馬の小劇場「プレヒト」の芝居小屋が大家の都合により2019年3月に閉館する。団員らは新たな劇場を求めて、クラウドファンディングを始めた。

・26日、宝塚歌劇団は月組トップ娘役に美園さくらが就くと発表した。
・世界的演出家ジョン・ケアードがシェイクスピアの最後の作品「二人の貴公子」(共作ジョン・フレッチャー)を新たな脚本、音楽、振付、演出による

ミュージカル「ナイツ・テイル」騎士物語」として世界初演した。堂本光一と井上芳雄が初共演。27〜8月29日、東京・帝國劇場。9月18日〜10月15日、大阪・梅田芸術劇場メインホール

・28日、在日コリアンの2人。笑福亭銀瓶と趙博が率いる「ビビンバ寄席」が10回目を迎えた。大阪・天満天神繁昌亭

・京都が拠点の劇団「ヨーロッパ企画」が20周年記念で「サマertimeマシン・ブルース」と「サマertimeマシン・ワンスモア」の新旧作品を交互に上演した。28日、栗東。8月9〜12日、京都府立文化芸術会館。17〜9月9日、東京・本多劇場。12〜28日、大阪・ABCホール。福岡、札幌、横浜でも上演。高知、名古屋、広島では「サマertimeマシン・ワンスモア」のみ上演。

・二代目市川左團次による歌舞伎ソ連公演90周年を記念するイベントがロシア極東のウラオストクでおこなわれた。四代目市川左團次が舞踊「鶴亀」を披露し、市川篤之助が女方の化粧や着物の着付けについて紹介した後、「藤娘」の「藤音頭」を踊った。他に小鹿野町子供歌舞伎団(埼玉県)が「寿曾我対面工藤館之場」を演じ会場をわかせた。これら舞台のほか、講演やマスタークラス、交流イベントなどを行った。28〜29日、フイールハーモニー劇場

・31日、2020年東京五輪・パラリンピックの開閉会式の演出を総合統括するチーフ・エグゼクティブ・クリエーティブ・ディレクターに就任した狂言師の野村萬斎が会見した。「鎮魂と再生は、我々の芸能(狂言)では重要な部分。復興五輪でも意味がある」と語った。開閉会式については「何より質を上げたい。シンブルかつ和の精神に富んだものにしたい」と強調。

・宝塚の星組が台湾で大人気のテレビ人形劇を初めてミュージカル化した「サンダーボルトファンタジー東離剣遊紀」(小柳奈穂子脚本・演出)。台湾に先立ち大阪、東京で上演された。31〜9月6日、大阪・梅田芸術劇場メイプルホール。13〜24日、東京・日本青年館ホール。10月20〜28日、台北。11月2〜5日、高雄

八月

・OSK日本歌劇団は7月に退団した前トップスター高世麻央の後任として、新たなトップスターに桐生麻耶が8月1日付で就任したと発表した。

・学生演劇の老舗、早稲田大学演劇研究会で、女性で初めて劇団「露と枕」を主宰する井上瑠菜(21)が注目を集めている。ユニット形式が目立つ昨今だが、井上は「賛同してくれた仲間と高めていきたい」と固定したメンバーと作品づくりをこたわる。

・日本演劇教育連盟主催の第67回全国演劇教育研究会が開催された。2〜3日、東京・国立オリンピック記念青少年センター・カルチャー棟

・上方歌舞伎塾の一期生、片岡千次郎と片岡松十郎、片岡千寿の3人を中心とする「あべの歌舞伎晴(そら)の会」が4回目を迎へ、鶴屋南北作の「謎帯一寸徳兵衛」に挑戦した。2〜5日、大阪・近鉄アート館

・劇作家協会公開講座2018夏が4〜5日、東京・座・高円寺2で開催された。

・明治150周年を記念して、武蔵野大学能楽資料センターが「明治維新とその後の能楽」と題した講座を実施した。3日、「能役者 梅若実・初声から四世まで―襲名を記念して」梅若実・金子健。28日、「靖国神社能舞台―明治から平成まで」三浦裕子

・3年に一度のダンスの祭典Dance Dance Dance @YOKOHAMA 2018がK.A.A.T.、赤レンガ倉庫、象の鼻パークなどを中心に市内全域・横浜の「街そのものが舞台」で200を超えるプログラムが展開された。4日〜9月30日

・中村獅童が「八月納涼歌舞伎」で、鶴屋南北作「盟三五大切」のあくどさと忠義の両面を持つ三五郎を初役で演じた。また、北條秀司作「花魁草」では、真つすぐで純粋な若い役者・幸太郎を爽やかに演じた。9〜27日、東京・歌

舞伎座

・2017年5月に劇団化した「阿佐ヶ谷スパイダース」の第1回公演「MAKOTO」(長塚圭史作・演出)が上演された。9〜20日、東京・吉祥寺シアター。大阪・新瀨、横浜、松本でも上演。

・10日、日中平和友好条約締結40周年を記念して北京天橋芸術中心で狂言師・野村万作、萬斎父子らによる狂言公演が開かれた。萬斎による解説の後、「棒縛」「川上」「茸」の3演目が披露され、会場は笑いと拍手で沸いた。900席分のチケットは30分で売り切れ、別ルートで販売された一部のチケットには10倍以上の価格がついたという。翌日には在北京の日本大使館で狂言講座が行われた。

・タレントの関根勤が座長を務めるカンコンキンシアターが30周年を迎え、舞台「カンコンキンシアター32 THE LAST MESSAGE」クドロー!」が上演された。10〜19日、東京グロリア座

・青年劇場が原田マハの小説「キネマの神様」を元にした同名の舞台を上演した。「人と人が生でつながり合う場所の大切さを描ければ」と演出の藤井ごう。14〜23日、東京・紀伊國屋サザンシアターTAKASHIIMAYA。

・自らの過酷な戦争体験を語る活動を続けてきた俳優の宝田明。半生を劇化した音楽朗読劇「宝田明物語」が藤沢で

上演された。舞台の最後には、公募で集まった多くが戦争を体験した市民合唱団もコーラスで出演した。18日、神奈川・藤沢市民会館大ホール

- ・福岡の劇団「非・売れ線系ヒーナス」の新作「関門オベラ」(田坂哲郎作・演出)が上演された。「平家物語」を下敷きにした古典ミュージカル。19日、福岡・ミリカローデン那珂川文化ホール
- 9月14・15日、山口・下関市生涯学習プラザ風のホール
- ・ヨーロッパで日本以上に高い評価を得ている劇作家・演出家の岡田利規。タイの小説家のウテティット・ヘー・マムーンの小説「プラータナー」… 憑依の「ポートルート」を脚本化。演出した。セノグラフィイは塚原悠也。出演者はタイで行ったオーディションで選出した。22・26日、タイ バンコク チュラロンコン大学文学部演劇学科ソッサイパントウムコーモン劇場。12月13・16日、パリ・ボンピドゥ・センター(「フェスティバル・ドートンヌ」パリ/ジャポニスム2018公式企画)
- ・文化庁・日本演出者協会主催の国際演劇交流セミナー2018②韓国特集「パク・クニョ」演出ワークショップ5日間が兵庫県立ピッコロシアター中ホールで行われた。22・26日
- ・劇団青年座所属で福島県いわき市在住の劇作家・高木達が震災と原発事故の体験を基に「避難弱者」の問題を描く二人芝居「ぼたん雪が舞うとき」を上演

した。3組の演出家と出演者が日替りで競演した。22・9月2日、東京・下北沢、小劇場B1

- ・災害や売春など社会問題を題材にしてきた劇団「チーズ theater」が親の事情などで出生届が出されず「無国籍」となった人を描いた2本立ての演劇「川辺市子のために」「川辺月子のために」を上演した。22・9月2日、東京・サンモールスタジオ
- ・北海道命名150年の今年。幕末の蝦夷地を探検し、北海道の名付け親となった人物のミュージカル「松浦武四郎くさい・大地との約束」(粟城宏脚本・演出)を、わらび座が上演した。22・23日、札幌。25日、帯広。26日、上士幌町。9月1日、松坂。2日、安城。6・7日、渋谷区。13日、北海道・浦河町。17日、根室。19日、釧路。21日、旭川。25日、留萌。2019年1月1・3日、あきた芸術村わらび劇場
- ・23日、兵庫県は、観光振興や文化芸術の分野で活躍する人材の育成をめざし専門的な職業教育を行う「国際観光芸術専門職大学(仮称)」を豊岡市に設置する構想を発表した。同市ゆかりの平田オリザが学長に就任し、1年次に全員が演劇を学び、舞台俳優や文化施設運営者、観光プランナーなどを養成する。2021年4月に開学予定。
- ・神奈川県と県演劇連盟が主催し、芝居づくりに挑戦して演劇に親しんでも

らうプログラム「青少年のための芝居塾」。本年度約20年。今年は16・25歳の男女計14人が参加して、特別養護老人ホームを舞台に歌を交えた音楽劇「万！万！歳！ー2018 ver.1ー」を上演した。25・26日、横浜・神奈川県立青少年センター紅葉坂ホール

- ・歌舞伎界のセンター、尾上右近が自主公演の会「第4回研の會」を開いた。「恋飛脚大和往来 封印切」の亀屋忠兵衛、「二人腕久」の腕屋久兵衛に初めて挑んだ。「封印切」は中村扇治郎に指導を仰ぎ、遊女梅川は志太郎がつとめた。長唄舞踊「二人腕久」は志太郎と踊る。26・27日、東京・国立劇場小劇場
- ・26日、二松学舎大学などが製作した文豪、夏目漱石のアンドロイドが出演し、劇作家の平田オリザが作・演出を手掛けた演劇「手紙」が同大で初上演された。声は孫の夏目房之介の声から合成した。舞台はアンドロイド演じるロンドン留学中の漱石が、人間の女優が扮する日本の親友の正岡子規と、手紙のやり取りなどをする内容。
- ・文化庁・日本演出者協会主催の国際演劇交流セミナー2018③スイス特集「二次元を舞台化する」演劇的な置き換えのダイナミズム」が行われた。26・30日、東京・ゴックジスタジオ。9月1・6日、札幌・扇谷記念スタジオZOO
- ・関西の若手舞台女優の発掘・育成を目的し、劇作家・演出家のオカモト國

ヒコと、俳優・演出家の中川浩三のタッグでスタートした「Project 1 真夏の太陽ガールズ」。オーディションで選ばれた18人が出演するシクロナイズドスイミングに打ち込む少女たちの姿を描く舞台「キラメキ私」はトビウオ、あなたは太陽」が上演された。29・9月2日、大阪・HEP HALL

- ・29日、「古典芸能を未来へ」至高の芸と継承者」尾上流の公演が行われた。十一年続いた古典芸能のイベント「芸の真髄」を発展的に解消し、世代を超えた芸の継承と広がりテーマに新たにスタートするシリーズの第一弾。尾上流宗家・尾上菊五郎、長男の尾上菊之助。尾上流三代家元・尾上墨雪。長男で四代家元・尾上菊之丞ら。尾上流が総出演。東京・国立劇場大劇場
- ・30日、和泉流狂言師で人間国宝、野村万作(87)が国立能楽堂の企画公演「素の魅力」で、面も装束もつけずに、紋付きと袴で演じる袴狂言「釣鉤」に挑戦した。

九月

- ・1日、歌舞伎俳優の中村鷹之資の勉強会「第五回翔の會」が東京・国立能楽堂で催された。片山九郎右衛門の指導で仕舞「熊坂」を舞った他、清元「子守」は妹の渡邊愛子、清元「吉野山」は忠信「鷹之資」静「愛子」司會「葛西聖司

・1日、吉本興業の常設劇場「よしもと天神ビブレホール」が福岡にオープンした。市内では14年半ぶりの劇場復活。

・1990年代の映画「ザ・プロデューサー」を原作とした、2007年に英国で舞台化された「サメと泳ぐ」(千葉哲也演出、徐賢世子翻訳)が日本で初上演された。田中哲司が傍若無人なプロデューサーを演じた。関西テレビ放送開局60周年記念作品。1〜9日、東京・世田谷パブリックシアター11日、仙台 14〜17日、西宮 20〜21日、福岡 28日、愛媛 10月4日、広島

・病氣療養していた中村福助が東京・歌舞伎座「秀山祭九月大歌舞伎」で「金閣寺」の慶寿院尼役で約5年ぶりに舞台復帰した。2〜26日

・歌舞伎俳優の中村芝翫が襲名後初の翻訳劇「オセロ」(井上尊晶演出)に挑んだ。壇谷いしがデズデーモナで共演。音楽は松任谷正隆、河合祥一郎訳。2〜26日、東京・新橋演舞場

・世田谷パブリックシアターは2013年から毎年秋に中学生演劇部の連続ワークショップを開いている。過去5年で約60人が参加した。その中で学校を休みがちの子も少なくなかった。そこで、夏休み明けの2日、初の試みとして中学生向けに無料のイベント「学校生活はいろいろあるけれど……みんなよりちよっと先輩の話聞いてみない？」を企画した。不登校やいじめにあつた先輩たちが、学校に足の向かない子たちと語り合ったり、一緒に思いをカルタにして遊んだりした。

・3日、新劇人会議・新日本婦人の会豊島支部が反核ミニフェスティバル2018を開催した。豊島区稚科ヶ谷地域文化創造館 多目的ホール

・松竹新喜劇の創立70周年記念公演で新喜劇屈指の名作「人生双六」(茂林寺文福・館直志合作)が、次代を担う若手俳優を重要な役に抜てきして上演された。3〜12日、大坂松竹座

・5日、劇団四季の俳優が今年七月、高所から転落して重傷を負っていたことが分かった。同劇団は社外監査役を委員長とする調査委員会を設置。調査報告書をまとめた。吉田智喜樹社長は「未然に防ぐことが出来ず、誠に断腸の思いです。けがをされた俳優とそのご家族に、心からお見舞いを申し上げたいと思います。再発を防止するため、劇団全体の体制を徹底的に見直していく所存です」とコメントを発表した。

・6日、現代能「陰陽師 安倍晴明」(晴明 隠された謎……)が上演された。晴明の敵役の葦原道満(梅若美玄祥)晴明(野村萬斎 出演・演出)狐の化身。葛葉姫(元宝塚歌劇団のトップスター、大空ゆうひ)語り部 桂南光(上方落語家)藤間勘十郎脚本 補綴 東京・新宿文化センター大ホール

・劇場演出空間技術協会(JAET)が、劇場演出空間施設及びこれに関連する設備・機器の安全確保と技術の向上に関する調査及び研究の成果を発表する場として、JAETフォーラム2018を北海道で初めて開催した。

・「劇団現代古典主義」が「アントーニオとシャイロック」(夏目桐利脚色・演出)を上演した。7〜9日、神戸三宮シアター・コレクター

・劇団チョコレートケーキの劇作家、古川健が初めて文学座に書き下ろした「かのような私」或いは斎藤平の「一生」(高橋正徳演出が文学座アトリエで上演された。7〜21日)

・浅利演出事務所が7月に世を去った演出家・浅利慶太が生前最後に企画した仏の作家ラシーヌの古典戯曲「アンドロマック」を上演した。亡き相手を慕う妃を演じる野村玲子。師であり、夫でもあった浅利への思いを胸に抱きながら、舞台に立った。7〜12日、東京・自由劇場

・古典作品を独自のスタイルで見せる「劇団現代古典主義」が「アントーニオとシャイロック」(夏目桐利脚色・演出)を上演した。7〜9日、神戸三宮シアター・コレクター

・「松竹大歌舞伎 近松座訪露公演」が行われた。鴈治郎、扇雀らが「傾城反魂香」「吉野山」を上演した。9〜15日、モスクワ・国立アカデミー・モスソピエト劇場 19〜22日、サンクトペテルブルク・ポリシヨイドラマ劇場、「ロシア初の大歌舞伎公演」から90年。

・「第45回大阪劇団協議会フェスティバル」OSAKA劇フェス2018が開催された。10の劇団が参加し熱い舞台を繰り広げた。7〜12月16日

・英国の女流ルーシー・カークウッドが、東京電力福島第一原発事故から着

想を得て脚本をてがげた「チルドレン」(小田島恒志訳、栗山民也演出)が日本初演された。高畑淳子、鶴見辰吾、若村麻由美の3人が挑んだ。8〜9日、彩の国さいたま芸術劇場 12〜26日、世田谷パブリックシアター 29〜30日、豊橋 10月2〜3日、大阪 10日、高知 13〜14日、北九州 20日、富山 30日、宮城

・日本演出者協会による「日本の戯曲研修セミナー」in東京が開催。別役実の「カンガルー」と唐十郎の「唐版・風の又三郎」を課題作品にして「読む」「話す」「学ぶ」そして「発表」を通して戯曲を共有し、更なる理解を深めた。8日、13日、16日、21日、24日、26〜30日、本多スタジオ(21のみ芸能花伝舎)

・ロシア初の大歌舞伎公演から90年。「松竹大歌舞伎 近松座訪露公演」が行われた。鴈治郎、扇雀らが「傾城反魂香」「吉野山」を上演した。9〜15日、モスクワ・国立アカデミー・モスソピエト劇場 19〜22日、サンクトペテルブルク・ポリシヨイドラマ劇場、「ロシア初の大歌舞伎公演」から90年。

・「第45回大阪劇団協議会フェスティバル」OSAKA劇フェス2018が開催された。10の劇団が参加し熱い舞台を繰り広げた。7〜12月16日

・英国の女流ルーシー・カークウッドが、東京電力福島第一原発事故から着

想を得て脚本をてがげた「チルドレン」(小田島恒志訳、栗山民也演出)が日本初演された。高畑淳子、鶴見辰吾、若村麻由美の3人が挑んだ。8〜9日、彩の国さいたま芸術劇場 12〜26日、世田谷パブリックシアター 29〜30日、豊橋 10月2〜3日、大阪 10日、高知 13〜14日、北九州 20日、富山 30日、宮城

・日本演出者協会による「日本の戯曲研修セミナー」in東京が開催。別役実の「カンガルー」と唐十郎の「唐版・風の又三郎」を課題作品にして「読む」「話す」「学ぶ」そして「発表」を通して戯曲を共有し、更なる理解を深めた。8日、13日、16日、21日、24日、26〜30日、本多スタジオ(21のみ芸能花伝舎)

・「日韓演劇週間V.O.I. 6」水底に轟く声―ストアハウスコレクションNo.13」で、劇団チヨルピョク(韓国)「水底で息をするもの一人もなし」(パク・グニョン作、チョン・チウク演出)と、ぼこぼこクラブ(日本)「爆発寸前のジャスティス」(杉浦一輝作、ミカミヨウエイ演出)が競演した。12〜16日、東京・上野ストアハウス
 ・日仏友好160周年記念イベント「ジャポニスム2018」の一環として能、歌舞伎、文楽、日本舞踊、現代演劇などが上演された。12日にはヴェルサイユ宮殿オペラ劇場で宮本亜門演出、観世流能楽師出演により、能楽「石橋」と羽衣をベースに3D映像を初めて融合させた新たな舞台芸術「YUGEN幽玄」が繰り広げられた。13〜19日(17日休演)には、松竹大歌舞伎が中村獅童と中村七之助らによる「色彩間近豆 かさね」(初共演)と歌舞伎十八番「鳴神」(初役)を国立シヤイヨー劇場で上演した。19〜25日(23日休演)には、杉本博司構成・美術による「ディヴァイン・ダンス三番叟」と「月見座頭」に、野村万作・萬斎・裕基の親子三代が共演。パリ市立劇場エスパス・カルダン
 ・宮沢章夫が主宰する遊園地再生事業団が早稲田小劇場とらま館と共同で「14歳の国」を20年ぶりに再演した。再演を決めた大きな理由は高校の演劇部などからの上演したいとの声。初演の

戯曲では登場人物が全員男性だった。女子部員が多い高校演劇では上演が難しかったため、戯曲を女性版に書き直した。14〜10月1日、東京・早稲田小劇場とらま館
 ・芸能生活20周年の笹本玲奈が11年ぶりに仏革命に散った王妃を描くミュージカル「マリー・アントワネット」に挑戦。花總まりと共にマリー役を担う。14〜30日、博多座 10月8日〜11月25日、東京・帝国劇場 12月10〜21日。名古屋・御園座 2019年、1月1〜15日、大阪・梅田芸術劇場メイホール
 ・2017年に宝塚を退団した朝夏まなとがミュージカルの名作「マイ・フェア・レディ」(翻訳・訳詞・演出G2)の主人公イライザ役で初舞台。「16年間男性の研究をしていたので、女優になるのも同じくらいかかるのでは」と思うほど大変。女心を一から勉強したい」と男役からの転身の苦労を語る。神田沙也加とのWキャスト。16〜30日、東京・東急シアターオーブ 10月6〜7日、久留米 10〜11日、広島 19〜21日、大阪 24〜25日、名古屋 31〜11月1日、大分
 ・17日、1990年にスタートした橋田壽賀子ドラマ「渡る世間は鬼ばかり」の3時間スペシャル2018(「MBS」が放映された。通算510回目。プロデューサーの石井ふく子は、最近人は人と人が向きあうよりも機械と向

き合っている。ドラマには人間がたくさん出てくるが人間がいない。心のあるドラマをつくりたいと強調した。作者とプロデューサー合わせて180歳超えの熱情。
 ・18日、7月に85歳で死去した演出家浅利慶太のお別れ会が、東京の帝国ホテルで開かれた。劇団員やかつて四季で活躍した市村正親、石丸幹二、中曾根康弘元首相ら約1300人が参列した。劇団員らがミュージカル「コーラスライン」の中の「愛した日々」に悔いはない」を献歌した。
 ・ストラヴィンスキーの音楽劇「兵士の物語」が初演から100年。4年ぶりに串田和美演出で再演。石丸幹二(語り手)、串田和美(悪魔)らが出演。音楽監督…郷古藤、翻訳…小宮山智津子。19〜23日、まつもと市民芸術館実験劇場 27〜10月1日、東京・スパイラルホール 4日、大垣 6〜7日、西宮
 ・演出家・宮城聰がコリヌ国立劇場(フランス)の2018年秋のシーズン開幕を飾る作品「Revelation」(顕れ)を演出した。同劇場芸術監督のワジディ・ムアッッドの指名で、フランス国立劇場のシーズンに日本人演出家と日本の劇団の作品で幕を開けるのは劇場史上初めてのこと。20〜10月20日
 ・文化庁・日本演出者協会主催の演出

家・俳優セミナー2018 演劇大学in やまがたが山形市民会館で開かれた。21〜24日
 ・高齢者の表現活動に取り組んできた彩の国さいたま芸術劇場が、高齢者舞台芸術×国際フェスティバル「世界ゴールド祭2018」を開催した。日本、英国、シンガポール、オーストラリアからパワフルなシニア・パフォーマンスが埼玉に集結した。公演だけでなくシンポジウムやワークショップなども同時開催した。22〜10月8日
 ・岡山の介護施設で働く俳優・介護福祉士の菅原直樹。「介護と演劇は相性がいい」を合言葉に、「老いと演劇」を考える体験型講座を始め、劇団OIB okkeshiを設立。日本初の高齢者による舞台芸術の国際フェスティバル「世界ゴールド祭」(さいたま市)で、認知症の妻を介護する92歳の団員の体験をもとにした徘徊演劇「よみにひはくれない」を披露した。22〜24日、さいたま・浦和市街地
 ・ひとみ座乙女文楽の結成五十周年を記念した公演が上演された。23〜24日、東京・東京芸術劇場シアターウエスト
 ・鎌倉の建長寺で開かれてきたNPO法人「日本語の美しさ伝える会」(伊藤文二郎会長)による親子向けの朗読会が通算700回に達した。2005年1月から毎週土曜に開催してきた。

・27日、国際俳優連合・日本俳優連合共催シンポジウム「俳優の仕事と地位に関する国際間対話」が開催された。
東京・憲政記念館講堂

・米国の作家・詩人のレイ・ブラッドベリのSF小説「華氏451度」をK A A T 神奈川芸術劇場が舞台化した。

・焚書による思想管理の話。白井晃演出、長塚圭史上演台本。28〜10月14日、同劇場ホール 10月27・28日、穂

の国とよはし芸術劇場 11月3〜4日、兵庫県立芸術文化センター

・東京芸術劇場の芸術監督を務める野田秀樹が「東京演劇道場」と銘打ち、次

世代の俳優や演劇人の育成に乗り出した。

・大阪で毎日演劇が見られる環境を作ろうと劇作家・演出家・俳優として活動する増田雄。劇場ではなく、飲食店や武道場、会社の会議室など多彩な会場を使い「月一回、1年間」日替わり30作公演を目指している。

・クルーズ船「飛鳥II」による文楽クルーズが吉田玉男らによって行われた。洋上公演、玉男によるトークショー、文楽講座など。28〜30日、横浜発着

・28日、富山の劇団文芸会創立70周年記念公演アントン・チェーホフ作「結婚の申し込み」が「文芸座」とヨーロッパの「ブレイヤーズ・スタジオ・デパレツェン」と国際競演された。富山県教育文化会館ホール

・陶芸家・エッセイストとして活動する吉屋えい子が劇団「坐・ポルカドット」を結成し、実体験を基に、被害が深刻な特殊詐欺への注意を呼び掛ける朗読劇「ふうん老女と詐欺師」を上演した。29日、横浜・港北公会堂

・「新・6週間のダンスリレースン」。2006年の初演からリリー役を演じ、自ら本作をライフワークと話す草笛光子。松岡昌宏を新たな相手役に迎え、積み重ねてきたリリー像を見直し、再構築することに没頭した。上演台本・演出は鈴木勝秀。翻訳は常田景子。29〜10月21日、東京・よみうり大手町ホール 26・27日、石川 30〜31日、福岡 11月3〜4日、大阪

・30日、6月に80歳で亡くなった俳優 加藤剛のお別れ会が東京の青山葬儀所であった。里見浩太郎、北大路欣也、司葉子、西郷輝彦らの共演者や俳優座の仲間、ファンら約1千人が参列。次男の俳優、加藤頼の「最後のカーテンコール」との呼びかけに、全員が万雷の拍手を送り、亡くを惜しんだ。

・30日、15日に75歳で亡くなった俳優の樹木希林の葬儀が、東京都港区の光林寺で営まれた。俳優の吉永小百合、北大路欣也ら関係者、ファン約1千500人が訪れ、その死を悼んだ。俳優の橋爪功が渡仏中の是枝裕和映画監督に代わり、弔辞を代読した。

・東京の劇団「東京ノヴィ・レパトリリーシアター」の芸術監督レオニ

ド・アニシモフ。地震や津波、原発事故の甚大な被害を知り、「自然と人間の均衡が崩壊している」ことを痛感。演劇で何ができるか。思案の末、神話には真実がある」と日本神話「古事記」天と地といのちの架け橋「を月」に一度、無観客の舞台で演じている。自然と人間の調和と鎮魂を祈る「儀式」。

十月

・片岡仁左衛門が「助六曲輪初花桜」の助六を芸術祭十月大歌舞伎 十八世中村勘三郎七回忌追善の夜の部で東京では20年ぶりに演じた。相手役の揚巻は十八世の次男七之助。兄の白酒売新兵衛を同じく長男の勘九郎が初役で演じた。1〜25日、歌舞伎座

・故十八代目中村勘三郎の七回忌追善公演が2か月間続く。東京・歌舞伎座での「芸術祭十月大歌舞伎」に続き、11月は勘三郎が心血を注いだ東京・浅草の仮設劇場「平成中村座」での「十一月大歌舞伎」。二人の息子、勘九郎と七之助がゆかりの演目に打ち込んだ。

・日仏友好160周年記念イベント「ジャポニスム2018」の一環として現代演劇シリーズ松井周演出「自慢の息子」がヨーロッパ初演。5〜8日、国立演劇センタージュネビリエ劇場

・こまつ座が「母と暮らせば」栗山民也演出を上演した。舞台は7年ぶり

の富田靖子が母の仲子を、松下洗平が息子の浩二を演じた。5〜21日、東京・紀伊國屋ホール

・山田風太郎のベストセラー伝奇小説を原作とする舞台「魔界転生」マキノノゾミ脚本、堤幸彦演出で上演された。日本テレビ開局55周年記念の舞台。上川隆也が剣豪柳生十兵衛を演じた。6〜28日、福岡・博多座 11月3〜27日、東京・明治座 12月9〜14日、大阪・梅田芸術劇場メインホール

・演劇評論家 扇田昭彦の仕事―舞台上に寄り添う言葉― 2015年に亡くなった演劇評論家、扇田昭彦の功績を振り返り、現代日本演劇の半世紀をたどる展覧会。6〜2019年1月20日、東京・早稲田大学演劇博物館

・日中平和友好条約締結40年を記念し、世田谷パブリックシアターが、中国の上海戲劇学院と共同で「風をおこした男―田漢伝(田沁鑫作・演出)」を上演した。中国国歌を作詞した劇作家・詩人に日本でも留学した田漢の生涯を演劇にした。6、7日。

・堺正章の娘、小春。カナダの劇作家モリス・パニツチの「金魚鉢のなかの少女(田中荘太郎翻訳・演出)に主人公口歳のアイリス役で出演した。地人会新社による公演。6〜14日、東京・赤坂RED/THETHEATER

・7日、新派百三十年記シンポジウム「新派再考」が立教大学池袋キャンパス太刀川記念館3階カンファレンス・

ルームで開かれた。神山彰、後藤隆基、金子明雄が講演。神山彰の司会で喜多村緑郎、河合雪之丞、齋藤雅文らが「新派130年とその未来」を語り合った。

・黒澤明監督の代表作「生きる」が、初めてミュージカル化された。市村正親と鹿賀丈史のベテラン2人が交互に主役を演じた。作曲・編曲、ジェイソン・ハウランド。脚本・歌詞、高橋知伽江。演出、宮本亜門。8月28日、東京・TBS赤坂ACTシアター

・水木しげるの思いを伝えたいと、イキウメの前川知大が作・演出し、「ゲゲゲの先生へ」が上演された。主人公・根津は佐々木蔵之介。8月21日、東京芸術劇場プレイハウス。9月28日、松本。11月2月5日、大阪。9月11日、とよはし。14日、宮崎。17月18日、北九州。23月23日、新潟

・韓国の劇作家、車賢錫(チャヒョンソク)率いる劇団「厚岩(フアム)」の創作劇「関西パンチ」が上演された。10月14日、東京・しもきたD A W N

・イタリアの精神障害者らによる劇団「アルテ・エ・サルデー」が来日し、公演した。11日、浜松。13日、東京・イタリア文化会館

・宝塚歌劇団のトップとして活躍した早霧せいな。退団後女優になったが浪漫活劇「るろうに剣心」(小池修一郎脚本・演出)で再び男役であれば戻った。11月7日、東京・新橋演舞場

11月15月24日、大阪・松竹座

・人と都市から始まる国際的な舞台芸術祭「フェスティバルトーキョー18」が37日間にわたり、国内外から集結する同時代の優れた作品の上演を軸に、トーク、映画上映などのプログラムを展開した。

・日仏友好160周年記念イベント「ジャポニスム2018」の一環として「日川浄瑠璃「文楽」が上演された。「日高川入相花王「渡し場の段」、壺坂観音靈験記「沢市内より山の段」。主な出演者は竹本千歳太夫、豊澤富助、吉田玉男。12月13日、シテ・ド・ラ・ミュージック

・日仏友好160周年記念イベント「ジャポニスム2018」の一環として「日本舞踊は「藤娘」「八島」「連獅子」を上演した。井上八千代、富山清琴らが出演。14月15日、シテ・ド・ラ・ミュージック

・14日、吉本興業は「サクラ大戦」シリーズの総合プロデューサーを務めた広井王子を総合演出に、10代限定の「少女歌劇団プロジェクト」を始めること発表した。2019年春から「和の美意識を体現する少女たち」のライブを、大阪市内に新たにつくる専用劇場から発信する計画。

・大阪を拠点に実験的作品を発表してきた劇団「エイチエムピー・シアターカンパニー」が小説作品を舞台芸術作品として書き写す新シリーズ「狂想

的身体論」を始めた。その第一作は泉鏡花の「高野聖」。俳優の豊かな身体表現と映像で小説作品を書き写す。笠井友仁構成・演出・舞台美術。14月21日(17日休演)大阪・K S A L O N 表現者工房

・15日、宝塚歌劇団は、花組トップ娘役の仙名彩世が2019年4月に退団すると発表した。19年4月28日に東京宝塚劇場で千秋楽を迎える「カサノヴァ」が退団公演となる。

・現代演劇の旗手・岡田利規(チエルフイツチユ主宰)が日仏友好160周年記念イベント「ジャポニスム2018」の一環として「三月の5日間」リクリエーション(17月20日「ブラータナー」憑依のポトレット)(12月13月16日)を上演した。ポンビドゥーセンター

・劇作家・唐十郎が学生時代の1961年に書いたとみられるシナリオと小説が見つかり、母校東京の明大図書館で展示された。8月に亡くなった布勢博一が保管していた。

・東京都杉並区高円寺の老舗銭湯「小杉湯」で自由な発想で踊るコンテンポラリーダンスのイベント「踊る銭湯」が開かれた。銭湯好きのダンサーと振付師でつくるユニット「バスタブN Y」が行きつけの小杉湯とタッグを組み、企画した。18、25日

・18日、漱石作品に魅せられた女優真野響子。「夢十夜」を語り芝居で演じた。

た。女優仲間の竹内晶子が演出。アルコールを楽しみながら演劇などを鑑賞する「オトナのほろよい夜会」横浜市中心区のハーバース・ダイニング

・北九州市出身の松井大悟率いる劇団「ゴジケン」が松井作・演出の新作「君が君で君で君を君を」を上演した。19日、文化省の創設をめざす芸術家会議が文化芸術推進フォーラムと協力して「連続フォーラム 今こそ文化省!」(全6回)を開催した。第一回はオペラ「後宮からの逃走」スタッフが語る、芸術の創造、制作、経済、助成。芸能花伝舎「後宮からの逃走」稽古場

・劇作家・演出家のケラリノ・サンドロヴィッチが新作「修道女たち」を上演した。信仰や神についてケラ流の考察を深める群像劇。23月15日、東京・本多劇場。11月23月24日、西宮

・終戦間もない1946年に発足し、神奈川県内で最も長い歴史を持つアマチュア劇団「劇団こゆるぎ座」が第66回公演「小田原義民録 下田隼人伝」(後藤翔作)を上演した。江戸時代に小田原藩の過酷な税から領民を救うため、自らが犠牲となつた下田隼人の生き様をテーマにしている。20月21日、小田原市民会館

・22日、京都・南座の劇場内部が報道公開された。1階席は取り払えば舞台と同じ高さに床を仮設でき、舞台の

1・2倍の広さの上演空間を生み出せる仕組みを新たに採用。5月には劇場全体を使った参加型のパフォーマンス公演を予定している。

・27日、2年8ヶ月にわたる大規模改修を終え11月1日に再開場する京都・南座前の四条通りで、歌舞伎俳優69人による「祇園お練り」があった。2013年に63人が参加した東京・歌舞伎座の開場パレードを上回り、過去最大規模となった。歌舞伎ファンら約1万50000人が道沿に詰めかけ、歌舞伎発祥の地での興行再開を祝った。

・28日、上方舞山村流宗家の山村友五郎が襲名後初のリサイタルを大槻能楽堂(大阪市)で開いた。

・29日、内戦の続く母国シリアを逃れて独ベルリンを拠点に活動している劇作家、ムハンマド・アッタルが来日し、大阪市北区の自主映画専門映画館「天劇キネマトロン」で交流会が開かれた。

・演出家・俳優養成セミナー「ワークショップ・演技体験」演劇大学in函館が、函館アリーナで開かれた。29日、11月4日

・月刊の舞台情報誌「シアターガイド」が12月号で休刊した。発行元のモーニングデスクが10月末に経営不振で倒産

したため。

・横溝正史の推理小説「犬神家の一族」(齋藤雅文脚色・演出)を劇団新派が同名で舞台化し上演した。喜多村緑郎が、難事件に挑む名探偵・金田一耕助を演じた。11月10日、大阪松竹座 14

・25日、東京・新橋演舞場

・七代目清元栄寿太夫を襲名した尾上右近が歌舞伎座の「吉例顔見世大歌舞伎の「十六夜清心」に、本興行では初めて清元で出演した。21月26日

・風間杜夫がアールサー・ミラー作の現代演劇の名作「セールスマンの死」(長塚圭史演出)の主役ウイリー・ロマン役に初めて挑んだ。「難役だが気負いはない」と思いを語った。31月18日、横浜・K A A T神奈川芸術劇場

ホール

・二代目 中村吉右衛門 写真展」が東京・銀座のミキモト銀座4丁目本店7階ミキモトホールで開催された。

吉右衛門を10年以上にわたって追い続ける写真家、鍋島徳恭の撮影した写真約30点を、手すきの伊勢和紙にプリントして展示。712月9日

・劇団テョコレートケキが、第二次世界大戦中の日本陸軍「731部隊」をテーマにした舞台「遺産」(古川健脚本、日澤雄介演出)を上演した。715日、東京・すみだパークスタジオ倉

・五大路子率いる「横浜夢座」が、童謡「赤い靴」を題材に母と子の情愛を問い直す「赤い靴の少女 母かよの物語」

(畑圭之助作、福島三郎脚色・演出)を上演した。814日、横浜・ランドマークホール

・劇団「鹿殺し」の丸尾九一郎が、自伝的小説を自ら脚本として、演出した「さよなら鹿ハウス」を上演した。818日、東京・丸の内・高円寺

・アイルランドの劇作家S・オケシーが第1次世界大戦を背景に書いた「銀杯」が森新太郎の演出により日本で初演された。9125日、東京・世田谷パブリックシアター

・北九州市の劇団「劇団青春座」が地元の誇りでもあるロックバンド「シーナ&ロケッツ」のボーカルを務めたシーナの生涯を描いた演劇「S H E E N A S I L O V E Y O U」を上演した。10、11日、北九州芸術劇場

・劇団前進座が愛らしい子供絵を描き続けた画家いわさきちひろの生誕100年の本年「ちひろー私、絵と結婚するの」(朱海青作、松本猛原案、鶴山仁演出)を上演した。1212月25日まで練馬、浅草ほか東日本各地巡演。

・青森県八戸市で地域に根ざし演劇活動を続けている劇団やませが明治の終わりに八戸女塾を開設し地域の女子教育に取り組んだ千葉クラをとりあげ、「學びませうー千葉クラの裁縫講習所」(佐々木功作・演出)を上演した。16、17日、八戸市公会堂文化ホール

・川崎のアマチュア劇団「京浜共同劇団」が創立60周年として、うば捨ての

物語「栖山節考」を上演した。おりん役は、劇団最高齢で唯一の創立メンバー若菜とき子(84)が務めた。17、18日、2212月、稽古場兼小劇場、スペース京浜

・17日、俳優で元参院議員の中村淳夫による反原発朗読劇「線量計が鳴る」が、福岡・八幡西区の黒崎コムシティ7階「子ども館ホール」で上演された。

・19日、松竹芸能は2019年1月1日に大阪の東心斎橋に新しい活動拠点となる劇場 D A I H A T S U 心斎橋角座(座席数120)を開場させる

と発表した。

・伊勢市の市民グループ「いせ演劇鑑賞会」が設立55周年を迎え、節目の19日に、こまつ座「マンザナ、わが町」を上演した。

・シェークスピアの「ロミオとジュリエット」松岡和子訳を宮藤官九郎が演出。可憐な23歳(森川葵)が演じるジュリエットに対して50歳のおじさん(三宅弘城)がロミオを演じる珍しい企画。2012月16日、東京・本多劇場

19日、新潟 2212月、大阪 2612月、刈谷

・21日、8月に78歳で亡くなった俳優の津川雅彦と、4月に82歳で亡くなった俳優の朝丘雪路の「合同葬お別れの会」が東京の青山葬儀所で行われた。

安倍首相、岩下志麻、中井貴一らの共演者や映画製作の仲間、ファンらが参

列し、夫婦だった2人との別れを惜しんだ。

・女性劇作家の瀬戸山美咲が初めて劇団青年座に書きおろした「残り火」(黒岩亮演出)が上演された。22〜12月2日、東京・ザ・スズナリ

・ダンスカンパニー「コンドルズ」主宰の近藤良平と、脚本家・演出家としても活躍がめざましい矢崎広の3人が、身体言語で演劇する新しいジャンルの舞台に挑戦した。「ダンスで演劇右まわりおとこ」(芳賀薫構成・上演台本・演出、近藤振付・演出)22〜25日、東京・あうるすぽっと

・熾光群が「サイパンの約束」(坂手洋二作・演出)を上演した。日本統治下のサイパンで青春を過ごした主人公を渡辺美佐子が演じた。23〜12月2日、東京・座・高円寺1

・気象予報士の劇団「お天氣しるべ」が、気象庁本庁で60年以上にわたって気象の専門書を販売してきた名物書店「津村書店」の閉店に伴い、世話になった感謝の劇「気象庁の本屋さん」(尾又泰二作・演出)を上演した。24、25日、東京・キノノートシアター

・「日本新劇俳優協会Festiva 1 2018」がプレヒトの芝居小屋で開かれた。2日目には当日本演劇協会理事の水谷内助義が新劇への思いや青年座について、いまの俳優に伝えたいことなどを話した。22、23日

・劇団昂が、映画化もされたベストセラー小説「評決」(原田一樹構成・演出)を舞台化し上演した。29〜12月3日、東京・あうるすぽっと

・イブセンの戯曲「民衆の敵」(広田敦郎・ジョンサン・マンビイ演出)が上演された。堤真一が、四面楚歌の状況に置かれながらも我が町の「不都合な真実」を告発する医師を演じた。29〜12月23日、東京・Bunkamuraシアターコクーン

・俳優の山崎一が、劇壇活動を開始し別役実の「森から来たカーニバル」を上演した。29〜12月9日、東京・駅前劇場

十二月

・第30回池袋演劇祭優秀賞を受賞した劇団現代古典主義が「王様と魔術師ベイコン」(夏目桐利脚本・演出)を上演した。1〜16日、東京・同劇団アトリエ

・1日、埼玉・ソニックシティ・オーブン30周年記念事業として、「INN OVA TION OPERA」(ストウパク・新卒塔婆小町)、「西本智実芸術監督・脚本・作曲補・指揮 織田英子作曲」が上演された。佐久間良子、村井國夫、尾上右近が出演。

・坂東玉三郎が女方屈指の難役「壇浦兜軍記 阿古屋」を演じ、中村梅枝、中村児太郎にも伝授して若手2人の初

役を見守った。「十二月大歌舞伎」2〜26日、東京・歌舞伎座

・中村吉右衛門が「増補双紋巴」で石川五右衛門を演じた。4度にわたって同役を演じた初代吉右衛門の型の復活をめざした。人間くさい五右衛門の葛藤を描き、つづら抜けで宙乗りにも挑戦した。3〜26日、東京・国立劇場大劇場

・三谷幸喜が、1700年の歴史をわずか2時間半の舞台にした新作ミュージカル「日本の歴史」を上演した。50人以上のぼる登場人物を中井貴一(57歳にして初のミュージカル)や香取慎吾ら7人の出演者が、次々とかわる役柄を演じた。4〜28日、東京・世田谷パブリックシアター 2019年1月6〜13日、大高・梅田芸術劇場

・菅井優が、新国立劇場の舞台「スカイライト」(浦辺千鶴翻訳 小川梨絵子演出)で教師として新たな人生を歩もうとする女性を演じた。6〜24日、東京・新国立劇場

・市街劇「ノック」の上演など社会を挑発し続けた寺山修司の遺した戯曲を「社会をふりむかせる」というテーマで読み解く「日本の戯曲研修セミナー in福岡vol.1」が開かれた。6〜15日

・シエルクスピアの「ロミオとジュリエット」を、未来の「カワサキ」を舞台に描いた「カワサキ ロミオとジュリエット」が上演された。「カワサキアリス」を主宰するAsh(アッシュ)が翻訳、脚色、演出。6〜11日、ラゾーナ川崎プラザソル

・劇団民藝が、敗戦直後の日本を舞台に、激動する社会で旧華族と取り巻く人々を描いた「グレイクリスマス」(斎藤機作、丹野郁弓演出)を上演した。岡本健一が客演した。7〜19日、東京・三越劇場

・シアター風姿花伝がフランスの劇作家ジャン・ジュネの戯曲「女中たち」を上演した。「奥様、ごっこ」を繰り広げる女中たちや女主人を中嶋朋子と那須佐代子、コトウロレナの3人が演じた。9〜26日、東京・シアター風姿花伝

・若手歌舞伎俳優、四代目村橋之助が、初の現代劇、ソポカレスによるギリシヤ悲劇「オイディプス王」を新たな切り口で上演する舞台「オイディプスREXXX」(杉原邦生演出)に主演した。12〜24日、横浜・KATA T神奈川芸術劇場ホール

・大人計画が30周年を迎え、記念イベント「30祭」を始めた。松尾スズキ、宮藤官九郎、阿部サダヲ、皆川猿時、荒川良々、平沼紙らの劇団員たちが参加した。「30祭」ではメイン催事として30年の歩みを舞台や俳優の写真で振り返る「大人計画大博覧会」が実施された。18〜30日、東京・表参道のスパイラル。ほかに上映会やコンサートなど。

・演劇ユニットJACROWが、高等

小学校卒から首相の座に上り詰めた政治家・田中角栄の人生を扱ったシリーズの新作「宵闇 街に登る」(主宰の村ノブアキ脚本・演出)を上演した。20〜27日、東京・下北沢の小劇場B1

・22日、宝生流二十世宗家の宝生和英が大曲の能「道成寺」を舞った。国立能楽堂の開場35周年と明治150周年を記念する特別企画公演。
・日本演劇教育連盟主催による全国演

劇教育研究集会が滋賀県草津市の立命館大学びわこ・くさつキャンパスエポック立命21で開かれた。22〜23日
・演出家・俳優養成セミナー2018 演劇大学 in しまねがビッグハー

日 下出雲を会場にして開かれた。22〜24

平成三十年 雑誌掲載戯曲

2018年1月〜12月

演劇雑誌「悲劇喜劇」早川書房刊

・「秘密の花園」 作||唐十郎 演出||福原允則(東京芸術劇場公演上演台本)

・「出てこよう」としてのトロンプレイユ(前篇) 作・演出||上田誠(ヨーロッパ企画第36回公演)

・「赤道の下のマクベス」 作・演出||鄭義信(新国立劇場20周年記念公演上演台本)

・「出てこよう」としてのトロンプレイユ(後篇) 作・演出||上田誠(ヨーロッパ企画第36回公演)

・「荒れ野」 作・演出||桑原裕子(穂の国とよはし芸術劇場PLAT、アル☆カンパニー公演上演台本)

・「1984」 原作||ジョージ・オーウェル 脚本||ロバート・アイクダンカン・マクミラン 翻訳||平川大作 演出||小川絵梨子(新国立劇場20周年記念公演上演台本)

9月号掲載

5月号掲載

・「山」 作||松原俊太郎 演出||三浦基(KAAT×地点共同制作第8弾KAAT神奈川芸術劇場公演上演台本)

・「ウィルを待ちながら」 作・演出||河合祥一郎(こまばアゴラ劇場公演上演台本)

・「オーランド」 作||ヴァージニア・ウルフ 翻案・脚本||サラ・ルール 翻訳||小田島恒志 小田島則子 演出||白井晃(KAAT PARCOプロデュース公演上演台本)

・「ザ・空ver.2」誰も書いてはならぬ 作・演出||永井愛(二鬼社公演 42上演台本)

・「宝塚BOYS」脚本||中島淳彦 原案||辻則彦「男たちの宝塚」演出||鈴木裕美(東京芸術劇場プレイハウス他上演台本)

11月号掲載

・「誤解」 作||アルベール・カミュ 翻訳||岩切正一郎 演出||稲葉賢恵(新国立劇場上演台本)

・別役実連続上演シリーズ第8作目 別役実書き下ろし作品―注文の多い料理昇降機―「ああ、それなのに、それなのに」 作||別役実 演出||真鍋卓嗣(名取事務所公演上演台本)

11月号掲載

演劇雑誌「テアトロ」カモミール社刊

・「白鳥銀塩館」 作||響きリュウ(萬國四季協会上演台本)

・「浮かれるベリクアン」 作||坂口瑞穂(劇団黒テント上演台本)

・「パールの賛歌」―パールを愛した女 原作||ベルトルト・プレヒト 訳||岩淵達治 上演台本・演出||浅野佳成(東京演劇集団風上舞台本)

・「デモクラティアの種」―熊楠が孫

文に伝えた世界― 作||竹内一郎(オフィスワンダーランド上演台本)

2月号掲載

・「女人嵯峨」 作||堀江安夫(劇団俳小プロジェクト 特別公演上演台本)

3月号掲載

・「いずこねぎ」 作||くるみざわしん(第30回テアトロ新人戯曲賞最終候補作)

4月号掲載

・「終のすみか」 作||鈴木稜(第30回テアトロ新人戯曲賞最終候補作)

5月号掲載

・「暗い石」 作||アルベルト・コネヘロ 訳||田尻陽一

・「安楽病棟」 原作||帚木蓬生(安楽病棟(新潮文庫刊) 脚本||シライケイタ(劇団青年座上演台本)

6月号掲載

・「律女立つ」 作||大森句子(第30回テアトロ新人戯曲賞 最終候補作)

3 劇団句組第5回公演上演台本

・銀河鉄道の贈り物「夢のトランク」
作||江久里ばん|タリエイティブ・
リング上演台本)

7月号掲載
・リーディング「あの日の記憶」戦争孤
児Mの記憶 作||M

・第30回テアトロ新人戯曲賞最終候補
作4「無名稿出家とその弟子」
the priest and
his disciples.
脚本||中條岳青

8月号掲載
・「I DO! I DO!」〜結婚に
ついてのミュージカル〜作||ヤ
ン・デ・ハルトツク「四柱式寝台」
に基づく2017年改訂版 台
本・詞||トム・ジョーンズ 音楽
||ハーヴェイ・シュミット 翻
訳・訳詞||勝田安彦(タチ・ワール
ド上演台本)

9月号掲載
・「やつとことつちやうんとこな」作
||池田政之(劇団NLTコメディ路
線50周年記念公演③上演台本)

10月号掲載
・「ピシバシと叩いて渡るイシバン君」
作||はせひろいち(劇団ジャブジャ
ブサーキット第59回公演上演台本)

11月号掲載
・「斜光―虚空の舟―」作||響リユウ
(萬国四季協會上演台本)

・「漫画の祖、ふたり葉天と一平」
作||竹内一郎(演劇集団ワングラ
ンド上演台本)

12月号掲載
優秀新人戯曲集2018
劇作家協会編

・「精神病院つばき荘」作||くるみざ
わしん

・「黒いらくだ」作||ピンク地底人
3号

・「アカメ」作||八敏健之介
・「下校の時間」作||長谷川彩
・「うかうかと終焉」作||出口明、大
田雄史

季刊雑誌「高校演劇」高校演劇劇作研究
会刊

・「風船少女うららの大冒険」(男1女
14その他1)〜ブラックストーン大
王から胡桃姫を救え!!〜おい、カネ
コ、本当の悪はお前だってわかってん
だぞー 作||宇田川豪大

・「保健
室体操」(男1女7) 作||清水の
ちお

・「厄介な紙切れ〜バルカ
ン・シンドローム〜」(男3女10)
作||大嶋昭彦

・「↓青森」(男
8女2)久留米大学附設高校演劇
部・作||岡崎賢一郎

・「ほら吹き
食堂のエース」(男2女6) 作||
黒澤恵一
244号 2018春
作||村山大

輔・「空から降ってくるのは、愛
(女4その他2) 作||阪本龍

夫・「整理整頓」(男2女6その他2)
作||宮本浩司

・「わたし
はかもめ」(男1女3) 作||福田
成樹

・「突撃!販売実習!!」北川
咲アタック篇〜(男0〜女43そ
の他7〜9) 作||矢野青史

245号 2018夏
長野大会上演作品特集
・「ぼくらの青春ドキュメント」作||
ユウと愉快な仲間達

・「フット
ボールの時間」作||豊嶋了子と丸
高演劇部

・「卒業」作||角海紀
雄

・「髪を梳かす八
月」作||塚原政司

・「Anot
her Life」が座る場所」作||
日下部英司

・「手塚万桜・藤澤明
穂」・「待ちの風景」作||山崎公
博

・「潤色」作||陽高校演劇部
・「宇
宙の子供たち」作||クリアアウー
ター

・「潤色」作||仙台三桜高校演劇
部

246号
・「風の風車」作||黒瀬貴之

・「500マイル」作||萩原一哉
・「夕暮れよりもまだ向こう」作||下
窪摩那

・「村端賢志
・アリとキリギリス」作||ばぶ☆れ
のん

・「きやききゆけきよ」作||吉田勉
247号 2018秋

・「お・も・て・な・し」
・「あずきとくりーむ」作||宮本浩
司

・「中桐、仕事やめるってよ」作||豊
嶋了子と丸高演劇部

・「絶滅危惧部」作||鶴見充展
・「体育祭」作||宮島宏幸

・「AKA」作||川合智・河邊一敏
247号 2019冬

・「M夫人の回
想」原作||W.シェイクスピア、
翻案||郷原玲

・「Time Aff
ter Time」〜インディアン
サマーより〜 作||阿部順

平成三十年 演劇関係新刊書

平成30年(2018年)1月～12月の間に刊行された主な演劇関係新刊図書・演劇論、演劇評論、随筆、芸談、戯曲集一を収録した。
 ※書名、著者・編集者名、税込価格、出版社名の順に記載

『1月』 「我がまちの人情喜劇『銀の馬車道』演劇が生んだ地域のつながり」 姫路コンベンションサポート(編著) 1080円 姫路コンベンションサポート	「児童・青少年演劇ジャーナル」『げき』19」 児童・青少年演劇ジャーナル(げき)編集委員会(編) 1296円 児童・青少年演劇ジャーナル(げき)編集委員会	「演劇と教育 2017年 12月号」 1080円 晩成書房	「演劇界 2018年 2月号」 1450円 小学館	「ストロベリーイレシネマの絶対に向けて」 渋谷哲也(編) 4536円 森話社	三月十五日カエサル最期」 ソーン トン・ワイルダ(著) 3996円 みずず書房	「歌舞伎と日本人」 中村義裕(著) 2160円 東京堂出版	「オッペケペー節と明治(文春新書)」 永嶺重敏(著) 950円 文藝春秋	「1968 文化(筑摩選書)」 四 方田犬彦(編) 2592円 筑摩書房	「えんぶ 2018年2月号」 499
円 えんぶ 「かぶき手帖 最新歌舞伎俳優名鑑 2018年版 特集 義太夫歌舞伎への招待」 日本俳優協会(編集) 1601円 日本俳優協会	「海老蔵を見る、歌舞伎を見る」 中川 右介(著) 1620円 毎日新聞出版	「二人道成寺(角川文庫)」 近藤史恵(著) 648円 KADOKAWA	「日なたと日かげ 永井和子随想集」 永井和子(著) 2700円 笠間書院	「高麗屋の逸品」 松本幸四郎(著) 3240円 KADOKAWA	「かぶきがわかるねこづくし絵本 2 義経千本桜」 吉田愛 瀧晴巳(著) 1404円 講談社	「顔で笑って、心で泣いて。忘れられない母のことば 梅沢劇団創立80周年記念出版」 梅沢富美男(著) 1620円 ブックマン社	「宝塚GRAPH 2018年2月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ	「YUGA」 大和悠河(著) 2484円 主婦の友インフォス	「自分らしく輝く51の言葉」 仁科有理
(著) 864円 幻冬舎メディアコミュニケーションズ	「STAGEnavi vol.19 (2018)(NIKKOMOOK Tnnaviプラス)」 1000円 産経新聞出版	「Le Cing(ル・サンク) 2018年2月号」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ	「タカラヅカスペシャル 2017 ジュテーム・レビュール・モン・パリ誕生90周年」(タカラヅカMOOK) 1000円 宝塚クリエイティブアーツ	「ここがスゴイよ!ニッポンの文化大図鑑 名作マンガ100でわかる!」 1巻 芸をみかく・演じる」 ニッポンの文化大図鑑編集委員会(編) 3240円 日本図書センター	「人生アドリブ活用術 88の『愛言葉』」 杜げあき(著) 1404円 講談社	「歌劇 2018年1月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ	「敗走と捕虜のサルトル 戯曲『パリオナ』『敗走・捕虜日記』『マチューの日記』」 ジャン・ポール・サルトル(著) 3888円 藤原書店	「演技する道化サダキチ・ハートマン	

- ち 近世の観劇と読書」 北村紗衣 (著) 3024円 白水社
- 「芸術と労働」 白川昌生(編) 3240円 水声社
- 「歌舞伎と文楽のエンバク玉手箱」 児玉竜一(監修) 1000円 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
- 「舞台芸術 21 FEATURE・アーカイブを『批評』する」 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター(企画・編集) 1620円 角川文化振興財団
- 「STAGEnavi vol.20(2018)(NIKKOMOOKTNavipラス)」 1000円 産経新聞出版
- 「a+a美学研究第12号シアトロクラシー」 大阪大学大学院文学研究科美学研究室(編集) 1620円 松本工房
- 「文学における隣人」 寺山修司への入口(立正大学文学部学術叢書) 文化名尻竜一(著) 3780円 角川文化振興財団
- 「ミラン・クンデラにおけるナルシスの悲喜劇」 ローベル終子(著) 2808円 成文社
- 「ステージグランプリ vol.4(2018SPRING)(主婦の友ヒットシリーズ)」 主婦の友インフォス(編) 1566円 主婦の友インフォス
- 「報いられたもの/働き手 (講談社文芸文庫)」 モーム(著) 1836円 講談社
- 「久保栄『新劇』の思想」 祖父江昭二(著) 7020円 エール出版社学術部
- 「新訳ベケット戯曲全集 1 ゴドーを待ちながら/エンドゲーム」 サミュエル・ベケット(著) 3240円 白水社
- 「能管の演奏技法と伝承」 森田都紀(著) 8640円 思文閣出版
- 「アンドラ十二景の戯曲(AKIRA CHIKAWACOLLECTION)」 マックス・フリッシュ(作) 1728円 松本工房
- 「茶色香事始 宗園と嘉兵衛(新歌舞伎脚本)」 永谷宗次(作) 1512円 財界研究所
- 「菅原伝授手習鑑(講談社の創作絵本かぶきがわかるねこづくし絵本)」 吉田愛(著) 1728円 講談社
- 「演劇界 2018年4月号」 1450円 小学館
- 「宝塚GRAPH 2018年4月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「宝塚戦略 小林一三の生活文化論(読みなおす日本史)」 津金澤聰廣(著) 2376円 吉川弘文館
- 「タカラヅカMOOK 歌劇SPEC IAL2012 えと文」 500円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「タカラヅカMOOK 歌劇SPEC IAL2010 えと文」 500円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「小林逸翁『三羽の独創の茶(茶人叢書)』 齋藤康彦(著) 3780円 宮帯出版社
- 「歌劇 2018年3月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「Le Cing(ル・サンク) 2018年3月号」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「タカラヅカMOOK 歌劇SPEC IAL2015 えと文」 500円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「タカラヅカMOOK 歌劇SPEC IAL2016 えと文」 500円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「タカラヅカMOOK 歌劇SPEC IAL2011 えと文」 500円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「タカラヅカMOOK 歌劇SPEC IAL2017 えと文」 500円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「タカラヅカMOOK 歌劇SPEC IAL2013 えと文」 500円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「タカラヅカMOOK 歌劇SPEC IAL2008 えと文」 500円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「タカラヅカMOOK 歌劇SPEC IAL2009 えと文」 500円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「タカラヅカMOOK 歌劇SPEC IAL2014 えと文」 500円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「宝塚クリエイティブアーツ 戯曲海鳴りは止まず」 与並岳生(著) 1404円 新星出版
- 「人生は短い/月日はめぐる クレイグ・ポスピシル戯曲集改訂」 クレイグ・ポスピシル(著) 2160円 而立書房
- 「戦争戯曲集三部作」 エドワード・ボンド(著) 2592円 あつぷる出版社
- 「額の星/無数の太陽(平凡社ライブラリー)」 レーモン・ルーセル(著) 1728円 平凡社
- 「アメリカ演劇 28・29 サム・シエバード特集II/エスニック・マイノリティ演劇特集」 日本アメリカ演劇学会(編) 1620円 法政大学出版局
- 「ほくらの演劇ゼミナール チェーホフの遊び方/カフカの作り方」 松本修(著) 2376円 言視舎
- 「明代短篇小説と戯曲の研究」 大賀晶子(著) 8640円 汲古書院
- 「修羅天魔饑饉城の七人極(K.Na Kashi maselection)」 中島かずき(著) 1944円 論創社
- 「報いられたもの/働き手 (講談社文芸文庫)」 モーム(著) 1836円 講談社
- 「画の言葉を聞く 早稲田大学「マス・オプ・シネマ」講義録」 安藤紘平(編) 3024円 フィルム

アート社
 「81 JAPAN 2018 winter SCANDAL/AMIA YA/SKY-HI/ミュージカル『刀剣乱舞』/tofubeats/細野晴臣ほか(びあMOOK)」 1500円 ぴあ
 「Spoon. 2 Directors vol. 07 (KADOKAWA MOOK)」 1500円 プレビジョン
 「stamp act」 07 (カドカワエンタメックStar Creat ors! PLUS)」 1620円 KADOKAWA
 《4月》
 「部活でスキルアップ! 演劇上達ハイブル (コツがわかる本)」 杉山純じ(監修) 1696円 メイツ出版
 「STAGEPASH!」 2.5次元 エンタテインメントマガジン Vol. 09 ハイパープロジェクト演劇「ハイキュー!!」/MANKAIST AGE「A3!」/鈴木拓樹/荒牧慶彦/舞台「メサイア」(生活シリーズ) PASH!編集部(編) 1620円 主婦と生活社
 「いのちと『平和』の演劇を創る学習発表会・文化祭を大成功に導く10の鉄則・67のコツ/脚本集」 吾郷修司(著) 2592円 七つ森書館
 「王政復古期シエイクスピア改作戯曲選集」 鹿兒島近代初期英国演劇研究会(訳) 6480円 九州大学出版

会
 「演劇年鑑2018」 日本演劇協会(監修) 3240円 日本演劇協会
 「演劇界 2018年5月号」 1450円 小学館
 「ケラリーノ・サンドロヴィッチ 200年の秘密/あれから(ハヤカワ演劇文庫)」 ケラリーノ・サンドロヴィッチ(著) 1620円 早川書房
 「バルバライソの長い坂をくだる話」 神里雄大(著) 2160円 白水社
 「Sparkle VOL. 34(2018) (メディアボーイMOOK)」 1700円 メディアボーイ
 「十代目松本幸四郎への軌跡 七代目市川染五郎物語」 鈴木英一(著) 1944円 演劇出版社
 「ステージスケア vol. 32 八乙女光×高木雄也『薔薇と白鳥』/滝沢歌舞伎2018 (HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 950円 日之出出版
 「表象 12(2018) 特集展示空間のシアトリカルティ」 表象文化論学会(責任編集) 2160円 表象文化論学会
 「からだひとつここまで来たからもう一步」 仲代達矢(著) 1728円 ハルメク
 「宮本研エッセイ・コレクション 21968-73」 宮本研(著) 3240円 一葉社

「ライブエンターテイメントへの回帰映像から」・五次元アニメライブミュージカル概論」 公野勉(著) 2160円 風塵社
 「近代歌舞伎年表 名古屋篇 第12巻 大正十年〜大正十一年」 日本芸術文化振興会国立劇場調査養成部調査記録課近代歌舞伎年表編纂室(編) 20520円 八木書店古書出版部
 「舞台医学入門」 武藤芳照(監修) 3240円 新興医学出版社
 「歌舞伎研究と批評 歌舞伎学会誌 60 特集」近松上研究編」 歌舞伎学会(編集) 2516円 歌舞伎学会
 「脇役本 増補 文庫版(ちくま文庫)」 浜田研吾(著) 1296円 筑摩書房
 「歌舞伎座の快人 1984年の團十郎、猿之助、仁左衛門、玉三郎、勘三郎」 松島奈巳(著) 1620円 淡交社
 「演劇界 2018年5月号」 1450円 小学館
 「宝塚おとめ 2018年度版(タカラヅカMOOK)」 1620円 宝塚クリエイティブアーツ
 「宝塚GRAPH 2018年5月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
 「宝塚StageAlbum 2017年(タカラヅカMOOK)」 1620円 宝塚クリエイティブアーツ

「ザ・タカラヅカ 月組特集 7(タカラヅカMOOK)」 2300円 宝塚クリエイティブアーツ
 「Interlude 早霧せいなP HOTBOOK」 竹内裕二(著) 2500円 ワニブックス
 「Le Cing(ル・サンク) 2018年4月号」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ
 「歌劇 2018年4月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
 「倉本聰戯曲全集 6 地球、光りなさい! / オンディーヌを求めて」 倉本聰(著) 2700円 新日本出版社
 「ギリシア悲劇と『美しい死』」 吉武純夫(著) 5832円 名古屋大学出版会
 「あたらしいエクスプロージョン」 福原充則(著) 2160円 白水社
 「テアトロ 2018年5月号」 1300円 カモミール社
 「ロマン・ロラン著三つの『英雄の生涯』を読む ベルトーヴェン、ミケランジェロ、トルストイ」 三木原浩史(著) 1620円 鳥影社
 「部活でスキルアップ! 演劇上達ハイブル (コツがわかる本)」 杉山純じ(監修) 1696円 メイツ出版
 「新・新猿楽記 古代都市平安京の都市表象史(神奈川大学人文学研究叢書)」 深沢徹(著) 3888円 現代思潮新社

- 「テレビ成長期の日本映画メディア間交渉のなかのドラマ」 北浦寛之(著) 5184円 出版社名古屋大学出版会
- 「演劇の手法によるセールの絶対教科書 ロード・オブ・ザ・セールス実践編」 岡根芳樹(著) 1998円 エイチエス
- 「Prince of STAGE 話題のミュージカル&2.5次元舞台を徹底特集! Vol. 3 (ぶんか社ムック)」 1620円 ぶんか社
- 《5月》
- 「舞台芸術の世界を学ぶ オペラ・バレエ・ダンス・ミュージカル・演劇・宝塚」 澤田肇(編) 2700円 Sophia University press 上智大学出版
- 「日本の演劇教育学校からドラマの教育まで」 佐々木博(著) 3240円 晩成書房
- 「シアターアーツ 2018春」 国際演劇評論家協会日本センター(編) 1404円 国際演劇評論家協会日本センター
- 「身体的物語論」 蛭川幸雄(著) 1944円 徳間書店
- 「Stage fan vol. 2 (2018 Summer) (MEDIALABO YMOOK)」 880円 メディアボーイ
- 「STAGEnavi vol. 21 (2018) (NIKKOMOOK TVnavi プラス)」 1000円 産経新聞出版
- 「リアリズム演技 想像の設定の中で実際に生きるためにニューヨークで学んだこと」 ポビー中西(著) 2160円 而立書房
- 「九代目團十郎 渡辺保著」 2916円 演劇出版社
- 「高麗屋三兄弟と映画」 谷川建司(著) 3456円 雄山閣
- 「かんたんおйл健康法 1日大さじ1杯だけでカラダがよみがえる!」 白城あやか(著) 1404円 世界文化社
- 「宝塚GRAPH 2018年6月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「Le Cing (ル・サンク) 2018年6月号」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「歌劇 2018年5月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「演劇界 2018年6月号」 1450円 小学館
- 「真剣乱舞祭 2017 『彩時記ミュージカル刀剣乱舞』 ミュージカル『刀剣乱舞』製作委員会(編集) 2808円 ネルケプランニング
- 「fabulous stage vol. 6 表紙巻頭山崎育三郎×古川雄大ミュージカル『モーツァルト!』30ページ大特集!! (シンコー・ミュージック・ムック)」 1620円 シンコーミュージック・エンタテイメント
- 「銀幕に愛をこめて ぼくはゴジラの同期生」 宝田明(著) 2160円 筑摩書房
- 《6月》
- 「演劇界 2018年7月号」 1450円 小学館
- 「もつぱいとしか言えない」 松尾スズキ(著) 1566円 文藝春秋
- 「ステージスクエア vol. 33 堂本光一×井上芳雄『ナイフ・テイルー騎士物語ー』/坂本昌行+屋良朝幸/増田貴久(HINODEMOOK) 日之出出版(著) 950円 日之出出版
- 「STAGEnavi vol. 22 (2018) (NIKKOMOOK TVnavi プラス)」 1000円 産経新聞出版
- 「謡曲『石橋』の総合的研究」 雨宮久美(著) 6912円 勉誠出版
- 「ニッケン御破算」 松尾スズキ(著) 1944円 白水社
- 「宝塚非公認ファンクラブマニュアル」 恋文かなえ 1188円 Book Way
- 「宝塚GRAPH 2018年7月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「万葉口マンあかねさす紫の花」
- ビュー・ファンタスティックSanté!!! 最高級ワインをあなただけに! 宝塚ステージ写真集(タカラヅカM OOK)」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「宝塚イズム 37 特集愛希れいのかのさよならを惜しむ」 薮下哲司(編著) 1728円 青弓社
- 「Le Cing (ル・サンク) 2018年7月号」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「歌劇 2018年6月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「悲劇喜劇 2018年7月号」 1445円 早川書房
- 「コドナの言葉」 窪塚洋介(著) 1620円 NORTH HILL AGE
- 「もつ言つとかないと」 中村メイコ(著) 1404円 集英社インターナショナル
- 「おたすけ進路 俳優編 2019 俳優を目指すあなたの質問にズバリ回答! (おたすけ進路シリーズ)」 佐藤正隆(著) 1000円 夏書館
- 「負けずぎらい。」 広瀬すず(著) 2160円 日経BP社
- 「ピアノ・ポピカル・セレクトション リトル・マーメイド ブロードウェイ・ミュージカル版」 3564円 ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス

- 《7月》
- 「演劇名鑑 2019年度版」 3500円 カモミール社
- 「地域演劇教育論ラボ教育センターのテーマ活動」 福田三津夫(著) 2160円 晩成書房
- 「街に出る劇場 社会的包摂活動としての演劇と教育」 石黒広昭(編) 2592円 新曜社
- 「演劇と教育」 2018年8月号 972円 晩成書房
- 「演劇界 2018年8月号」 1450円 小学館
- 「芝居小屋から 武田政子の博多演劇史」 武田政子(著) 2700円 海鳥社
- 「STAGENavi vol.23(2018) (NIKKOMOOKTVN aviプラス)」 1000円 産経新聞出版
- 「Sparkle VOL.35(2018) (メディアボーイMOOK)」 1700円 メディアボーイ
- 「ザ・空気」 永井愛(著) 1512円 而立書房
- 「舞台追っかけ女子 推しが元気でこはんがおいしい」 畑ケ中あいこ(著) 1080円 双葉社
- 「神々の国の首都/漱石とヘルン(坂手洋二戯曲集)」 坂手洋二(著) 2484円 彩流社
- 「えんぶ」 2018年8月号 499円 えんぶ
- 「表現主義戯曲/旧東ドイツ国家公安局対作家/ヘルマン・カントの作品/ルポルタージュ論」 酒井府(著) 3672円 鳥影社・ロゴス企画
- 「日本語オペラの誕生 鷗外・逍遙から浅草オペラまで」 大西由紀(著) 5184円 森話社
- 「25ans 9 September 2018 Special issues of Beauty TAKA RAZUKA宝塚組20周年スペシャル(FGMOOK)」 ハリスト婦人画報社(編) 800円 ハリスト婦人画報社
- 「宝塚GRAPH 2018年8月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「歌劇 2018年7月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「FOCUSON 瀬戸かずや(タカラヅカMOOK)」 1620円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「戯曲小鳥女房」 千木良悠子(著) 620円 ポット出版プラス
- 《8月》
- 「風の演劇評伝別役実」 内田洋一(著) 4536円 白水社
- 「魅せる自分のつくりかた(演劇的教養のすすめ(講談社選書メチエ))」 安田雅弘(著) 1782円 講談社
- 「西洋古典学入門 叙事詩から演劇詩へ(ちくま学芸文庫)」 久保正彰(著) 1188円 筑摩書房
- 「体ほぐし・インプロ・表現体育と演劇教育(生きる力)を育む」 栗原茂(著) 2160円 晩成書房
- 「演劇界 2018年9月号」 1750円 小学館
- 「静かに、ねえ 静かに」 本谷有希子(著) 1512円 講談社
- 「Stagefan vol.3 (2018 Autumn) (MEDIA BOYMOOK)」 950円 メディアボーイ
- 「松竹と東宝興行をビジネスにした男たち(光文社新書)」 中川右介(著) 972円 光文社
- 「ステージスクエア vol.34 三宅建/玉森裕太x千賀健永x宮田俊哉+HiHi Jets (HINODEMOOK)」 日之出出版(著) 950円 日之出出版
- 「STAGENavi vol.24(2018) (NIKKOMOOKTVN aviプラス)」 1000円 産経新聞出版
- 「てゝ夫婦」 岩井秀人(著) 2376円 白水社
- 「評伝鶴屋南北 2巻セット」 古井戸秀夫(著) 27000円 白水社
- 「鴻上尚史の俳優入門(講談社文庫)」 鴻上尚史(著) 605円 講談社
- 「宝塚GRAPH 2018年9月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「オタクだけど、オトナなので。」 推しやし委員長(著) 1404円 光文社
- 「FOCUSON 彩風翔(タカラヅカMOOK)」 1620円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「TAKARAZUKAREVUE 2018 (タカラヅカMOOK)」 2000円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「歌劇 2018年8月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「Le Cinq (ル・サンク) 2018年8月号」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「セルバンテス全集 第5巻 戯曲集」 ミゲル・デ・セルバンテス(著) 15120円 水声社
- 「ダンセン二戯曲集」 ロード・ダンセイニ(著) 3240円 沖積舎
- 「山城達雄選集」 山城達雄(著) 1836円 ボーダーインク
- 「サマータイムマシン・ブルース」 上田誠(著) 2700円 早川書房
- 「テアトロ 2018年9月号」 1300円 カモミール社
- 「fabulousstage vol.17 表紙浦井健治/ミュージカル「ゴースト」40ページ大特集!!(シンコー・ミュージック・ムック)」 1620円 シンコーミュージック・エンタテイメント
- 「Stamp! act」 8 (カドカ

ワエンタムックStarCreators! PLUS」 1620円
 KADOKAWA
 『JMovie Magazine vol. 38 俳優・山崎賢人大特集 (ハイフェクト・メモリアル)』 990円
 リイド社
 『石原裕次郎の軌跡』 3000円
 ぴあ
 (9月)
 『演劇の街をつくった男本多一夫と下北沢』 本多一夫(語り) 2700円
 ぴあ
 『子どもという観客 ―児童青少年はいかに演劇を観るのか―』 マシュー・リーズン(著) 3024円
 晩成書房
 『演劇と教育 2018年10月号』 972円 晩成書房
 『演劇界 2018年10月号』 1450円 小学館
 『中国の現代演劇 中国話劇史概況』 瀬戸宏(著) 2808円 東方書店
 『新訳ベケット戯曲全集 2 八ツピーデイズ』 サミュエル・ベケット(著) 4536円 白水社
 『ステージグランプリ vol. 5 (2018AUTUMN) (主婦の友ヒットシリーズ)』 主婦の友インフォス(編) 1566円 主婦の友インフォス
 『みかん一座輝け! この指とまれ

の35年』 戒田節子(著) 2000円
 アトラス出版
 『STAGEnavi vol. 25(2018) (NIKKOMOOKTVnaviプラス)』 1000円 産経新聞出版
 『やっかいな男 (Bros. books)』 若井秀人(著) 1836円
 東京ニュース通信社
 『横浜・野毛大道芝居の日々』 野毛風太郎(著) 1404円 山中企画
 『中学校創作脚本集 2018』 中学校創作脚本集2018編集委員会(編) 2160円 晩成書房
 『テルエルの恋人たち (ロス・クラシコス)』 ファン・エウヘニオ・ハルツェンブッシュ(著) 3024円
 現代企画室
 『歌舞伎研究と批評 歌舞伎学会誌61特集』 近松下上演編 歌舞伎学会(編集) 2516円 歌舞伎学会
 『姫君たちの明治維新 (文春新書)』 岩尾光代(著) 1058円 文藝春秋
 『宝塚GRAPH 2018年10月号』 720円 宝塚クリエイティブアーツ
 『宝塚式 品格レッスン タカラジェンヌの美の秘密、教えます』 初嶺磨代(著) 1512円 文藝春秋
 『ザ・タカラヅカ 花組特集7 (タカラヅカMOOK)』 2300円
 宝塚クリエイティブアーツ

『Le Cing (ル・サンク) 2018年9月号』 1000円 宝塚クリエイティブアーツ
 『歌劇 2018年9月号』 720円 宝塚クリエイティブアーツ
 『FOCUSON 鳳月杏 (タカラヅカMOOK)』 1620円 宝塚クリエイティブアーツ
 『ぶす狂言紙芝居』 長野ヒデ子(脚本) 2808円 鈴木出版
 『かたつむり狂言紙芝居』 宮崎二美枝(脚本) 2808円 鈴木出版
 『モリエール傑作戯曲選集 2』 モリエール(著) 3024円 鳥影社
 『廣作桜の森の満開の下』 野田秀樹(著) 1944円 新潮社
 『ヨロコビ・ムカエル』 小野正嗣(著) 1944円 白水社
 『Lascène Daisuke Watanabe Stagephotobook』 渡辺大輔(著) 4320円 徳間書店
 『10月』
 『演劇プロデューサーという仕事』 第三舞台『劇団☆新感線』はなぜヒットしたのか 細川展裕(著) 1512円 小学館
 『別役実 2 ジョバンニの父への旅 諸国を遍歴する二人の騎士の物語 (ハヤカワ演劇文庫)』 別役実(著) 1512円 早川書房
 『集まると使える 80年代運動の中の

演劇と演劇の中の運動』 羽鳥嘉郎(編著) 2484円 ころから
 『演劇界 2018年11月号』 1450円 小学館
 『演劇とはなにか』 近藤耕人(著) 2592円 彩流社
 『Jjets (HINODEMOOK)』 日之出出版(著) 950円 日之出出版
 『村井邦彦のLA日記』 村井邦彦(著) 2376円 リットーミュージック
 『維新派・松本雄吉 1946〜1970』 2016 松本雄吉(著) 4968円 リトルモア
 『現代能楽集』の挑戦 練肉工房1971〜2017 岡本章(編著) 5184円 論創社
 『紅テント劇場 唐十郎ギャラクシー/トーク篇』 テクネ編集室(編) 1296円 レック研究所
 『愛し続ける私』 十朱幸代(著) 1836円 集英社
 『鼓に生きる 歌舞伎囃子方田中佐太郎』 田中佐太郎(著) 2700円 淡交社
 『あらしのよるに 歌舞伎絵本 (あらしのよるにシリーズ)』 きむらゆういち(原作・文) 1944円 講談社
 『伝統芸能ことはじめ (京都芸術センター叢書)』 小林昌廣(著) 3456円 京都芸術センター
 『幸若舞の展開 芸能伝承の諸相』 須田悦生(著) 10476円 三弥井

書店
 「宝塚GRAPH 2018年11月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
 「寝ても醒てもタカラヅカ!!」 牧彩子(著) 1296円 平凡社
 「シン・浪費図鑑 悪友たちのないしよ話 2」 劇団雌猫(著) 1080円 小学館
 「芸術文化の投資効果メセナと創造経済(文化とまちづくり叢書)」 加藤種男(著) 3456円 水曜社
 「Reika Manaki 愛希れいか舞台写真集(タカラヅカMOOK)」 2160円 宝塚クリエイティブアーツ
 「歌劇 2018年10月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
 「星組梅田芸術劇場メインホール・日本青年館ホール公演Thunderbolt Fantasy 東離剣遊記/Killer Rougee/星秀☆煌紅(タカラヅカMOOK)」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ
 「線量計が鳴る 元・原発技師のモノローグ朗読劇」 中村敦夫(著) 1296円 而立書房
 「雪の花口シアのお話」 セルゲイ・コズロフ(原作) 1944円 偕成社
 「三木清研究資料集 復刻第1巻 三木清全集未収録論文・随筆」 津田雅夫(編) 21600円 クレス出版

「めぐみへの誓い」 野伏翔(著) 1296円 展転社
 「祖霊祭ツイリニユス篇(ポーランド文学古典叢書)」 アダム・ミツキエーヴィチ(著) 2700円 未知谷
 「すべての道は役者に通ず」 春日太一(著) 1836円 小学館
 《11月》
 「演劇と教育 2018年12月号」 1296円 晩成書房
 「演劇界 2018年12月号」 1450円 小学館
 「町の形見」 柳美里(著) 2160円 河出書房新社
 「関西戦後新劇史 一九四五年〜一九六九年」 一般社団法人日本演出者協会(企画・原案) 3240円 晩成書房
 「STAGEnavi vol.26(2018)(NIKKOMOOKTNavipラス)」 1000円 産経新聞出版
 「照明家人生 劇団四季から世界へ」 吉井澄雄(著) 2916円 早川書房
 「僕の戦後舞台・テレビ・映画史70年」 久米明(著) 3078円 河出書房新社
 「前略、昭和のバカどもっ!!」 春海四方(著) 1620円 KADOKAWA
 「日本戦前映画論集 映画理論の再

発見」 アーロン・ジェロー(監修) 5184円 ゆまに書房
 「時の過ぎゆくまに」 佐々木史朗(著) 2970円 ワイズ出版
 「野田秀樹×鎌田浩毅 劇空間を生きた未来を予見するのは科学ではなく芸術だ(MINERVA知の白熱講義)」 野田秀樹(著) 2376円 ミネルヴァ書房
 「婦人画報 八代目市川染五郎特別版 初めての南座、独り歩く京都(FGMOOK)」 ハースト婦人画報社(編) 1200円 ハースト婦人画報社
 「ザ・裏方 キャリア教育に役立つ! 1 感動を支える裏方」 3780円 フレーベル館
 「宮本研エッセイ・コレクション 3 1974-81」 宮本研(著) 3240円 一葉社
 「歌舞伎俳優二代目中村吉右衛門 特別愛蔵版」 小学館(著) 324000円 小学館
 「歌舞伎俳優二代目中村吉右衛門別冊芸談つき」 中村吉右衛門(著) 24840円 小学館
 「櫻 市川染五郎」 市川染五郎(著) 1944円 講談社
 「宝塚GRAPH 2018年12月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
 「小林一三 阪急と宝塚をつくった事業家(調べる学習百科)」 柴田こざえ(構成・文) 3888円 岩崎書

店
 「Weilina 朝夏まなと1st HOTBOOK(TOKYONEWSMOOK)」 3024円 東京ニュース通信社
 「Le Cing (ル・サンク) 2018年12月号」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ
 「歌劇 2018年11月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
 「若人よ蘇れ・黒蜥蜴他一篇(岩波文庫)」 三島由紀夫(著) 983円 岩波書店
 「太宰治の絶望語録」 太宰治(著) 1620円 WAVE出版
 「精選折口信夫 2 文学発生論・物語史論」 折口信夫(著) 3024円 慶應義塾大学出版会
 「修道女たち」 ケラリーノ・サンドロ ヴィッチ(著) 2592円 白水社
 「不死 フラットノフ初期作品集」 アン・ドレイ・プラトノフ(著) 2160円 未知谷
 「穴 モノローグ集」 渋谷悠(著) 1728円 論創社
 「音楽と絵画で読むT.S. エリオット 『荒地へ』」 熊谷治子(著) 4860円 彩流社
 《12月》
 「演劇界 2019年1月号」 1750円 小学館

- 「興行とバトロン（近代日本演劇の記憶と文化）」 神山彰（編） 4968円 森話社
- 「ステージスクエア vol. 36 三宅健『六本木歌舞伎』『羅生門』/堂本光一『Endless Shock』(HINODEMOOK)」 日之出版版(著) 950円 日之出版
- 「STAGEnavi vol. 27 (2018) (NIKKOMOOKT Vnaviプラス)」 1000円 産経新聞出版
- 「Sparkle VOL. 36(2019) (XディアポイMOOK)」 1800円 メディアポイ
- 「大人計画ができるまで」 松尾スズキ(著) 1512円 文藝春秋
- 「2.5次元のトップランナーたち 松田誠・茅野イサム・和田俊輔・佐藤流司」 門倉紫麻(著) 1620円 集英社
- 「宝塚イズム38 特集明日海・珠城・望海・紅・真風、充実の各組診断！」 数下哲司(編著) 1728円 青弓社
- 「大人計画その全軌跡 1988↓2018」 6800円 ぴあ
- 「青春を熱く駆け抜けよ！ 生きる伝説のライブハウス『江古田マーキー』武道家オーナーの人生行脚」 上野裕二(著) 1620円 講談社
- 「I note 2 舞台演出家の記録 1991-2012」 高橋いさを
- (著) 2160円 論創社
- 「文化空間のなかのサーカス パフォーマンストアトラクションの人類学」 オリガ・ブレニナルペトロヴァ(著) 8640円 白水社
- 「歌舞伎 芸と血筋の熱い裏側」 喜熨斗勝(著) 1080円 講談社ビーシー
- 「かぶき手帖 最新歌舞伎俳優名鑑 2019年版 特集團十郎と江戸歌舞伎」 日本俳優協会(編集) 1601円 日本俳優協会
- 「平成の藝談 歌舞伎の真髓にふれる(岩波新書新赤版)」 犬丸治(著) 821円 岩波書店
- 「別冊カドカワ 総力特集新世代歌舞伎新春浅草歌舞伎(カドカワムック)」 1700円 KADOKAWA
- A
- 「歌舞伎名演目時代物」 松竹株式会社(監修) 3672円 美術出版社
- 「義経千本桜 (ストーリーで楽しむ文楽・歌舞伎物語)」 越水利江子(著) 1620円 岩崎書店
- 「図説 江戸歌舞伎事典 1 芝居の世界」 飯田泰子(著) 2700円 芙蓉書房出版
- 「宝塚GRAPH 2019年1月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「小林一三 日本が生んだ偉大なる経営イノベーター」 鹿島茂(著) 2160円 中央公論新社
- 「歌劇 2018年12月号」 720円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「ほくの伯父さん 長谷川四郎物語」 福島紀幸(著) 4752円 河出書房新社
- 「未完のカミュ 絶えざる生成としての揺らぎ」 阿部いそみ(著) 3996円 春風社
- 「星空の人形芝居」 熊谷千世子(著) 1404円 国土社
- 「omoshimag VOL. 14 ミュージカル特集 2018&2019冬号」 1981円 アンファン

平成三十年演劇関係物故者一覽

▼津田延代氏(本名・町田稔也) 声優。1月5日、死去、96歳。新潟県出身。アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」の吹つけしばあ「デビルマン」のゾルドパなどの声を担当した。

▼田中耕二氏 劇団青年座俳優。1月8日、急性心筋梗塞のため死去、63歳。茨城県出身。劇団青年座研究所2期卒業。同劇団公演のほか、舞台「アマデウス」、映画「乱」、テレビドラマなどで活躍した。

▼柳家小蝠氏(本名・新井淳一) 落語家。1月12日、肺炎のため死去、42歳。群馬県高崎市出身。

▼灰地順氏(本名・黒田昌司) 俳優。1月12日、うつ血性心不全のため死去、91歳。広島県出身。1949年、八田元夫演出研究所に入所。52年、新協劇団、村山知義のすすめで、村山作・演出「死んだ海」で初舞台。以後舞台演出をつづけるとともに、「ひめゆりの塔」などの映画にも出演。劇団仲間を経て、61年、劇団演劇座を創設。映画、テレビの時代劇など多くの作品に出演した。渡辺プロ、田中プロ、日本大学藝術学部演劇科などの講師もつとめ、多くの若手俳優の育成にあたった。

▼夏木陽介氏(本名・阿久沢有) 俳優。1月14日、腎細胞がんのため死去、81歳。東京都出身。明治大学在学中にスカウトされ、1958年に東宝に入社。同年、映画「美女と液体人間」でデビュー。65、66年に放送されたテレビの青春ドラマ「青春とはなんだ」の教師役で人気を集め、映画「これが青春だ!」に続き、青春ドラマの先駆けとなった。「Gメン75」などに出演した。また、自動車好きとしても知られ、世界的ラリーレースのダカールラリーにも出場していた。

▼園良昭氏 舞台美術家。東京芸術座。1月15日、死去、83歳。

▼神山寛氏 劇団俳優座俳優。1月17日、膵臓がんのため死去、85歳。神奈川県出身。1955年に俳優座に入団し、俳優座「巨人の帽子」「コーカサスの白墨の輪」「狙撃兵」などに出演したほか、テレビドラマや映画でも活躍した。広島の原爆で亡くなった移動演劇「桜隊」の団員を慰霊する「桜隊原爆忌の会」会長を13年から務めていた。

▼古今亭志ん駒氏(本名・徳永一夫) 落語家。1月18日、心筋梗塞のため死去、81歳。埼玉県出身。1963年、五代目古今亭志ん生に入門。76年に真打に昇進。海上自衛隊での経験などを生かした、明るい高座で親しまれた。74年にNHK新人落語コンクール最優秀賞を受賞した。

▼ドロシカ・マローン氏 米俳優。1月19日、老衰のため死去、93歳。イリノイ州シカゴ生まれ。1956年、映画「風と共に散る」で、アカデミー賞助演女優賞を受賞。ABCで放送されたテレビドラマ「ペイトン・ブレイス物語」は大人気になった。

▼旗野恵美氏(本名・旗野恵美子) 現代舞踊家。1月20日、大動脈解離のため死去、85歳。東京都出身。

▼上月左知子氏(本名・小池みき子) 女優。1月24日、心不全のため死去、87歳。神戸市出身。1949年に宝塚歌劇団に入団し、上月あきらの芸名で男役として活躍。57年に退団後は俳優として多くの舞台や映画、テレビドラマに出演した。最近まで朗読会などで活躍していた。

▼澤島忠氏 映画監督。1月27日、多臓器不全のため死去、91歳。滋賀県出身。東映時代劇や任侠ものの娯楽作を多数手がけ、時代劇に新風を吹き込んだ。主な作品に「人生劇場 飛車角」、「一心大助 天下の一大事」、「ひばり捕物帖 かんざし小判」など。

▼小寺一郎氏 能楽シテ方観世流。1月29日、虚血性心筋梗塞のため死去、90歳。大阪府豊中市出身。

▼レツゴー長作氏(本名・永原誠) 漫才トリオ「レツゴー三匹」メンバー。2月1日、肺がんのため死去、74歳。岡山市出身。1964年に松竹新喜劇に入った後、「レツゴー三匹」を結成。故レツゴーじゅん、レツゴー正児と共に人気トリオとして活躍した。73年に上方漫才大賞を受賞した。漫才を続ける傍ら、歌手、俳優としても活躍した。

▼桂福車氏(本名・大津康裕) 落語家。2月1日、死去、56歳。大阪市出身。1983年、桂福団治に入門。教育、人権、環境問題など社会派の新作ネタで知られた。

- ▼**花柳昌太郎氏**(本名・今野和俊) 日本舞踊家。2月4日、肺炎による急性呼吸窮迫症候群のため死去、77歳。東京都出身。古典に打ち込む一方、創作舞踊にも熱心に取り組んだ。母校日本大学芸術学部の講師を25年務めた。
- ▼**久保進氏**「青二プロダクション」会長。2月6日、大動脈解離のため死去、82歳。愛媛県出身。1969年に、日本初の声優専門事務所を創業した。
- ▼**新田万紀子氏** 声優。2月8日、大動脈解離のため死去、56歳。静岡県出身。早稲田大学法学部卒業。アニメのだめカンパビレ、巴里編、や映画「007 私を愛したスパイ」の日本語吹き替えなどで活躍した。
- ▼**豊竹始太夫氏**(本名・高橋尚人) 人形浄瑠璃文楽座・太夫。2月10日、心筋梗塞のため死去、50歳。大阪府出身。1990年に国立劇場文楽14期研修生となり、92年に豊竹嶋太夫に入門。豊竹始太夫と名乗った。同年6月に国立文楽劇場で初舞台を踏んだ。
- ▼**川地民夫氏**(本名・河地猛) 俳優。2月10日、脳梗塞のため死去、79歳。神奈川県出身。1957年、関東学院大在学中に日活に入社し、陽のあたる坂道で石原裕次郎の弟役でデビュー。菅原文太とコンビを組んだ、まむしの兄妹シリーズで人気を博した。テレビドラマやバラエティ番組でも親しまれた。
- ▼**鈴木郁朗氏** 中学校校長。2月15日、死去、84歳。1993年に児童劇脚本集「雪あな」で「日本児童演劇協会賞」を受賞。
- ▼**大家仁志氏** 俳優。2月19日、大腸がんのため死去、53歳。長野県出身。1990年に劇団青年座に入団。「ブンナよ、木からおりてこい」「横浜短編ホテル」など舞台で活躍。テレビドラマ、映画などにも出演した。
- ▼**露の慎悟氏**(本名・紺井重一) 落語家。2月21日、肺炎のため死去、66歳。宝塚市出身。1967年、露の五郎に弟子入り。師匠譲りの「世帯念仏」などを得意としていた。
- ▼**大杉連氏**(本名・大杉孝) 俳優。2月21日、急性心不全のため死去、66歳。徳島県小松島市出身。1974〜88年まで、太田省吾主宰の「転形劇場」で舞台俳優として活躍し、78年に「緊縛いけにえ」で映画デビュー。90年代以降には北野監督の映画やSABU監督の「ポストマン・ブルース」、崔洋一監督の「犬、走る DOG RACE」などで存在感を発揮。シリアスからコメディイまで芸域は幅広く映画、テレビ、舞台で活躍した。受賞歴多数。
- ▼**林家ライズ氏**(本名・沼田志都生) 漫才コンビ「林家ライズ・カレリー」のライズ。2月24日、脳内出血のため死去、76歳。横浜市出身。1987年に

- カレリーとコンビを結成。環境問題や社会福祉などをテーマにした夫婦漫才を全国各地で行ってきた。
- ▼**左とん平氏**(本名・肥田木通弘) 俳優。2月24日、心不全のため死去、80歳。東京都出身。1957年に三木鶏郎主宰の制作者集団「冗談工房」に参加。テレビドラマ「時間ですよ」「寺内寛太郎一家」で一躍お茶の間の人気者となった。以降、とぼけた味わいの名脇役として時代劇や刑事ドラマに欠かせない存在となった。映画「居酒屋兆治」「樋口節考」や舞台「禿らいでか!」など数多くの作品に出演した。歌手としても「とん平のハイ・ユウ・ブルース」がヒットした。
- ▼**宮崎靖氏** 青年劇場団友。2月24日、死去、77歳。愛媛県松山市出身。「シュヴァルツの裸の王様」「レディスとラベツジ」など多数の作品で舞台監督を務めた。
- ▼**立川左談次氏**(本名・山岡通之) 落語家。3月19日、食道がんのため死去、67歳。東京都出身。1968年に立川談志に入門。82年に真打に昇進した。2016年に食道がんを公表、治療を受けながら高座に上がった。
- ▼**美三枝子氏**(本名・志村三枝子) 現代舞踊家。3月16日、老衰のため死去、95歳。美三枝子舞踊研究所主宰。文化庁芸術祭賞を6回受賞。1984年に紫綬褒章、99年に江口隆哉賞。日本におけるモダンダンス界の大御所。
- ▼**白石敬子氏** ソプラノ歌手。3月20日、大腸がんのため死去、73歳。神奈川県藤沢市出身。武蔵野音楽大学卒業後、ウイーン国立音楽大学に留学。1976年、ウイーン国立歌劇場で日本人初の専属歌手となり、主に欧州の歌劇場で活躍した。帰国後は藤沢市民オペラやリサイタルに出演。2004年以降はがんと闘い、15回以上の手術を受けながら音楽活動を続けた。
- ▼**貴音康氏**(本名・遠藤康子) 長唄三味線方。3月28日、脳出血のため死去、97歳。東京都出身。長唄貴音流家元。
- ▼**月亭可朝氏**(本名・鈴木傑) 落語家。3月28日、急性性肺線維症のため死去、80歳。横浜市出身。三代目林家染丸に入門。その後、故桂米朝の門下となり、1968年から月亭可朝を名乗った。カンカン帽と眼鏡、口ひげをトレードマークで、ギター弾き語りのコミックソング「嘆きのボイン」がヒットした。71年と01年に参院選に立候補したがいずれも落選。
- ▼**権藤芳一氏** 演劇評論家。3月30日、肺炎のため死去、87歳。京都市出身。同志社大学卒業後、故武智鉄二に師事。京都観世会館の事務局長を約30年間務める傍ら、能や文楽、歌舞伎を中心に評論を執筆。大阪学院大学助教も

務めた。著書に「能楽手帖」「文楽の世界」「上方歌舞伎の風景」など。

▼**都家歌六氏(本名・真野良夫)** 落語家。3月31日、老衰のため死去、87歳。名古屋出身。1951年に三代目桂三木助に入門。56年、四代目三遊亭円遊門下に。69年、八代目都家歌六で真打ち昇進。のぎりを弓で弾いて演奏する「のぎり音楽」を寄席芸として確立。

▼**平山美智子氏** ソプラノ歌手。4月1日、ローマ市内の自宅で死去、94歳。東京都出身。東京音楽学校(現・東京芸術大学)声楽科を卒業後、イタリヤへ留学。欧州各地でオペラ「蝶々夫人」などに出演する一方で、現代歌曲にも取り組み、特に前衛作曲家ジャチント・シェルシとの共同作業が高く評価されている。

▼**内田稔氏** 俳優。4月2日、肺炎のため死去、91歳。岡山県倉敷市出身。文学座、劇団雲を経て1976年から劇団昂に在籍。舞台「クリスマス・キャロル」「太陽にはえる」などのテレビドラマや映画にも数多く出演。91年、舞台「チャリング・クロス街84番地」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。

▼**金両基氏** 在日韓国人の演劇学者、評論家。4月2日、突発性間質性肺炎のため死去、84歳。東京都出身。早稲田大学文学部卒業。日韓国を中心にしたアジア諸国の比較文化学者。1987年に静岡県立大学教授、常葉学園大学教授。79年度文化庁芸術祭優秀賞受賞。2002年韓国政府から文化勲章。著書「朝鮮の仮面」「朝鮮の芸能」「オンドルと畳 日韓比較文化論」など多数。

▼**本田玉江氏** 三吉演芸場会長。4月3日、肺塞栓症のため死去、93歳。横浜出身。1930年に開設された横浜唯一の大衆演劇の常打ち劇場、三吉演芸場の会長として、大衆演劇、歌謡ショー、浪曲、落語をかけ、特に地元、桂歌丸の独演会や一門会を40年間にわたり支援した。多くのファンや俳優から「三吉のおかあさん」と親しまれた。横浜文化賞受賞。

▼**日高晤郎氏(本名・細谷新吾)** 俳優、歌手、ラジオパーソナリティ。4月3日、悪性腫瘍のため死去、74歳。大阪市出身。1962年、映画俳優としてデビュー。歌手などとしても活躍。83年から約35年間札幌テレビ放送(S-TV)ラジオで、9時間土曜ワイド番組「ウイークエンドバラエティ 日高晤郎ショー」を担当。軽妙なトークで人気を集めた。

▼**高畑勲氏** 映画監督、アニメーション演出家、プロデューサー。4月5日、肺がんのため死去、82歳。三重県伊勢市出身。岡山県で育つ。1959年、東京大学文学部仏文学科卒業。同年、東映動画(現・東映アニメーション)

ン)に入社、68年に劇場用長編「太陽の王子 ホルスの大冒険」で監督デビューした。同社で宮崎駿監督と出会い、アニメ制作会社をとくに移籍しながら、70年代にはテレビアニメ「アルプスの少女ハイジ」母をたずねて三千里「赤毛のアン」を演出するなど、テレビアニメの代名詞といえる作品を手がけた。85年に宮崎監督らとスタジオジブリを設立。「火垂るの墓」「おもひでぼろぼろ」「平成狸合戦ぽんぽこ」「ホーホケキョ」となりの山田くん」などヒット作を次々と送り出した。毎日映画コンクール・アニメーション映画賞。98年に紫綬褒章受賞。2014年に仏アニメーション国際アニメーション映画祭で名誉功労賞、15年に仏芸術文化勲章のオフィシエを受賞。著書に「映画を作りながら考えたこと」「十二世紀のアニメーション」など。

▼**中元清純氏** 作曲家。4月10日、肺炎のため死去、87歳。神戸市出身。1952年以来、主として宝塚歌劇団の音楽を担当する。宝塚歌劇団理事。宝塚音楽学校声楽担当などの要職を務める。63年に「虹のオルゴール工場」で文化庁芸術祭奨励賞を受賞した。

▼**ミロス・フォアマン氏** 米映画監督。4月14日、死去、86歳。1932年、旧チエコスロヴァキア生まれ。68年の民主化運動「プラハの春」に対し、ソ連が軍事介入したことをきつかけに米国に移住、市民権を得た。精神科病棟の非人間性を描いた「カッコーの巣の上で」(75年)、モーツァルトをめぐる相克を描いた「アマデウス」(84年)の両作品でアカデミー賞の監督賞を受賞。また、ボルノ雑誌の創刊者が表現の自由を巡って闘う姿を描いた「ラリー・フリント」(96年)はベルリン国際映画祭の最高賞金熊賞を受賞した。

▼**ビットリオ・タビアーニ氏** 伊映画監督。4月15日、死去、88歳。1929年、イタリア北部サン・ミニアート生まれ。「父 パードレ・パドローネ」(77年)でカンヌ国際映画祭の最高賞パルムドールを受賞。刑務所で演劇に打ち込む受刑者を題材にした「塀の中のジュリアス・シーザー」(2012年)で、ベスト受刑者を題材にした「塀の中のジュリアス」を受賞した。

▼**崔銀姫氏** 韓国女優。4月16日、持病のため死去、91歳。1926年、京畿道広州生まれ。42年、演劇「青春劇場」でデビュー後、映画監督の故・甲相玉と結婚。申監督と離婚し、78年、単独で向かった香港で申監督とほぼ同時に北朝鮮に拉致され、平壤などで映画活動を継続。85年、映画「楯」でモスクワ映画祭の主演女優賞を受賞。86年、申監督とオーストリア・ウィーンの米国大使館に駆け込んだ。その後、10年以上の亡命生活を経て、99年に帰国した。

▼順みつ氏(本名・光木千枝子) 元宝塚歌劇団のトップスター、女優。4月17日、胃がんのため死去、70歳。兵庫県伊丹市出身。1968年に宝塚歌劇団に入団。「ベルサイユのばら」や「風と共に去りぬ」などに出演し、80年に花組トップに就いた。83年に退団した後も舞台などで活躍した。82年、舞台「キャバレー」で菊田一夫演劇賞受賞。

▼古賀伸雄氏 元劇団俳優座代表取締役。4月22日、肝不全のため死去、81歳。北九州市出身。劇団俳優座でテレビドラマの制作に長く携わった後、代表取締役を務めた。

▼島袋正雄氏 琉球古典音楽家。4月24日、肺炎のため死去、95歳。沖縄県生まれ。1951年に琉球古典音楽野村流の宮平三栄に師事。86年に国の重要無形文化財で沖縄伝統の音楽劇・組踊の技能保持者に認定され、2000年には「琉球古典音楽」の人間国宝に選ばれた。野村流音楽協会会長、伝統組踊保存会会長などの要職を歴任し、琉球芸能の継承と発展に大きな功績を残した。

▼一噌仙幸氏 能楽笛方一噌流。4月24日、肺疾患のため死去、77歳。東京都出身。2008年能楽の秘曲・三老女などの卓越した笛演奏で芸術院恩賜賞を受賞。09年、人間国宝。14年芸術院会員。

▼朝丘雪路氏(本名・加藤雪江)俳優・舞踊家、歌手。4月27日、死去、82歳。東京都出身。アルツハイマー型認知症のため療養していた。日本画家伊藤深水を父に持ち、3歳から日舞を始めた。宝塚音楽学校を経て、宝塚歌劇団に入団し、娘役として活躍。ジャズ歌手としても注目された。1955年に退団して以降、映画、テレビ、舞台に幅広く出演した。66年から約15年間、日本テレビ系「IPM」にレギュラー出演し、司会の大橋巨泉との軽妙なやりとりで人気を博した。歌手としては「雨がやんだら」(70年)などのヒット曲を持ち、日本舞踊では85年に深水流を創設して家元となった。2003年、舞台「人生ふたりづれ」などで芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。11年に旭日小綾章を受けた。夫で俳優の津川雅彦とは、おしどり夫婦で知られた。

▼竹本住太夫氏(本名・岸本欣二)人形浄瑠璃文楽太夫。4月28日、肺炎のため死去、93歳。大阪市出身。1946年、二代目豊竹古朝太夫(後の豊竹山城少掾)入門し、豊竹古住太夫の名で初舞台。九代目竹本文字太夫を経て85年、七代目住太夫を襲名した。「自分は不器用」と稽古の鬼となり、猛修業し、81年に太夫最高位の「切場語り」となった。鍛え抜いた芸で味わい深い情の世界を語り続け、人形浄瑠璃文楽の太夫として頂点を極めた。89年に人間国宝の

認定を受け、2002年日本芸術院会員、05年文化功労者。07年度に朝日賞を受賞。08年にはフランス政府から芸術文化勲章を受章した。13年に、菊池寛賞受賞。14年に文楽界で初めて文化勲章を受章した。同年「自らの芸に納得がいかない」と、引退したが、その後も講演活動や後進の育成につとめ、文楽の普及、発展に貢献した。気さくで優しい人柄で愛された。著書「文楽のこころを語る」「なほにかなほはー私の履歴書」「七世竹本住太夫 私があふんだ90年」「人間、やっぱり情でんばなあ」「七世竹本住太夫 限りなき藝の道」など。

▼村井志摩子氏(本名・葛井志摩子) 劇作家、演出家。5月9日死去、89歳。広島市出身。東京女子大学卒業。舞台芸術学院で土方与志に学び卒業後、チエコのカレル大学で演劇を学んだ。1968年、チエコ戯曲の翻訳や演出で紀伊国屋演劇賞個人賞。「広島の上女上演委員会」として、代表作「女のひとり芝居3部作」「広島の上女」で85年度文化庁芸術祭賞を受けた。著書に「広島の上女・八月六日」「村井志摩子戯曲集アブラハム三部作ほか」など。

▼鈴木正光氏 文学座演出部。5月10日、心不全のため死去、73歳。神奈川県出身。1971年文学座入座。「熱海殺人事件」「出発」「花咲くチェリー」「ガラスの動物園」など数多くの作品の舞台監督を務めた。近松作品を現代に生かして上演する活動にも精力を注いだ。

▼星由里子氏(本名・清水由里子) 女優。5月16日、心房細動と肺がんのため死去、74歳。東京都出身。1958年、東宝の「ミス・シンデレラ娘」に選ばれ、翌年、映画「すずかけの散歩道」で女優デビュー。61年から始まった加山雄三主演の映画「若大将シリーズ」計11作品では加山演じる大学生の恋人・澄子役で人気を博した。NHK連続テレビ小説「あぐり」や「科捜研の女」などのテレビドラマへの出演。「2時のワイドショー」の司会など幅広く活躍。映画「わが心の銀河鉄道 宮沢賢治物語」で日本アカデミー賞優秀助演女優賞。舞台「佐渡島他吉の生涯」で菊田一夫演劇賞を受賞した。

▼遠藤慎子氏 劇団文化座女優。5月20日、死去、89歳。1953年、劇団文化座へ入座。日野葦平作「陽気な地獄」で初舞台。「炎の人ゴッホ」「荷車の歌」「三婆」など文化座の財産ともいべき作品に出演。実在感ある演技派女優として、また劇団の運営委員としても貢献した。

▼小林貴氏 能狂言研究者。武蔵野大学名誉教授。5月22日、老衰のため死去、89歳。東京都出身。早稲田大学卒業。1972年、武蔵野女子大学能楽資料センター運営委員。85年、「狂言辞典 資料編」で田辺尚雄賞受賞。著書「狂言史研究」「狂言を楽しむ」「狂言白番」など。

▼**いか八朗氏(本名・近藤角悟)** 作曲家、俳優、リポーター。5月28日、老衰のため死去、84歳。高知県出身。

▼**立木定彦氏** 舞台照明家。5月29日、老衰のため死去、89歳。国立劇場舞台技術部部長を歴任。著書に「舞台照明のドラマツルギー」「現代の公共ホールと劇場 地域文化の再生から創造へ」がある。

▼**青木信二氏** 舞台写真家。5月30日、死去、73歳。日本芸術文化振興会(国立劇場)在職中から、文楽、能・狂言、雅楽、落語などの舞台写真を撮影。「吉田襄助写真集・文楽、女たちに魂をこめて」。「狂言―野村万蔵の世界」美しき雅楽装束の世界」など数々の写真集を刊行した。

▼**滝由女路氏(本名・渋谷久代)** 元女優。6月8日、膵臓がんのため死去、63歳。京都府出身。松竹新喜劇代表の渋谷天外夫人。結婚を機に91年に引退した。

▼**ユ二ス・ゲイソン氏** 英女優。6月8日、死去、90歳。1928年、英南部サリー州生まれ。48年に映画デビューし、人気スパイ映画「007」シリーズの第1作「ドクター・ノオ」、第2作「ロシアより愛をこめて」で、シヨーン・コネリー演じる主役ジェームズ・ボンドのガールフレンド、シルビア・トレンチ役を務めた。

▼**杵屋裕光氏(本名・村治裕光)** 長唄三味線演奏家・作曲家。6月8日、死去、57歳。歌舞伎や舞踊公演で演奏する傍ら、「六九家裕光」名義で、ロック三味線「和風ビートルズ」などと銘打ち、「三味線音楽と洋楽の融合音楽にも取り組んだ。2016年度文化庁芸術祭賞・優秀賞を受けた。

▼**猿若吉代氏(本名・石川泰子)** 日本舞踊家。6月17日、大動脈解離のため死去、85歳。東京都出身。1939年、藤間流に入門し、57年、猿若流分家となった。01年度の文化庁芸術選奨文部科学大臣賞を受け、02年には紫綬褒章を受章した。

▼**加藤剛二氏(本名・加藤剛二たけし)** 俳優。6月18日、胆のうがんのため死去、80歳。静岡県出身。早稲田大学文学部演劇科卒業。俳優座の養成所時代の1962年のテレビドラマ「人間の条件」(TBS)で主役に抜擢されてデビューした。64年に養成所を卒業して劇団員となった。「ハムレット」で初舞台を踏んだ。TBSで70年から99年までの30年間に400話以上放送された「大岡越前」は名奉行ぶりで人気を博した。多くの映画や舞台に出演し、松本清張原作の映画「砂の器」(74年)では天才音楽家を演じ、映画をヒットさせた。平和問題への関心が高く、木下恵介監督の「この子を残して」(83年)で

は、放射線医学の研究者で自らも長崎で原爆に被曝した永井隆博士を誠実に力演した。俳優座を代表する俳優の一人として舞台に立ち続けた。主な舞台に「わが愛三部作」強制収容所のガス室に消えたポーランド医師を描いた「コルチャック先生」「伊能忠敬物語」など。紀伊國屋演劇賞(79、92年)、芸術祭賞(86年)、芸術選奨文部大臣賞(92年)などを受賞したほか、01年には紫綬褒章、08年に旭日小綬章を受章した。

▼**藤原智子氏** 映画監督、脚本家。6月19日、突発性肺線維症のため死去、86歳。東京都出身。東京大薬文学部で美術史を専攻。同大学を卒業後、記録映画監督を志し新理研映画に入社。その後日本映画新社に移籍。1960年に「オランウータンの知恵」で監督デビュー。1980年代に製作した能・歌舞伎などの複数の短編記録映画で文部大臣賞、芸術作品賞などを受賞。主な作品に「杉の子たちの50年」学童疎開から明日へのメッセージ」「ルイズその旅立」「ベアテの贈りもの」シロタ家の20世紀などがある。

▼**名和宏氏(本名・与縄章)** 俳優。6月26日、腎不全のため死去、85歳。熊本県出身。日本大学芸術学部を卒業後、日活に入社し俳優デビュー。その後フリーとなる。ヤクザ映画「仁義なき戦い」やテレビ時代劇「水戸黄門」など多くの作品で悪役を演じた。

▼**桂歌丸氏(本名・椎名巖)** 落語家。7月2日、慢性閉塞性肺疾患のため死去、81歳。横浜市出身。1951年、15歳で五代目古今亭今輔に入門、今児を名乗った。兄弟子の四代目桂米丸の門下に移り、米坊を経て64年に歌丸と改名。68年、真打に昇進した。日本テレビの「笑点」には66年の放送開始から出演。2006年に三遊亭圓楽の後を継ぎ5代目「笑点」司会者に就任。16年司会者を勇退。司会を春風亭昇太に譲り、終身名誉司会者となる。「真景累ヶ淵」「牡丹灯籠」など、三遊亭円朝作の怪談斬を病を押して数時間に及ぶ通しで口演したほか、「おすわどん」「いが栗」などの滑稽斬も数多く再生させた。

04年に落語芸術協会会長。10年、横浜にぎわい座館長に就任。89年に芸術祭賞、91年、横浜文化賞、96年、神奈川文化賞、05年に芸術選奨文部科学大臣賞、07年に旭日小綬章。16年に文部科学大臣表彰。

▼**辻孝彦氏** 劇団唐組の俳優。7月5日、食道がんのため死去、52歳。劇団唐組に在籍し、「泥人魚」「紙芝居の絵の町で」などに出演した。

▼**仁和令子氏(本名・佐藤知佐子)** 女優。7月5日、肝不全のため死去、60歳。大阪府出身。「江戸を斬るV」や「大岡越前(第6部)」などテレビの時代に多数出演した。

▼**クロード・ランズマン氏** 仏映画監督。7月5日、死去、92歳。パリ近郊でユダヤ人の家庭に生まれる。1985年に発表した、ナチスドイツによるユダヤ人虐殺を描いた映画「シヨア」は制作に12年をかけ、膨大な証言で構成した9時間を要するドキュメンタリー映画として世界で大きな反響を呼んだ。

▼**鈴木智氏(本名・鈴木智二さん)** 劇団民藝俳優。7月10日、胸膜炎・呼吸不全のため死去、84歳。宮城県出身。1955年に劇団民藝水品演劇研究所に入り64年に劇団員。初舞台は56年、遠い凱歌。最後の舞台は2013年4月、木下順二作「夏・南方のローマンス」斬られの千太や「夜明け前」「どうしてん」などの舞台に主演した。

▼**浅利慶太氏** 演出家。7月13日、悪性リンパ腫のため死去、85歳。東京都出身。慶応義塾大学在学中に日下武史らと劇団四季を結成。以来、劇団代表、演出家として、ストレートプレイからミュージカルまで、ほぼ全作品のプロデュースや演出を手がけた。「ウェストサイド物語」「ジーザス・クライスト・スーパースター」「コララスライン」「キヤッツ」「オペラ座の怪人」「ライオンキング」など英米の人気作を上演し次々ヒットさせ、日本にミュージカル文化を定着させた。昭和史を題材にしたミュージカル「李香蘭」「異国の丘」「南十字星」の「昭和三部作」で日中戦争、シベリア抑留、BC級戦犯を描いた。オペラの演出や長野冬季オリンピック開閉会式のプロデュース・演出も手掛けた。政財界との交流も深く、佐藤栄作、中曽根康弘らと親交があった。晩年は四季を離れ「浅利演出事務所」で演劇活動をおこなった。紀伊國屋演劇賞個人賞、芸術選奨文部大臣賞、菊池寛賞など受賞多数。元日本演劇協会会員。

▼**生田悦子氏** 女優。7月15日、虚血性心不全のため死去、71歳。福岡市出身。1966年に、松竹へ入社。同年11月に映画「命果てる日まで」でデビュー。テレビドラマ「白い巨塔」映画など多数出演、バラエティなどでも活躍した。

▼**常田富士男氏** 俳優。7月18日、脳内出血のため死去、81歳。長野県出身。劇団民藝の養成所修了後、黒澤明監督の映画「赤ひげ」や村村昌平監督の「楳丘節考」「うなぎ」などに出演した。テレビアニメ「まんが日本昔ばなし」では俳優の市原悦子との名コンビで人気を博した。

▼**橋本忍氏** 脚本家。7月19日、肺炎のため死去、100歳。兵庫県出身。会社勤めをしながら伊丹万作監督に学ぶ。1950年、芥川龍之介の小説を脚色した「羅生門」が黒澤明監督の手で映画化され、脚本家デビュー。この作

品がベネチア国際映画祭で最高賞の金獅子賞を取った。黒澤明監督の脚本チームの一員となり、「生きる」「七人の侍」「蜘蛛巣城」「隠し砦の三悪人」など計8本の黒沢作品に参加した。「張込み」「黒い画集」あるサラリーマンの証言」「ゼロの焦点」など松本清張の社会派推理小説の脚色を得意とした。橋本プロダクションを設立後の第一作「砂の器」「八甲田山」は大ヒットを記録した。テレビドラマ「私は貝になりたい」が芸術賞を受け、映画化もされた。他の脚本の代表作に小林正樹監督の「切腹」、山本薩夫監督の「白い巨塔」、岡本喜八監督の「日本のいちばん長い日」、森谷監督の「日本沈没」など。68〜70年に日本シナリオ作家協会理事長を務めた。著書に自伝「複眼の映像 私と黒澤明」がある。

▼**村上慧氏** 元NHKプロデューサー。7月19日、すい臓がんのため死去、79歳。東京都出身。1961年にNHK入局。大河ドラマ「武田信玄」、ドラマ「マスカット」「心中宵庚申」「ハイカラさん」など、多くの作品を手掛けた。

▼**タイヘイ夢路氏(本名・辻本節子)** 漫才師。7月31日、肝硬変のため死去、88歳。奈良県出身。浪曲から漫才に転じ、1951年、夫のタイヘイ洋児とコンビを組む。後に姉のタイヘイ糸路が加わり、「タイヘイトリオ」を結成。浪曲と漫才を合わせた「ロマン(浪漫)ショー」で人気を博した。バラエティ番組やドラマでも親しまれた。「レッグー三匹」「ザ・ぼんち」など多くの弟子を育てた。

▼**津川雅彦氏(本名・加藤雅彦)** 俳優。8月4日、心不全のため死去、78歳。京都市出身。祖父が「日本映画の父」と呼ばれた牧野省三監督、父は歌舞伎から映画に転じた俳優の沢村国太郎。叔父は加藤大介、兄は俳優の長門裕之という芸能一家に生まれ、幼い頃から舞台や映画に出演。1956年の映画「狂った果実」への出演を機に本格的に役者の道へ進む。二枚目俳優として人気を博した。その後、悪役や渋い脇役などに芸能を広げた。国税の査察官を演じた「マルサの女」など伊丹十三監督の映画の常連となる。映画「プライド 運命の瞬間」の東条英機、NHK大河ドラマ「葵 徳川三代」での徳川家康など歴史上の人物を多く演じた。3006年には「マキノ雅彦」名で映画「寝ずの番」を初監督。08年には叔父マキノ監督の代表作「次郎長三国志」をリメイクした。88年、日本アカデミー賞最優秀助演男優賞、06年、紫綬褒章、14年、旭日小綬章。

▼**菅井きん氏(本名・佐藤キミ子)** 女優。8月10日、心不全のため死去、92歳。東京都出身。「役者は美人がなるもの」という父親の反対を押し切って、

東京芸術劇場研究所に入所。1947年に「林檎園日記」で初舞台を踏んだ。同劇団解散後俳優座に移り、舞台で活躍する。一方、50年には「風にそよぐ草」で映画デビュー。川島雄三監督「幕末太陽伝」など多数の映画、テレビドラマに脇役として出演した。30代からふけ役を多く演じ、庶民的な下町風のお母さんやおばあさん役で親しまれた。「必殺シリーズ」の「必殺仕事人」では藤田まことふんする婿・中村圭水のしゅうとめ役を73年から20年間演じ「婿殿！」のせりふで人気を集めた。84年の伊丹十三監督「お葬式」で、日本アカデミー賞最優秀助演女優賞。2008年の「ぼくのおばあちゃん」で最高齢の初主演女優としてギネスブックに認定された。90年に紫綬褒章、96年には勲四等宝冠章を受賞した。

▼**布勢博一氏** 脚本家。8月13日、慢性腎不全のため死去、86歳。中国・奉天（現在の遼寧省瀋陽）生まれ。日本テレビ系の刑事ドラマ「ダイヤル110番」でデビュー。水谷豊主演の日本テレビ系「熱中時代」やNHK連続テレビ小説「純ちゃんの応援歌」、TBS系の「天までとどけ」など、多くのテレビドラマを手掛けたほか、映画や舞台の脚本やエッセーなども執筆した。

日本演劇協会会員

▼**石塚運昇氏（本名・石塚ゆきのり）** 声優。8月13日、食道がんのため死去、67歳。福井県勝山市出身。「ボケットモンスター」のオーキド博士役をはじめ、多くのテレビアニメや外国映画で声優を務めた。

▼**栗原省氏（本名・栗原昭三）** 劇作家。8月15日、肺がんのため死去、89歳。群馬県出身。和歌山県立箕島高校在職中の1964年、県内を中心に活動する劇団「いこら」を旗揚げし、地域の演劇振興に力を尽くした。

▼**石原武龍氏（本名・石原純一）** 脚本家。8月24日、胃がんのため死去、66歳。静岡県出身。テレビドラマ「はぐれ刑事純情派」「浅見光彦」などのシリーズや連続テレビ小説「やんちゃくれ」、アニメ映画「宇宙戦艦ヤマト復活編」などを手掛けた。

▼**リンゼイ・ケンプ氏** 英舞踏家、振付師。8月25日死去、80歳。1938年、英中部リバプール郊外生まれ。60年代に舞踏集団を旗揚げする傍ら、ダンス教室の講師も務め、英ロック歌手のデビッド・ボウイやケイト・ブッシュらを教える。ダンス、演劇、パントマイムなど、様々な表現ジャンルを融合した前衛的な舞台で知られた。たびたび来日も果たし、「真夏の夜の夢」「ONNAGATA（女方）」、「エリザベス1世」などを上演した。

▼**ニール・サイモン氏** 米劇作家。8月26日、肺炎の合併症のため死去、91

歳。1927年、ニューヨーク生まれ。米国を代表する喜劇作家として知られ代表作の「おかしな二人」や「ロスト・イン・ニューヨーク」「裸足で散歩」は映画化もされ、人気となった。トニー賞を4度、ピュリッツァー賞やゴールデングローブ賞も受けた。日本でもファンが多く、作品が上演されている。脚本家の三谷幸喜も敬愛し、戯曲の演出も手掛けた。

▼**麻生美代子氏（本名・左近允美代）** 声優。8月25日、老衰のため死去、92歳。東京都出身。アニメ「サザエさん」で磯野フネ役の声を1969年の初回放送から15年まで46年間務めた。「アルプスの少女ハイジ」の執事ロツテンマイヤー役など多くのアニメ作品で声優を務め、クイズバラエティショー番組「和風総本家」のナレーションも担当した。

▼**藤田六郎兵衛氏（本名・藤田昭彦）** 能楽笛方藤田流十一世宗家。8月28日、肝臓がんのため死去、64歳。名古屋出身。祖父の元で修行し、5歳で初舞台。1980年に家元、82年に「六郎兵衛」を襲名。名古屋を拠点に能楽振興に努め、西洋音楽にも精通し、名古屋音楽短期大学声楽科を卒業後、5年間母校のオペラ研究授業の助手を務める。史上初めて能と狂言、文楽をコラボレーションした狂言風オペラ「フィガロの結婚」の脚本・演出を手掛けるなど、伝統芸能の新境地を開いた。11年に観世寿夫記念法政大学能楽賞。主宰する能会「萬歳楽座」が11年度の文化庁芸術祭大賞を受賞した。平成27年度文化庁文化交流使をつとめた。

▼**青木鈴鈴氏（本名・青木静夫）** 尺八演奏家。8月21日、肺炎のため死去、82歳。東京都出身。初代青木鈴鈴に師事。1975年、二代鈴鈴を襲名。古典、新作ともに幅広く演奏。米国、中国公演にも取り組んだ。99年に人間国宝に認定。今年5月、長男の彰時が三代鈴鈴を襲名し、自らは鈴翁に改名した。

▼**上原まり氏（本名・柴田洋子）** 元宝塚歌劇団女優、筑前琵琶奏者。8月29日、死去、71歳。神戸市出身。1968年、宝塚歌劇団に入団。娘役トップとして「ベルサイユのばら」のマリー・アントワネット役などを務めた。81年に「新源氏物語」での藤壺役を最後に退団。筑前琵琶・旭会総師範の一人娘で、退団後は琵琶語り奏者として、「平家物語」や「源氏物語」などのオリジナル作品を演奏した。

▼**馬場順氏** 演劇研究者。8月31日、心疾患のため死去、84歳。岩手県出身。NHKにおいて長く伝統芸能番組の演出・制作に携わった。NHK文化センタープロデューサー、同講師。伝統歌舞伎保存会事務局長、（公社）日本

舞踊協会事務局長などを歴任。著書に「人と芸談」「歌舞伎の森」ほか

日本演劇協会会員

▼鶴澤寛治氏(本名・白井康夫) 人形浄瑠璃文楽三味線。9月5日、死去、89歳。京都市出身。1943年、後に人間国宝になった父、六代目鶴澤寛治に入門。鶴澤寛子と名乗る。その後、寛弘を経て56年に八代目竹澤国六を襲名。97年、人間国宝に認定。2001年1月に七代目寛治を襲名した。80歳を超えても床に上がり続けた。大阪の国立文楽劇場で開かれた夏休み文楽特別公演の最終日(8月7日)の「新版歌祭文 野崎村の段」が、最後の出演となった。ふつととした艶のある音色と端正な芸風で、時代物や世話物を幅広くこなした。99年に勲四等旭日小受章。

▼バート・レイノルズ氏 米俳優。9月6日、死去、82歳。ミシガン州で生まれ、フロリダで育った。大学時代はアメリカンフットボールの選手として活躍。卒業後映画界入り。鍛え抜かれた肉体と口ひげがトレードマークで70・80年代に人気者となった。代表作に、「トランザム7000」や「キャノンボール」「プギナイツ」などがある。

▼千賀ゆう子氏 女優・演出家。9月9日、死去、75歳。平家を語るシリーズ等で愛好家に人気があった。

▼花柳寿南海氏(本名・柴崎照子) 日本舞踊家。9月11日、老衰のため死去、93歳。東京都出身。3歳で踊りをはじめ、1932年、初舞台。42年に花柳寿南海の名を許される。46年、花柳流家元の二世花柳寿輔の内弟子となり頭角を現した。古典伝承と創作の両面で舞踊界を支え、モダンダンスやインド舞踊など他ジャンルとも交流し、後継者の育成にも尽くした。67年から23年間、「おどりを研究する会」を続け、「京鹿子娘道成寺」「保名」などの古典作品に現代的な感覚を盛り込み、創作では「吾輩は猫である」「武蔵野」「湯女群像」などの秀作を生み出した。66年、芸術選奨文部大臣賞、92年、日本芸術院賞、2004年、人間国宝に認定。05年、文化功労者に選ばれた。

日本演劇協会会員

▼小藤田千栄子氏 映画・演劇評論家。9月11日、大動脈解離のため死去、79歳。東京都出身。早稲田大学文学部卒業。映画雑誌「キネマ旬報」編集部勤務を経てフリーに。主に女性映画やミュージカルを中心に評論活動を行った。著書に「ミュージカル・コレクション」など。

▼樹木希林氏(本名・内田啓子) 俳優。9月15日死去、75歳。2005年に乳がんの手術を受け、その後全身にがんがあると公表。東京都出身。1996

1年に文学座に入り、悠木千帆の芸名でデビュー。テレビドラマ「七人の孫」のお手伝いさん役に有名になった。文学座を退団後、主にテレビドラマ「時間ですよ」「寺内貫太郎一家」「ムー一族」などの高視聴率ドラマでコミカルにしてユニークな脇役として存在感を発揮した。77年には芸名を樹木希林に改めた。映画にも多く出演し「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」と「わが母の記」で日本アカデミー賞最優秀主演女優賞を受賞した。富士ファイルのCMなどでも親しまれた。2008年に紫綬褒章、14年に旭日小綬章。17年に神奈川文化賞受賞

▼持田諒氏 劇作家・演出家。9月15日、がんのため死去、79歳。島根県出身。国立文楽劇場支配人・国立劇場舞台技術部長。岐阜女子大学教授を歴任。

日本演劇協会会員

▼志水正義氏 俳優。9月27日、すい臓がんのため死去、60歳。熊本県玉名市出身。俳優水谷豊のマネジャーを経て、テレビ朝日系ドラマ「相棒」に刑事役で出演。特命係の様子をのぞき込むシーンでお茶の間に親しまれた。

▼小野竜之介氏 脚本家。9月27日、肺炎のため死去、84歳。福岡県出身。「新幹線大爆破」「真田風雲録」などの映画やテレビ「鉄道公安官」など多くの脚本を手掛けた。

▼サルバドル・タリ氏(本名・川筋哲朗) 俳優。9月27日、心不全のため死去、70歳。北海道出身。寺山修司が主宰した「演劇実験室・天井桟敷」に入門、寺山の映画にも出演した。寺山の死後は天井桟敷のメンバーと「演劇実験室●万有引力」を立ち上げて活動した。

▼藤田洋氏 演劇評論家。9月28日、敗血症のため死去、84歳。東京都出身。青山学院大学を卒業後、月刊誌「演劇界」の編集長、社長を経てフリーに。1993年から第二国立劇場(現・新国立劇場)の初代演劇芸術監督を務めた。菊田賞、芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章、旭日小綬章、「遍歴」女優山田五十鈴「猿の助歌舞伎 ヨーロッパへ宙乗り」「演劇年表」明治歴評判記など著書多数。

日本演劇協会会員

▼三遊亭小金馬氏(本名・梅本勝久) 落語家。10月1日、死去、69歳。1968年、三遊亭金馬に入門。82年に真打に昇進して三代目小金馬を襲名した。川柳や都々逸などの歌作りも得意とした。

▼古川卓己氏 映画監督。10月4日、心不全のため死去、101歳。東京都出身。1955年、三国連太郎主演「地獄の用心棒」で初監督。石原裕次郎のデビュー作「太陽の季節」なども監督。「鬼平犯科帳」など、テレビドラマも多

く手掛けた。

▼折田克子氏 舞踊家。10月5日、小細胞肺がんのため死去、80歳。東京都出身。舞踊家の母、石井みどりに師事し、親子2代にわたり日本の現代舞踊をけん引すると共に、日台交流に尽力した。2003年に紫綬褒章、09年に旭日小綬章。

▼大原誠氏 演出家。10月6日、肺がんのため死去、80歳。京都府出身。1960年NHKに入局。大河ドラマ「花の生涯」で助監督を、「草燃える」「徳川家康」「元祿繚乱」などで演出を務めた。90年の「不熟につき」で芸術選奨文部大臣賞。99年に退職後はフリーの演出家として民放ドラマを手掛けた。

▼モンセラート・カバリエ氏 スペインのオペラ歌手。10月6日、死去、85歳。1933年、バルセロナの貧しい家庭で生まれ、地元の名門リセウ音楽院で学んだ。65年、ニューヨークのカーネギーホールで上演されたオペラ「ルクレチア・ボルジア」に代役で出演し、脚光を浴びた。力強い歌声と優れた歌唱技術で「ばらの騎士」の元帥婦人など幅広い役をこなし、ソプラノ歌手としての地位を築いた。英国のロックバンド「クイーン」のフレディ・マーキュリーとデュエットで歌った「バルセロナ」が92年のバルセロナ五輪のテーマソングとなったことでも知られる。

▼藤野級井氏 文学座演出部所属 舞台美術家。10月7日、敗血症のため死去、83歳。東京都出身。1955年に文学座の技術研究生として入座。不条理劇や実験的な翻訳劇、清水邦夫や金杉忠男の作品世界に拮抗するような斬新で大胆な装置をつくる一方、「ガラスの動物園」のような具象的で繊細な装置も作り上げた。小道具等特殊美術製作の成果が評価されて、第10回「ニッセイ・バックステージ賞」を受賞した。

▼田中信夫氏 声優。10月17日、食道がんのため死去、83歳。東京都出身。米ドラマ「コンバット」のサンダース軍曹役や「スパイ大作戦」の吹き替えに加え、テレビ番組「川口浩探検隊シリーズ」「TVチャンピオン」のナレーションなども務めた。

▼穂積隆信氏(本名・鈴木隆信) 俳優。10月19日、胆のうがんのため死去、87歳。静岡県出身。俳優座養成所を経て、1959年に今村昌平監督「あんなちゃん」で映画デビュー。非行に走る娘と親の葛藤を描いた実話「積木くずし」親と子の「二百日戦争」(82年)は、約300万部のベストセラーになりドラマ化されて大ヒットするなど、社会現象を巻き起こした。

▼江波杏子氏(本名・野平香純) 俳優。10月27日、肺炎腫の急性増悪のため死去、76歳。東京都出身。1959年、大映に入社。「おとうと」で映画デビュー。若尾文子の代役で出た映画「女の賭場」が大ヒットし、「女賭博師」シリーズが人気を集めた。73年「津軽じよんがら節」でキネマ旬報主演女優賞。映画やテレビドラマで長く活躍し、NHK連続テレビ小説「ちりとてちん」や「べっぴんさん」などにも出演していた。

▼角替和枝氏(本名・柄本和枝) 俳優。10月27日、原発不明がんのため死去、64歳。静岡県出身。劇団つかこうへい事務所を経て、劇団東京乾電池に所属。NHK連続テレビドラマ「ハイカラさん」「私の青空」「おひさま」などドラマやバラエティー、映画、舞台に多数出演、活躍した。夫は俳優の柄本明。長男、次男、長男の妻も俳優。

▼吉田貞次氏 映画撮影監督。10月28日、老衰のため死去、100歳。京都市出身。戦時中に満州映画協会に参加。戦後は東映で内田吐夢監督、宮本武蔵「二刀流開眼」などの時代劇映画や、深作欣二監督の「仁義なき戦い」シリーズなど多数の映画を撮った。日本映画撮影監督協会名誉会員。

▼森田雄三氏 演出家。10月29日、肺炎のため死去、72歳。石川県出身。1980年からイッセー尾形の一人芝居の演出を長く手掛けた。近年はワーイッセー尾形を全国各地で行っていた。著書に「イッセー尾形のナマ本」(共著「イッセー尾形の人生コーナング」(監修)など多数)。

▼山形節子氏(本名・小林董子) 河東節浄瑠璃の人間国宝。10月30日、心不全のため死去、98歳。札幌市出身。歌舞伎十八番、助六出縁江戸桜で知られる江戸浄瑠璃「河東節」を演奏する十寸(ますみ)会の芸芸総代を務めた。1994年に人間国宝に認定された。

▼レイモンド・チョウ氏 香港の映画プロデューサー。11月2日、死去、91歳。香港生まれ。ブルース・リーやジャッキー・チェンら香港アクション映画スターを育て、「香港映画の父」とも呼ばれる。

▼蓬萊泰三氏 脚本家、作詞家。11月5日、肝内胆管がんのため死去、89歳。兵庫県出身。NHKのテレビドラマ「中学生日記」や教育番組「できるかな」などの脚本を手掛ける。作詞家としては「チョコタン」など数多くの合唱組曲や合唱曲を手掛けた。

▼吉田剛氏 脚本家。11月17日、死去、83歳。堺市出身。関西大学卒業後、松竹で小林正樹、小津安二郎両監督らの下で演出助手を務めた後、フリーとなりドラマを中心に脚本を多数手掛けた。主な作品にドラマ「必殺シリーズ」、

映画「敦煌」など。映画「復活の朝」の監督も務めた。

▼宮崎晃氏 映画監督・脚本家。11月25日、胆管がんのため死去、84歳。東京都出身。東京外国語大学卒業後、松竹に入社。野村芳太郎や山田洋次の助監督を務める。1971年、「泣いてたまるか」で監督デビュー。「男はつらいよ」シリーズでは「望郷編」などの脚本を山田監督と共同執筆した。「あらいぐまラスカル」「トム・ソーヤの冒険」などアニメ作品の脚本を数多く手掛けた。

▼ベルナルド・ベルトルツチ氏 映画監督・脚本家。11月26日、死去、77歳。イタリア王国、バルマで生まれる。ローマ大学在学中にピエル・パオロ・パゾリーニ監督のデビュー作「アツカトーネ」の助監督を務めた。1962年、「殺し」で映画監督としてデビュー。1964年に発表した2作目「革命前夜」は第17回カンヌ国際映画祭批評家週間部門で新評論家賞を受賞した。1970年には「暗殺の森」で全米映画批評家協会賞の監督賞を受賞。1987年には「ラストエンペラー」で第60回アカデミー賞作品賞・監督賞など多数の賞を受賞した。闘病中の2011年には第64回カンヌ国際映画祭で名誉パルム・ドールを受賞。

▼辻村真人氏(本名・辻村眞人) 声優。11月27日、死去、88歳。東京都出身。アニメ「忍たま乱太郎」の学園長(初代)や劇場版「風の谷のナウシカ」のジルの声などを務めた。俳優としても映画「マルサの女」「タンポポ」(日本一のほら吹き男)などにも出演した。

▼赤木春江氏(本名・小田章子) 俳優。11月29日、心不全のため死去、94歳。旧満州(現・中国東北部)生まれ。1940年、松竹入社。59年に森繁久彌の自由劇団に参加し、映画や舞台の名脇役として活躍。テレビではホームドラマに欠かせない俳優となり「渡る世間は鬼ばかり」では嫁をいびるしゅうとめ役を好演。学園ドラマ「3年B組金八先生」では温厚な校長役を演じ存在感を示した。舞台「お嫁に行きたい!!」「三婆」で菊田一夫演劇賞。2013年の映画「ペコロスの母に会いに行く」に88歳で主演し、「世界最高齢での映画初主演女優」としてギネス世界記録に認定された。人生相談やエッセーの執筆も手掛け、著書に「おばあちゃんの家事秘伝」。93年に紫綬褒章。98年に勲四等宝冠章。

▼黒澤満氏 プロデューサー。11月30日、肺炎のため死去、85歳。1955年に日活入社。77年、東映系の制作会社(後のセントラル・アーツ)に移り、松田優作を主演に、映画「最も危険な遊戯」や連続ドラマ「探偵物語」を製作。

松田のマネジメントも担当、「家族ゲーム」「それから」で松田を演技派へと導いた。80年代にはオシャレな刑事ドラマ「あぶない刑事」という人気シリーズを立ち上げた。

▼三遊亭小円朝氏(本名・高橋秀帆) 落語家。12月15日、肺炎のため死去、49歳。東京都出身。1996年、三遊亭円橋に入門。05年、真打ちに昇進し、四代目小円朝を襲名した。

▼藤田淑子氏 声優。12月28日、浸潤性乳がんのため死去、68歳。中国・大連出身。テレビアニメ「休さん」の休さん役や「キテレツ大百科」のキテレツ役、などを演じた。